津市中消防署西分署解体工事

図番	名　　称	図番	名　　称
A- 1	解体工事　特記仕様書-1	A-31	訓練塔　断面詳細図
A- 2	解体工事　特記仕様書-2	A-32	訓練塔　基礎伏図　基礎リスト
A- 3	配置図　付近見取り図	A-33	訓練塔　柱　梁リスト
A- 4	仕上表	A-34	屋外付帯工事　配置図
A- 5	1階平面図	A-35	訓練塔付属施設A　断面詳細図
A- 6	2階平面図　屋根伏図	A-36	訓練塔付属施設B　断面詳細図
A- 7	立面図	A-37	屋外付帯工事　詳細図-1
A- 8	矩計図	A-38	屋外付帯工事　詳細図-2
A- 9	断面詳細図-1	A-39	総合仮設計画
A-10	断面詳細図-2	A-40	造成計画図
A-11	断面詳細図-3		
A-12	断面詳細図-4	E-1	電気設備　配置図
A-13	展開図-1	E-2	電気設備　1階平面図
A-14	展開図-2	E-3	電気設備　2階平面図　屋根伏図
A-15	展開図-3	E-4	電気設備　訓練塔平面図
A-16	展開図-4		
A-17	展開図-5	M-1	給排水衛生設備　平面図
A-18	1階天井伏図	M-2	給排水衛生設備　浄化槽詳細図
A-19	2階天井伏図	M-3	空調設備　オイル主タンク詳細図
A-20	建具指示図	M-4	空調換気設備　平面図
A-21	建具表-1		
A-22	建具表-2		
A-23	基礎伏図　基礎リスト		
A-24	梁伏図　スラブリスト		
A-25	柱　梁リスト		
A-26	軸組図-1		
A-27	軸組図-2		
A-28	階段その他配筋図		
A-29	訓練塔　平面図　立面図-1		
A-30	訓練塔　平面図　立面図-2		

NAGAOKA
一級建築士事務所
長岡　設計

原図：A2

令和　　年　　月

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

解 体 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ．工事名　　津市中消防署西分署解体工事

Ⅱ．工事概要

1　工事場所　津市　一色町　地内

2　工事内容

棟名称	津市中消防署西分署	訓練塔
構造	RC造　2F	RC造　6F
建築面積	365㎡	51㎡
延べ面積	458㎡	201㎡
工事項目	解体工事一式（設備撤去含む）	

Ⅲ．解体工事仕様

1　共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、令和4年版）による。

2　特記仕様

1)　項目は、番号に〇印の付いたものを適用する。

2)　特記事項は、〇の付いたものを適用する。

3)　項目欄に記載の（　）内表示番号は解共仕の該当項目等を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を適用する。 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（令和4年版） ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」（令和4年版） ⊙国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説」（最新版） ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事標準詳細図」（令和4年版） ⊙建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 ⊙その他関係法令
	② 発生材の処理等 (1.3.10) (4.4.1) (5.4.1)	⊙　本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事等であって、その規模が、建設リサイクル法施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 ・ 分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
建築設備・内装材等	⊙ 有　・　無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
屋根ふき材	⊙ 有　・　無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
外装材・上部構造部分	⊙ 有　・　無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	⊙ 有　・　無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
その他（　　）	・ 有　・　無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用

引き渡しを要するもの　⊙ 無　　・ 金属類　　・ PCB含有物　　・（　　）

特別管理産業廃棄物　　⊙ 有（　石綿含有建材　）

処理方法（　　５章による　　）

木材の縮減　　・ 実施する

（最も近い再資源化施設までの距離が50kmを超える場合に限る）

再資源化し現場で利用する建設廃棄物　・（　　）

再資源化を図るもの

⊙ コンクリート塊

・ アスファルトコンクリート塊

⊙ 建設発生木材

⊙ 金属類

・ 資源有効利用促進法に基づく指定再資源化製品

・ 資源有効利用促進法に基づく指定再利用促進製品

・ 廃棄物処理法に基づく水銀使用製品産業廃棄物

・ 硬質ポリ塩化ビニル管及び継手

・ ガラス

引渡しを要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資源の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

③ 建設副産物情報交換システムの利用

受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」（建設資材の搬入がある場合）及び「再生資源利用促進計画書」（建設副産物の搬出がある場合）を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

また、工事完了後には「再生資源利用実施書」（建設資材の搬入があった場合）及び「再生資源利用促進実施書」（建設副産物の搬出があった場合）をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。

なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

④ 三重県産業廃棄物税

本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の４月１日から８月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して、支払請求を行うことができる。　なお、この期間を超えて請求することはできない。

また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

5　電気保安技術者 (1.3.3)

・　配置する

6　技能士 (1.6.2)

職種別に可能なものについては積極的に活用のこと

⑦ 疑義

設計図書に明記のない場合、または、疑義が生じた場合は、監督員と協議し、その指示を受けてから施工すること。

⑧ 施工条件 (1.3.5)

⊙　監督員と協議し決定する。

施工可能日	・ 指定なし	・ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり	
施工可能時間帯	・ 指定なし	・ 時　～　時	
部位別の施工順序	・ 指定なし	・（　　）	
工事車両の駐車場	・ 指定なし	⊙ 図示（図面番号：A-26　）	
資機材置場	・ 指定なし	⊙ 図示（図面番号：A-26　）	

⑨ 官公庁手続

工事に必要な手続きは受注者が速やかに処理し、この手続きに関する諸費用は受注者負担とする。

⑩ 騒音・振動の防止

重機は「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑪ 危険災害の防止

1) 工事期間中、現場内入場者、近隣居住者および周辺建物に危害を与えぬよう注意すること。万一、紛争が生じた場合は、受注者が誠意をもって解決すること。

なお、近隣等との折衝は、あらかじめその概要を監督員に報告し、その経過については記録し、遅滞なく監督員に報告する。

2) 重機搬出入時、発生材搬出時、仮設材搬出入時には、交通整理のための誘導員を配置すること。

⑫ 工事進入路

重機搬出入、産業廃棄物搬出経路については事前に施工計画書を提出し、監督員の承認を得ること。また、工事現場から搬出入する土砂により工事用進入路を汚した場合は、速やかに清掃を行うこと。

⑬ 工事写真

1) 着工前 ： 解体建物・敷地周辺・付近道路・工作物の撮影を行うこと。

2) 工事中 ： 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版）に従い撮影するほか、監督員との協議による。

なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(令和5年3月1日付け国営建技第14号」による。

⑭ 完成写真

デジタルカメラで撮影し、全てＬ版相当サイズで印刷する。

（Ａ４版用紙に１ページあたり３枚）　１部

写真は着工前・施工中・完成を同一場所から黒板なしで撮影すること。

⑮ 事故の発生時

工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により、工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、提出すること。

また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑯ 産業廃棄物

施工計画書には、工事現場から産業廃棄物処理場までの運搬経路、産業廃棄物処理契約書の写し、産業廃棄物収集運搬業者及び産業廃棄物処理業者許可書の写し、その他監督員の指示するものを添付すること。

⑰ 不正軽油の使用の禁止

1) 一般事項

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。

2)調査の協力

受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。

3)是正措置

受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は、下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

⑱ 地下残存物の確認

中間検査又は完成検査において、地下残存物の確認を受けること。

確認時期は、監督員と協議し決定する。

⑲ 損傷を与えた場合の対応

解体工事により解体建築物以外の建築物や舗装、桝等に損傷を与えた場合には、監督員に報告するとともに、受注者の責任において現状復旧を行うこと。

⑳ その他

⊙作業着手までの期間に調査及び施工計画書等を作成し、市監督員の承諾を得ること。

⊙作業着手までの調査は、事前に施設管理者及び、市監督員と協議するものとする。

⊙敷地内、周辺での作業・通行等は周辺住民の安全確保に十分配慮すること。

⊙安全対策のため、作業終了時及び休工時は出入口を施錠すること。

⊙作業着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員の立合いのもと写真等に記録しておくこと。

⊙設計書に明記がなくとも、機能上及び構造上当然必要と認められるもの、並びに、取合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお、内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。

⊙工事用車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。

⊙緊急且つ必要な場合において、市監督員以外（施設管理者等）が直接受注者に指示することがある。その場合は当該指示に従うこと。

⊙廃材、残土等の搬出にあたっては、周辺道路を汚さないこととし、当然のことながら無理な積込みは行わないこと。

⊙工事車両等の出庫時は、タイヤ清掃等を行うなど、工事敷地からの土砂の流出抑制に心掛けること。

⊙喫煙は限られた場所のみとし、現場内は禁煙とする。

⊙建物付属物については特記なき限り記載の有無に関わらず全て撤去処分とする。

⊙特記無き植栽は、全て伐採・伐根とし、業者処分とする。

⊙埋設配管については特記なき限り記載の有無に関わらず撤去処分とする。

⊙本工事の仕上げ材には、アスベスト含有の材料があり撤去及び処分に際しては、環境省からの「非飛散性アスベスト廃棄物の取り扱いに関する技術指針」に基づいて行うものとする。

⊙建設機械及び重機を設置・使用する際は、予め地盤や地耐力の確認を行うこと。支持地盤が不安定なことが確認された場合は鉄板敷きなどの必要な措置を行い安全に配慮して作業を行うこと。

⊙足場は、倒壊がないように堅固に組み立てること。

⊙台風等により強風が考えられる場合は、足場のシート撤去や部分補強をあらかじめ行うこと。

⊙本工事の敷地内に騒音振動測定器（データ収録可能）を１箇所設置すること。なお、本工事施工中は常時設置とし位置については、市監督員と協議の上、決定すること。※レックス　RTK-27R（NL-21、VM-53A、RTK-27R）同等

⊙石綿含有建材の事前調査結果の報告については、市監督員に報告すると共に三重労働局および津地域防災総合事務所へ報告すること。また報告については「石綿事前調査結果報告システム」を使用すること。

⊙工事施工日は常時交通誘導員を設置すること。

⊙現場着手は、周辺の家屋調査終了後着手すること（5月末に終了予定）。

章	項目	特記事項

② 仮設工事

① 仮設トイレ

構内既存の施設　・　利用できる　⊙　利用できない

② 仮囲い

位置　⊙　図示（図面番号：　A-26　）　・　その他（　　）
仕様　⊙　図示（図面番号：　A-26　）
・　成形鋼板H=3000　⊙　成形鋼板H=2000　・　その他（　　）

3　監督員事務所
(2.3.1)

・　設置する。

監督員事務所の規模（単位：㎡）

適用					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督職員事務所の仕上げ

部 位 等	仕　上　げ
床	合板張り又はビニール床シート張り
内壁・天井	合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り

備品等の設置

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	冷暖房機器
数量	個	個	台	台	台

④ 工事用水

構内既存の施設
⊙　利用できる（⊙　有償　・　無償）　・　利用できない
取出位置　・図示（図面番号：　　）

⑤ 工事用電力

構内既存の施設
・　利用できる（・　有償　・　無償）　⊙　利用できない
本工事で新規受電または既設電気回路に接続し、通電した時から、
工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。

⑥ 騒音・粉じん等の対策
(2.2.1)

⊙　設ける　・　防音パネル　⊙　防音シート　・　養生シート
適用範囲、高さ等　図示（図面番号：　　）
・　設けない

⑦ 仮設鉄板敷

⊙工事用進入路の養生として、鉄板(t=22)を敷き、養生を行うこと。
位置　⊙図示（図面番号：A-26　）

8　山留めの撤去
(2.4.3)

鋼矢板等の抜き後の処理
・砂充填　・（　　）

⑨ 散水養生

解体作業時には粉塵等の飛散を防ぐため、散水養生を行うこと。

⑩ 足場

設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組み立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。
つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものについては、組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。
なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。
1）　足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
2）　労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
3）　全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

③ 解体施工

① 浄化槽、排水槽等
(3.2.1)

汚水、汚物の回収、洗浄、消毒等
・　行う　⊙　行わない

② ｵｲﾙﾀﾝｸ、ｻｰﾋﾞｽﾀﾝｸ配管内等(3.2.1)

廃油の回収、洗浄等
・　行う　⊙　行わない

③ 杭の撤去(3.9.2)

杭の撤去
⊙　行う　・　行わない
解体方法
⊙　引抜き工法　（　・　振動　⊙　ケーシング　・（　　））
・　破砕
・　図示（図面番号：　　）
引き抜いた杭の処理
・　図示（図面番号：　　）

④ さく、照明設備等
(3.10.1)

さく、照明設備等の付属物の解体
⊙　図示（図面番号：　E-1　）

⑤ 樹木等
(3.11.1)

樹木の伐採抜根及び移植
⊙　行う　図示（図面番号：　A-34　）
・　行わない

⑥ 地下埋設物及び埋設配管
(3.12.1)

地下埋設物及び埋設配管の解体
⊙　行う　図示（図面番号：　M-6　）
・　行わない

⑦ 解体撤去後の整地
(3.13.1)

・砕石(C-40)にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。
・再生クラッシャラン(RC-40)にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。
・山砂にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。
⊙　図示（図面番号：　A-40　）

④ 建設廃棄物の処理

1　産業廃棄物広域認定制度(4.4.2)

特例による広域的処理　・　図示（図面番号：　　）

2　最終処分
(4.4.3)

最終処分する廃棄物　・（　　）
最終処分場　・（　　）

③ 処理に注意を要する建設廃棄物
(4.5.1)

建設廃棄物の種類	処理方法
・ＣＣＡ処理木材	
⊙(1)アスベスト含有石膏ボード	
・(2)ひ素、カドミウム含有石膏ボード	
・(1)(2)以外の石膏ボード	・埋立処分　・再資源化

④ 水銀使用製品産業廃棄物

⊙　蛍光ランプ　⊙　ＨＩＤランプ　・　（　　）
「水銀廃棄物ガイドライン」（第3版）（令和3年3月　環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

5　水銀含有ばいじん等

・　燃え殻　・　鉱さい　・　ばいじん　・　汚泥
・　廃酸　・　廃アルカリ
「水銀廃棄物ガイドライン」（第3版）（令和3年3月　環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

⑥ 石綿含有建材の除去及び処理

① 施工調査
(1.4.1)

石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、石綿含有建材の使用について、目視、設計図書及び貸与資料等により書面調査及び現地調査し、監督職員に報告すること。
調査範囲　（⊙　設計図書すべて　・　図示　　）
貸与資料　（⊙　石綿有無の調査報告書　・　　）
・　分析による石綿含有建材の調査
分析対象　ｱｸﾁﾉﾗｲﾄ、ｱﾓｻｲﾄ、ｱﾝｿﾌｨﾗｲﾄ、ｸﾘｿﾀｲﾙ、ｸﾛｼﾞﾗｲﾄ、ﾄﾚﾓﾗｲﾄ

材　料　名	定性分析 ・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2	定量分析 ・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4 ・JIS A 1481-5
	・　箇所数（　　）	・　箇所数（　　）
	・　箇所数（　　）	・　箇所数（　　）
	・　箇所数（　　）	・　箇所数（　　）
	・　箇所数（　　）	・　箇所数（　　）

② 石綿粉じん濃度測定
(6.1.3)

採取箇所　・図示（図面番号　　）　サンプル数　１箇所あたり３サンプル

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数
⊙	測定１	処理作業前	処理作業室内	計　２　点
・	測定２		調査対象室外部の付近	計　　点
⊙	測定３	処理作業中	処理作業室内	計　２　点
⊙	測定４		セキュリティーゾーン入口	計　２　点
⊙	測定５		負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/s以下の位置 計　２　点
⊙	測定６		処理作業室外（敷地境界）	４方向各１点
⊙	測定７	処理作業後(ｼｰﾄ養生中)	処理作業室内	計　２　点
⊙	測定８		調査対象室外部の付近 処理作業室外（敷地境界）	４方向各１点

測定方法

	測定 3	測定 1,2,4,5,7	測定 6,8
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	⊙1　・（　　）	⊙5　・（　　）	⊙10　・（　　）
試料の吸引時間(min)	⊙5　・（　　）	⊙120　・（　　）	⊙240　・（　　）

3　石綿含有吹付け材の除去・処分
(6.3.2)
(6.3.3)

除去対象範囲　・　図示（図面番号：　　）
除去工法　・　解共仕[6.3.2]　・　図示（図面番号：　　）
除去した石綿含有吹付材等の飛散防止措置
・　固形化　・　湿潤化
除去した石綿含有吹付材等の処分
・　埋立処分（管理型最終処分場）　・　中間処理（溶融又は無害化処理）

④ 石綿含有保温材等
(6.4.1)
(6.4.3)

除去対象範囲　⊙　図示（図面番号：A-4,5,6 ）
除去した石綿含有保温材等の処分
⊙　埋立処分（管理型最終処分場）　⊙　中間処理（溶融又は無害化処理）

⑤ 石綿含有成形板
(6.5.1)
(6.5.3)

除去対象範囲　⊙　図示（図面番号：A-4,5,6 ）
処分方法（石綿含有せっこうボードを除く）
⊙　埋立処分（安定型最終処分場）　⊙　中間処理（溶融又は無害化処理）

6　石綿含有仕上塗材
(6.6.1)
(6.6.4)

除去対象範囲　・　図示（図面番号：　　）
除去工法　・　図示（図面番号：　　）
除去した石綿含有仕上塗材等の処分
・　埋立処分（安定型最終処分場）　・　中間処理（溶融又は無害化処理）
※「石綿含有仕上塗材の除去等作業における石綿飛散防止対策について」（平成29年5月30日付け　環水大大発第1705301号）及び「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」（平成28年4月28日　国立研究開発法人建築研究所）に基づき適切に処理すること。

⑦ 除去等作業の結果報告

除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

⑦ 特殊な建設副産物の処理

1　施工計画調査
(7.1.3)

分析調査
・　行う　調査範囲　図示（図面番号：　　）
・　行わない

② 特殊な建設副産物
(7.3.1)

特殊な建設副産物の種類等

種類	適用箇所	回収及び処分
⊙フロン		⊙（　回収及び破壊処理　）
・ハロン		・（　　）
		・（　　）
		・（　　）

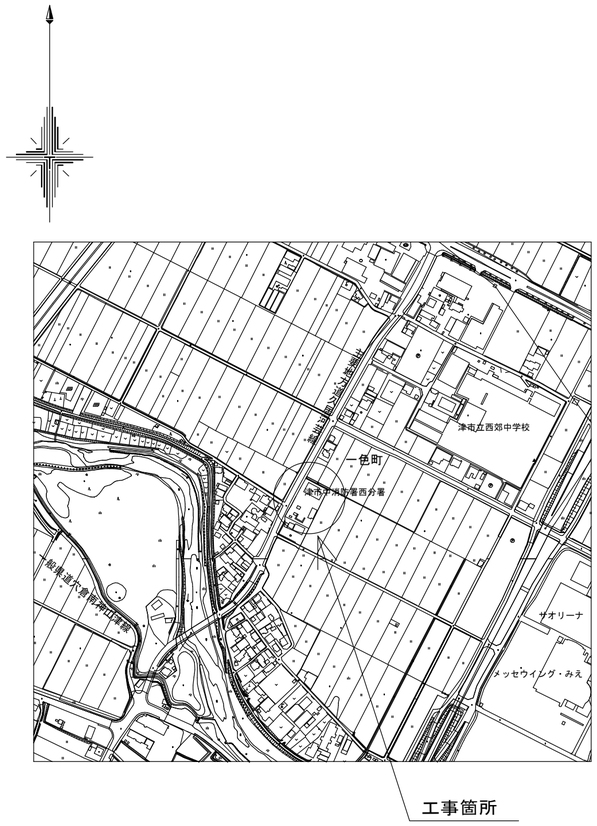
③ フロン類の回収

冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編2.4.3)により、次の書類の写しを監督員に提出すること。
⊙フロン回収行程管理票
⊙特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）
撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集める作業（ポンプダウン）を行うこと。
パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても
上記に準じて、冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。

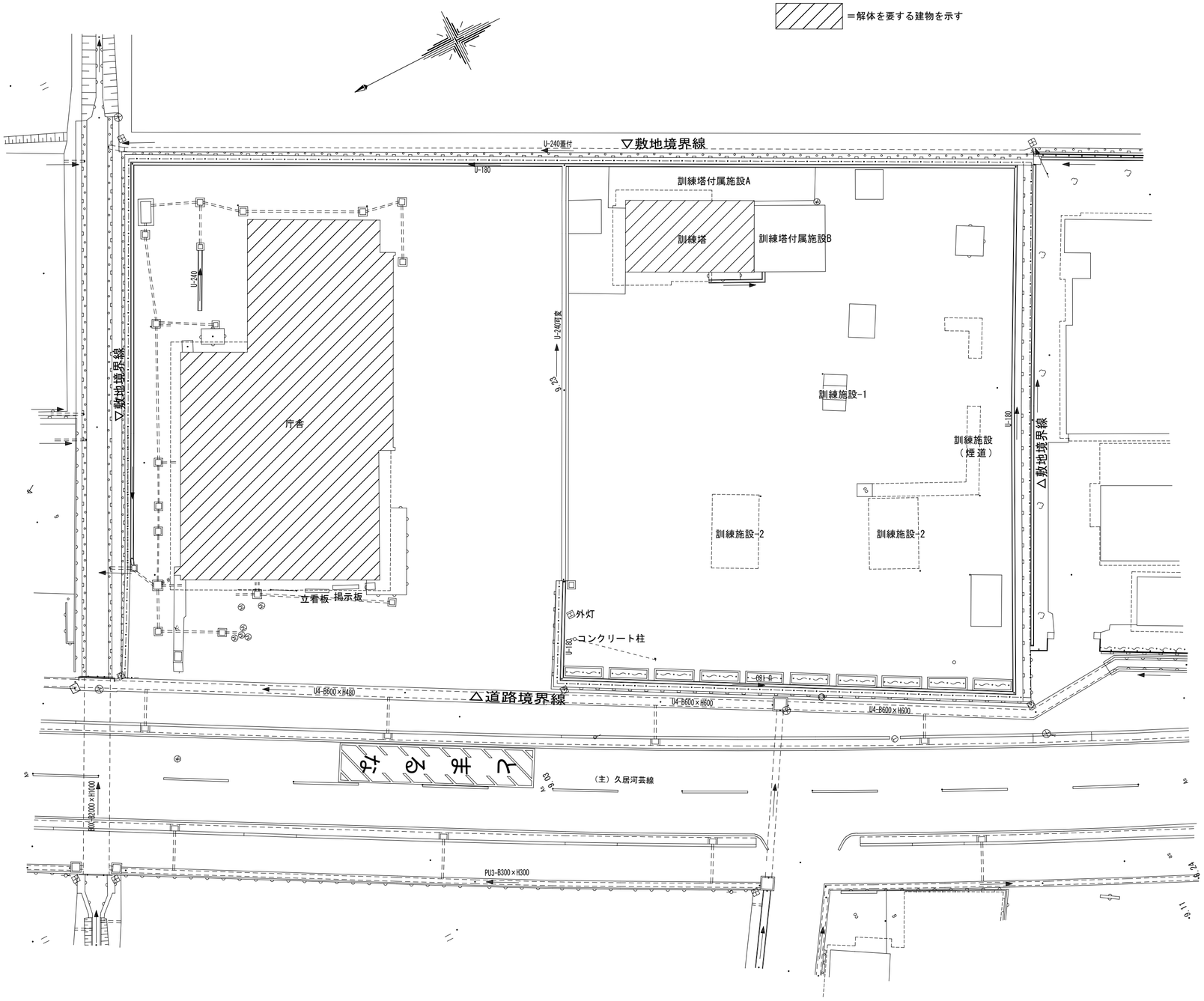
④ フロン回収

当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の回収作業を行う場合は
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(平成27年4月1日施行)等の
関係法令を遵守し、第１種フロン類充填回収登録業者が行うこと。

参考図



付近見取り図　1/2000



NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事		令和　年　月
	配置図　1/200　付近見取り図　1/2000	原図：A2	A-3
			管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

外部仕上表

屋　　根	ベランダ及び車庫屋上： 均しモルタルｔ＝20下地ARウレタンHD工法防水層押え軽量コンクリート（発泡） ｔ＝60打ち 保護モルタルｔ＝30塗り　塩ビシート（車庫屋上） ウレタン塗膜防水（２階ベランダ）	○車庫内衣掛け	消火衣掛L=4000、L2500各１個　　救急衣掛L=2500　１個
	2F屋根及び東平家屋根： 均しモルタルｔ＝20下地ARウレタンND工法防水層の上 保護モルタルｔ＝40塗り　塩ビシート防水	○厨房用備品	調理流し台（SUS製KJ-3A型）コンロ台（SUS製KJ-GA型）　吊り戸棚（公団A型）水切り棚（サンウエーブSR-A型）　同等品
	庇屋根：防水モルタル塗り　+ウレタン塗膜防水	○事務室備品	行事黒板（1200ｘ900）掲示板（1800ｘ900）　　地袋戸棚（W=500L=4940H=900）
	パラペット立上り：ラスモルタル塗仕上げ+ウレタン（２階ベランダ）+塩ビシート（その他）	○洗面所流し台	コンクリート造人研流し（W=500L=1800H=750）
外　　壁	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切）アクリル系リシン吹き付け仕上+防水型複層塗材RE		
	玄関入口両袖壁： 小口タイル貼り（コーナー小口曲）　基礎立上り（H=300）モルタル塗り刷毛引き仕上+防水型複層塗材RE	○作業室等棚	作業室、倉庫、油庫、設置木製棚及び作業台　　※展開図及び平面詳細図、雑詳細図参照
	パラペット及び庇鼻笠木： 防水モルタル塗り金鏝押え仕上げ+防水型複層塗材RE	○車庫点検ピット	鉄筋コンクリート造（W=７００L=６１００H=１２５０水上）内壁　防水モルタル塗り金鏝仕上げ。ﾋﾟｯﾄ蓋：木製ｔ＝30W=250
	土間床：　コンクリート地モルタル塗り金鏝押え仕上げ	○車庫内外排水溝	コンクリート造（内法W=200H=100～200）　蓋：ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ（205ｘ1000ｘ30、枠L-30x30x3）
開　口　部	アルミサッシュ：　枠　見込70mmレディーメード及びイージーオーダー製　玄関入口：アルミフロント：枠見込100mmイージーオーダー製	○室名札	アクリル製（240ｘ80）市販品
	スチールサッシュドア：　枠見込：80レディーメードOP塗　　車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）	○カーテン及びボックス	仮眠室窓：（2700ｘ1400）布製ｶｰﾃﾝ及び既製アルミBOX　　事務室、署長室、大会議室、ベネシャンﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
	換気ガラリ：アルミ製（200ｘ500）	○屋上タラップ	タラップ大小各４箇所　鉄製亜鉛メッキOP（巾400@300頂部L=800）
	サッシュ廻り全てコーキング詰	○天井点検口	アルミ製（450ｘ450）　　９箇所
樋　その他	屋上ドレン：鋳鉄製ルーフドレン（φ100）及びコーナードレン（φ100）→改修用ドレンφ100	○訓練搭	外壁：コンクリート打放し仕上　　庇鼻、笠木：防水モルタル塗り　　各入口窓及び開口廻り：モルタル塗り　基礎立上り：モルタル塗り
	縦樋：塩ビ製（φ100）掴み金物@1000内外OP塗		内部仕上：各室床　防水モルタル塗り　入口窓開口部廻り：モルタル塗り　ルーフドレン：鋳鉄製　持出版、ベランダ及び屋根：防水ﾓﾙﾀﾙ塗り
	飾り桝：28#製　既製メーカー品　　床下換気口：鋳鉄製（300ｘ150）OP塗　　天井換気口：UM式（φ60）OP塗		縦どい：塩ビ１００φ（各階目皿排水溝　）　出入り口：スチール製　窓：アルミ既製　　鋼製手摺
	ベランダ手摺：既製（H=1100)OP塗　　平面図及び詳細図参照	○その他訓練施設	訓練施設-1
	煙突：カポスタック ㋐（φ200）打込み　点検口付　雑詳細図参照		訓練施設-2
			訓練施設（煙道）

内部仕上表

室名		床		巾木		腰		壁		天井		廻り縁	天井高	備考
		仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装	仕上材	塗装			
1F	玄関ホール	磁器質タイル100角		テラゾーブロックH=90		腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付		同左		吸音テックス㋐		塩ビ	2,700	
	階段室下物置	モルタル塗り		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		打放し補修			2,300	木製棚
	事務室	塩ビタイル　㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗り	AVP	同左		吸音テックス㋐		塩ビ	2,700 2,300	
	便所	塩ビシート張		ｿﾌﾄ巾木H=60		メラミン化粧合板貼		同左		ジプトンｔ＝9		塩ビ	2,300	
	空調機械室	モルタル塗り		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		木毛板ｔ＝20		塩ビ	3,610	木製棚
	洗面所	磁器質タイル		同右		100角タイル（H=1800迄）		モルタル塗り	AVP	けい酸カルシウム板ｔ＝6㋐ラフトン吹付		塩ビ	2,300	
	脱衣室	桧えんこ板貼り		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗り	AVP	同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	2,300	
	浴室	磁器質タイル		同右		100角タイル（H=1800迄）		モルタル塗り	AVP	けい酸カルシウム板ｔ＝6㋐ラフトン吹付		塩ビ	2,200 2,300	
	厨房食堂	塩ビタイル　㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗り　流し前：磁器質タイル100角	AVP	同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	2,600	
	廊下	塩ビタイル　㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗り及び仮眠室側　化粧ボードｔ＝6	AVP	同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	2,300	
	仮眠室	縁取り畳敷		木製畳寄せ		モルタル下地ビニールクロス　　の上化粧ボードｔ＝6		同左		化粧PBｔ＝9		木製	2,400	
	押入れ	耐水合板ｔ＝12		木製畳寄せ		ラワンベニヤｔ＝4		同左		ラワンベニヤｔ＝4		木製	2,400	
	物置	磁器質タイル		同右		モルタル下地モザイクタイル	AVP	同左		けい酸カルシウム板ｔ＝6㋐ラフトン吹付		塩ビ	2,300	
	車庫	コンクリート金鏝押え		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		木毛板ｔ＝20	AVP		4,760 4,860	
	油庫	モルタル塗り		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		木毛板ｔ＝20	AVP		3,160 3,210	
	作業室	モルタル塗り		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		木毛板ｔ＝20	AVP		3,160 3,210	木製棚
	倉庫	モルタル塗り		モルタル金鏝		腰及び壁：モルタル塗り		同左		木毛板ｔ＝20	AVP		3,160 3,210	木製棚
2F	階段室	塩ビタイル㋐		テラゾーブロックH=90		腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付		同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	—	
	ホール	塩ビタイル㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付及び木造壁仕上		同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	2,500	
	署長室	塩ビタイル㋐ 一部カーペットタイル敷		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗りベニヤ下地ラフトン吹付		同左		吸音テックス㋐		塩ビ	2,500	
	大会議室	塩ビタイル㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗りベニヤ下地ラフトン吹付		同左		ジプトーンｔ＝9㋐ ２段ボーダー：しなベニヤｔ＝6	OP	塩ビ	2,500	
	ロッカー室	塩ビタイル㋐		木製ラワンH=90	OP	腰及び壁：モルタル塗り（及びｔ＝6しなベニヤ張り）	AVP	同左		PBｔ＝9	AVP	塩ビ	2,500	木製棚
外部	ポーチ	磁器質タイル		同右		小口タイル		同左		けい酸カルシウム板ｔ＝6㋐ラフトン吹付		塩ビ	2,700	
	プロパン庫	モルタル塗り		同右		腰及び壁：モルタル塗り		同左		打放し補修			1,500	

ＤＰ塗装：耐候性塗料　　ＳＯＰ塗装：合成樹脂調合ペイント　ＮＡＤ塗装：アクリル樹脂系非水分散形塗料

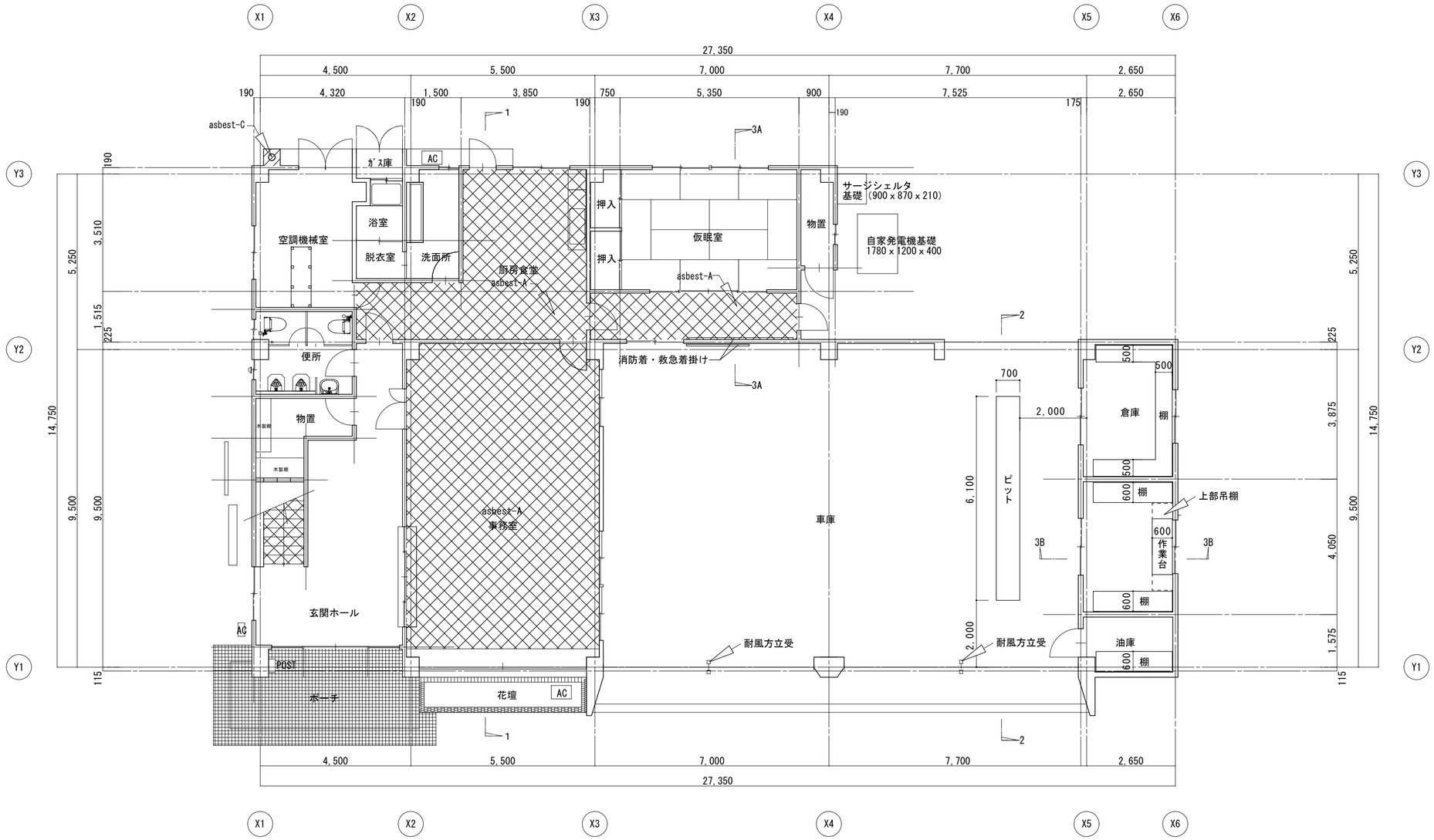
㋐　：アスベスト含有建材を示す
煙突断熱材：カポスタック-超高圧ウォータージェット工法

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事
仕上表　　原図：A2

令和　　年　　月
A-4
管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



asbest-A ＝アスベスト含有材（ビニル床タイル）

asbest-B ＝アスベスト含有材（天井化粧石膏ボード、天井吸音石膏ボード、天井ケイカル板）

asbest-C ＝アスベスト含有材（煙突断熱材）

煙突断熱材：カポスタック（アスベスト含有）
・超高圧ウォータージェット工法（各種申請及び届出を行うこと）
カポスタック撤去時の注意
・カポスタック撤去時は飛散防止隔離養生、クリーンルーム、集塵機等必要な設備を設置すること
・測定位置は事前に監督員と協議すること
・撤去後のｱｽﾍﾞｽﾄは特別産業廃棄物として積込、運搬、処分を行うこと
・飛散防止のため、雨風対策を行うこと

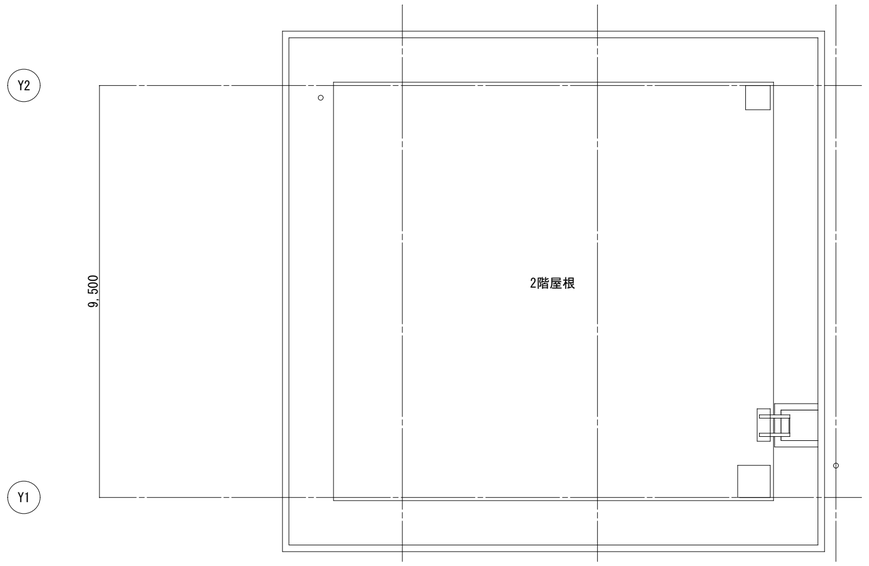
NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事		令和 年 月
			A-5
	1階平面図 1/100	原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

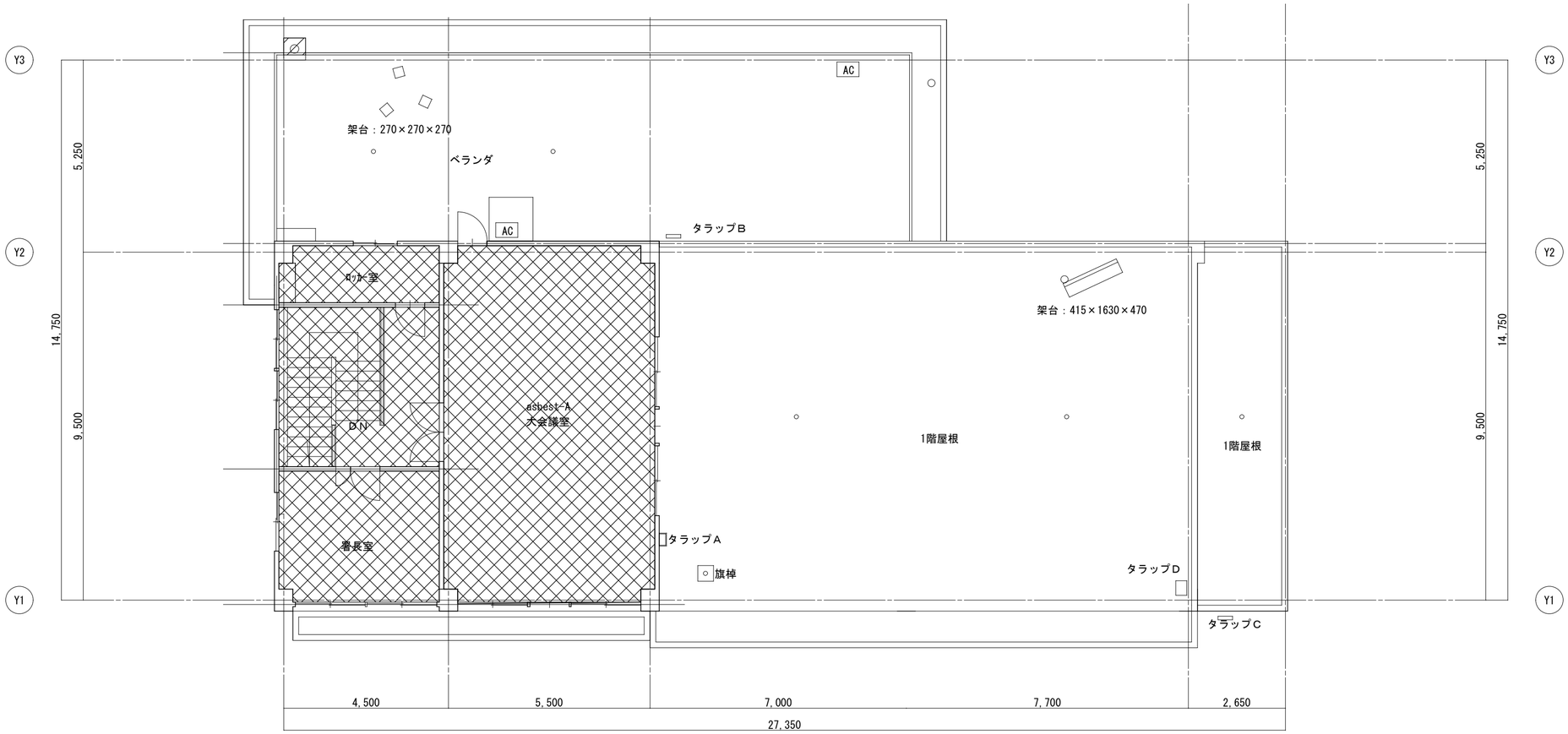
asbest-A ＝アスベスト含有材（ビニル床タイル）

asbest-B ＝アスベスト含有材（天井化粧石膏ボード、天井吸音石膏ボード、天井ケイカル板）

asbest-C ＝アスベスト含有材（煙突断熱材）



屋根伏図　1/100



2階　平面図　1/100

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

2階平面図　屋根伏図　1/100

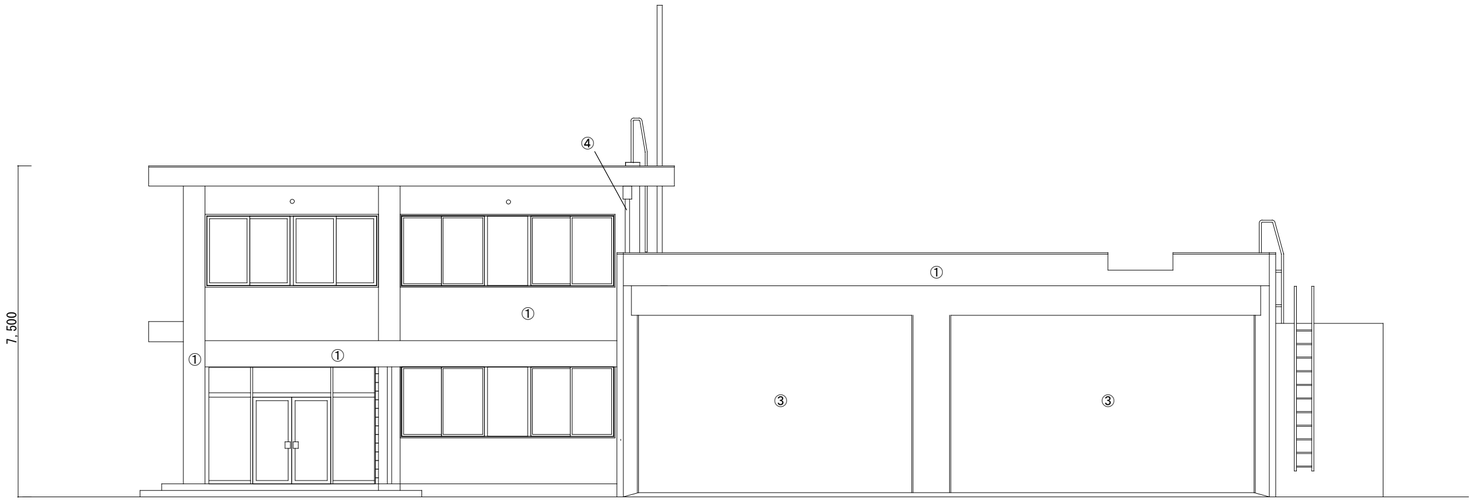
原図：A2

令和　年　月

A-6

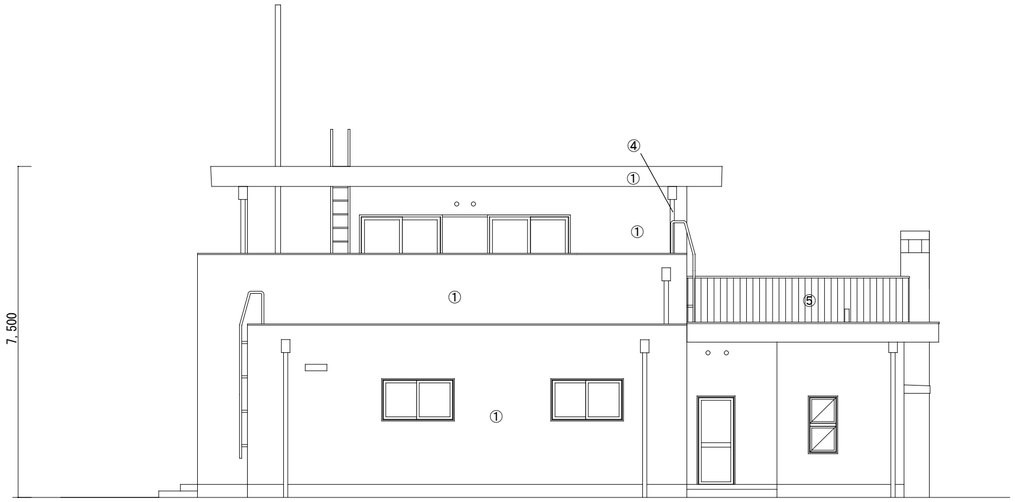
管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

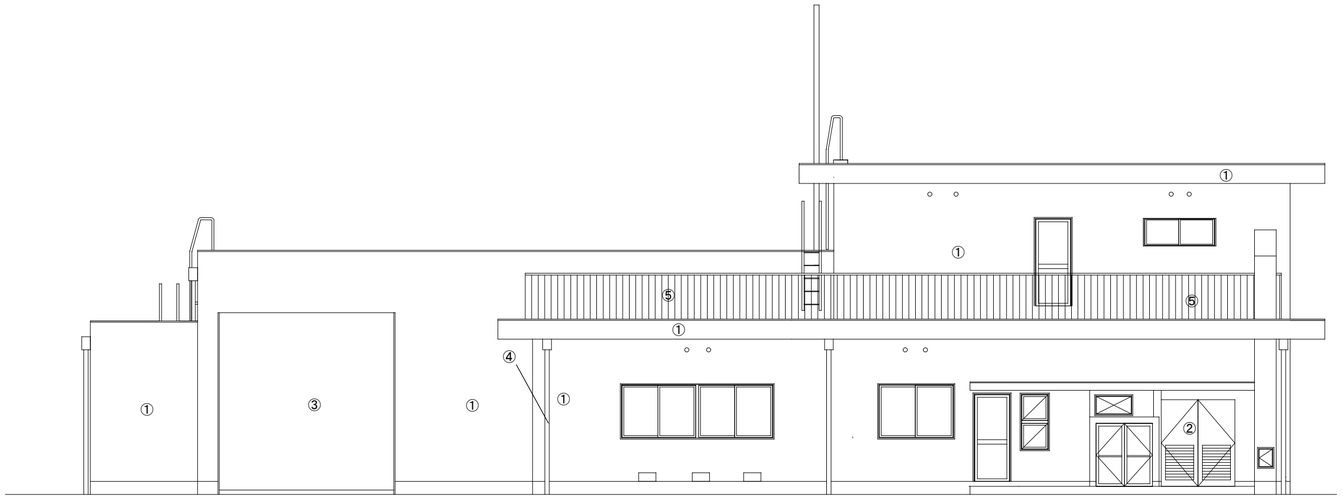


南立面図

西立面図



東立面図



北立面図

外壁仕上リスト	
①	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切） 防水型複層塗材
②	スチールサッシュドア：枠見込：80レディーメードOP塗
③	車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）
④	縦樋：塩ビ製（φ100）掴み金物@1000内外OP塗
⑤	ベランダ手摺：既製（H=1100)OP塗

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

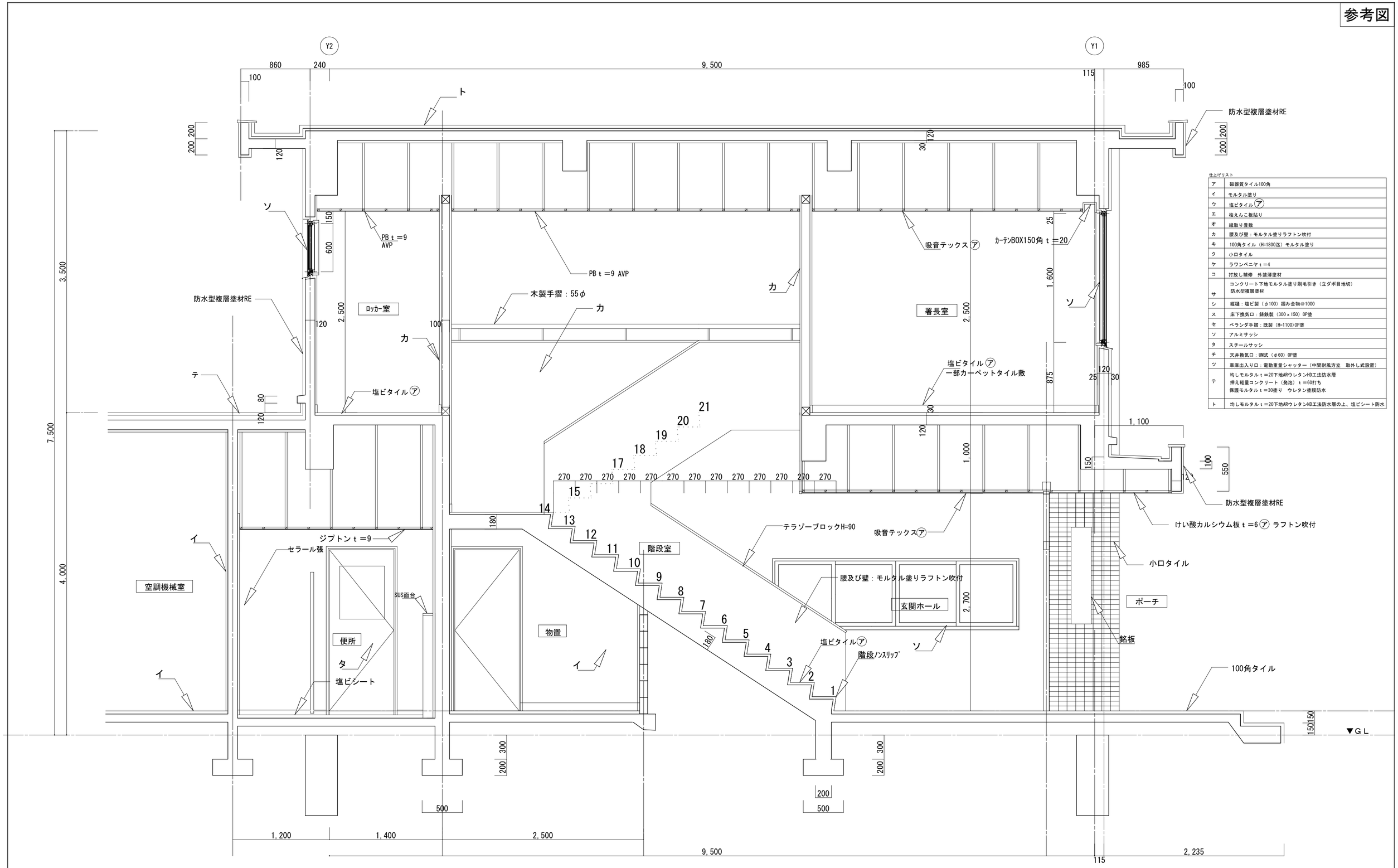
立面図　1/100　　原図：A2

令和　　年　　月

A-7

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



仕上げリスト

ア	磁器質タイル100角
イ	モルタル塗り
ウ	塩ビタイル㋐
エ	桧えんこ板貼り
オ	縁取り畳敷
カ	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
キ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
ク	小口タイル
ケ	ラワンベニヤ t =4
コ	打放し補修　外装薄塗材
サ	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切） 防水型複層塗材
シ	縦樋：塩ビ製（φ100）掘み金物@1000
ス	床下換気口：鋳鉄製（300 x 150）OP塗
セ	ベランダ手摺：既製（H=1100)OP塗
ソ	アルミサッシ
タ	スチールサッシ
チ	天井換気口：UW式（φ60）OP塗
ツ	車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）
テ	均しモルタル t =20下地ARウレタンHD工法防水層 押え軽量コンクリート（発泡） t =60打ち 保護モルタル t =30塗り　ウレタン塗膜防水
ト	均しモルタル t =20下地ARウレタンND工法防水層の上、塩ビシート防水

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

矩計図　1/50

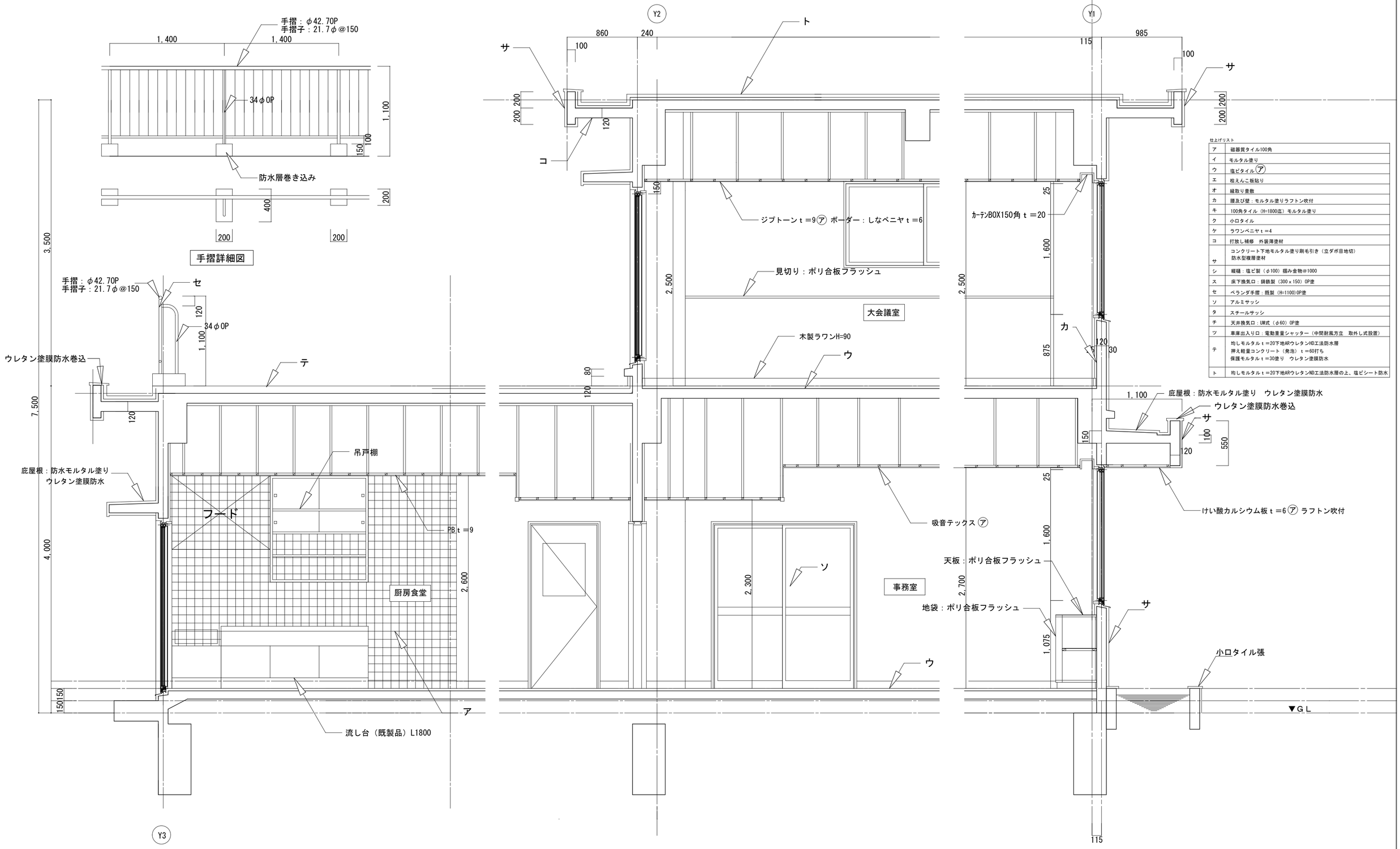
原図：A2

令和　年　月

A-8

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



仕上げリスト

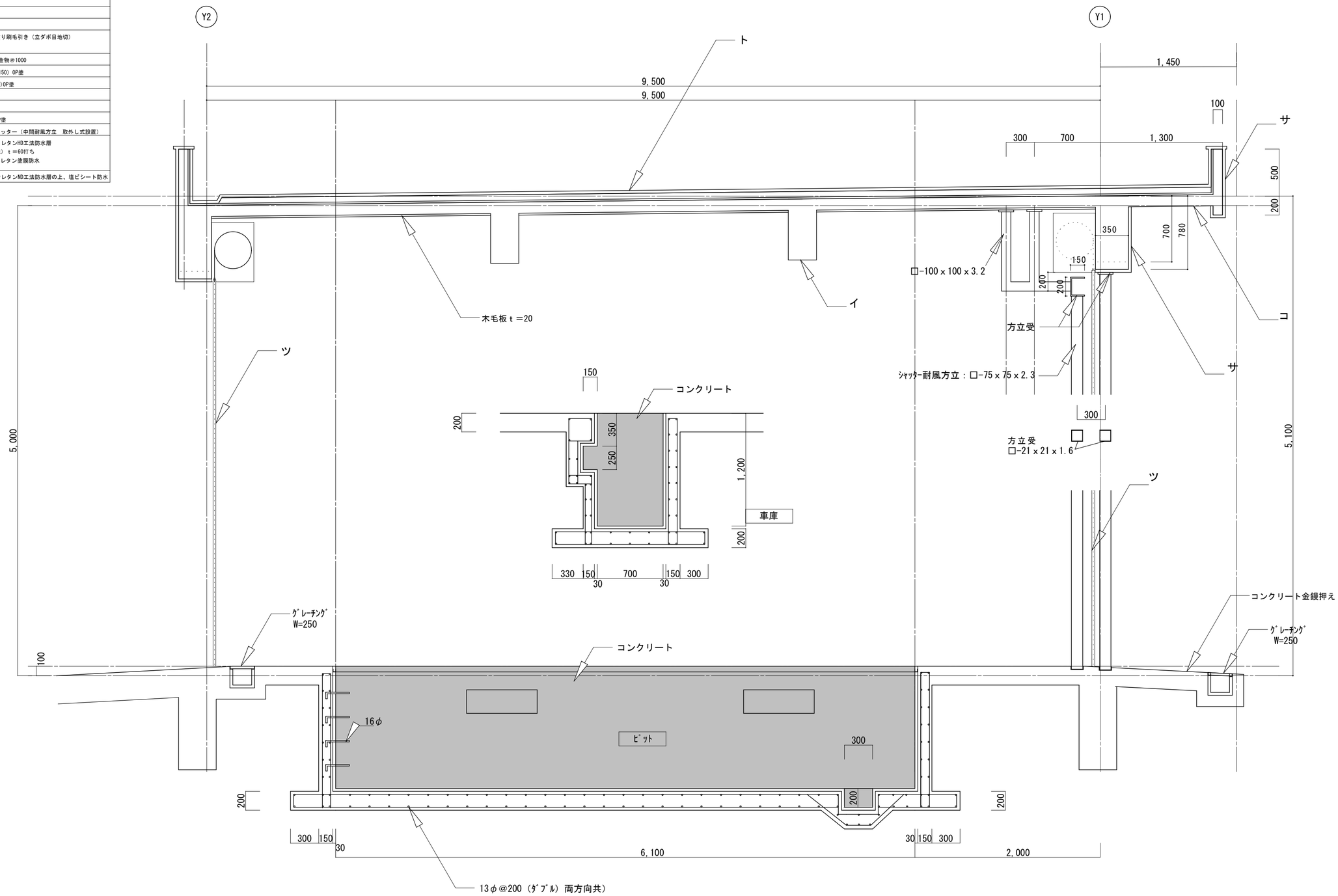
ア	磁器質タイル100角
イ	モルタル塗り
ウ	塩ビタイルア
エ	檢えんこ板貼り
オ	縁取り畳敷
カ	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
キ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
ク	小口タイル
ケ	ラワンベニヤ t＝4
コ	打放し補修　外装薄塗材
サ	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切） 防水型複層塗材
シ	縦樋：塩ビ製（φ100）掴み金物@1000
ス	床下換気口：鋳鉄製（300×150）OP塗
セ	ベランダ手摺：既製（H=1100）OP塗
ソ	アルミサッシ
タ	スチールサッシ
チ	天井換気口：UM式（φ60）OP塗
ツ	車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）
テ	均しモルタル t＝20下地ARウレタンND工法防水層 押え軽量コンクリート（発泡）t＝60打ち 保護モルタル t＝30塗り　ウレタン塗膜防水
ト	均しモルタル t＝20下地ARウレタンND工法防水層の上、塩ビシート防水

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月
		断面詳細図-1　1/50	A-9
		原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

仕上げリスト

ア	磁器質タイル100角
イ	モルタル塗り
ウ	塩ビタイル
エ	桧えんこ板貼り
オ	縁取り畳敷
カ	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
キ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
ク	小口タイル
ケ	ラワンベニヤｔ＝4
コ	打放し補修　外装薄塗材
サ	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切） 防水型複層塗材
シ	縦樋：塩ビ製（φ100）掴み金物@1000
ス	床下換気口：鋳鉄製（300ｘ150）OP塗
セ	ベランダ手摺：既製（H=1100)OP塗
ソ	アルミサッシ
タ	スチールサッシ
チ	天井換気口：UM式（φ60）OP塗
ツ	車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）
テ	均しモルタルｔ＝20下地ARウレタンND工法防水層 押え軽量コンクリート（発泡）ｔ＝60打ち 保護モルタルｔ＝30塗り　ウレタン塗膜防水
ト	均しモルタルｔ＝20下地ARウレタンND工法防水層の上、塩ビシート防水



NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

断面詳細図-2　1/50

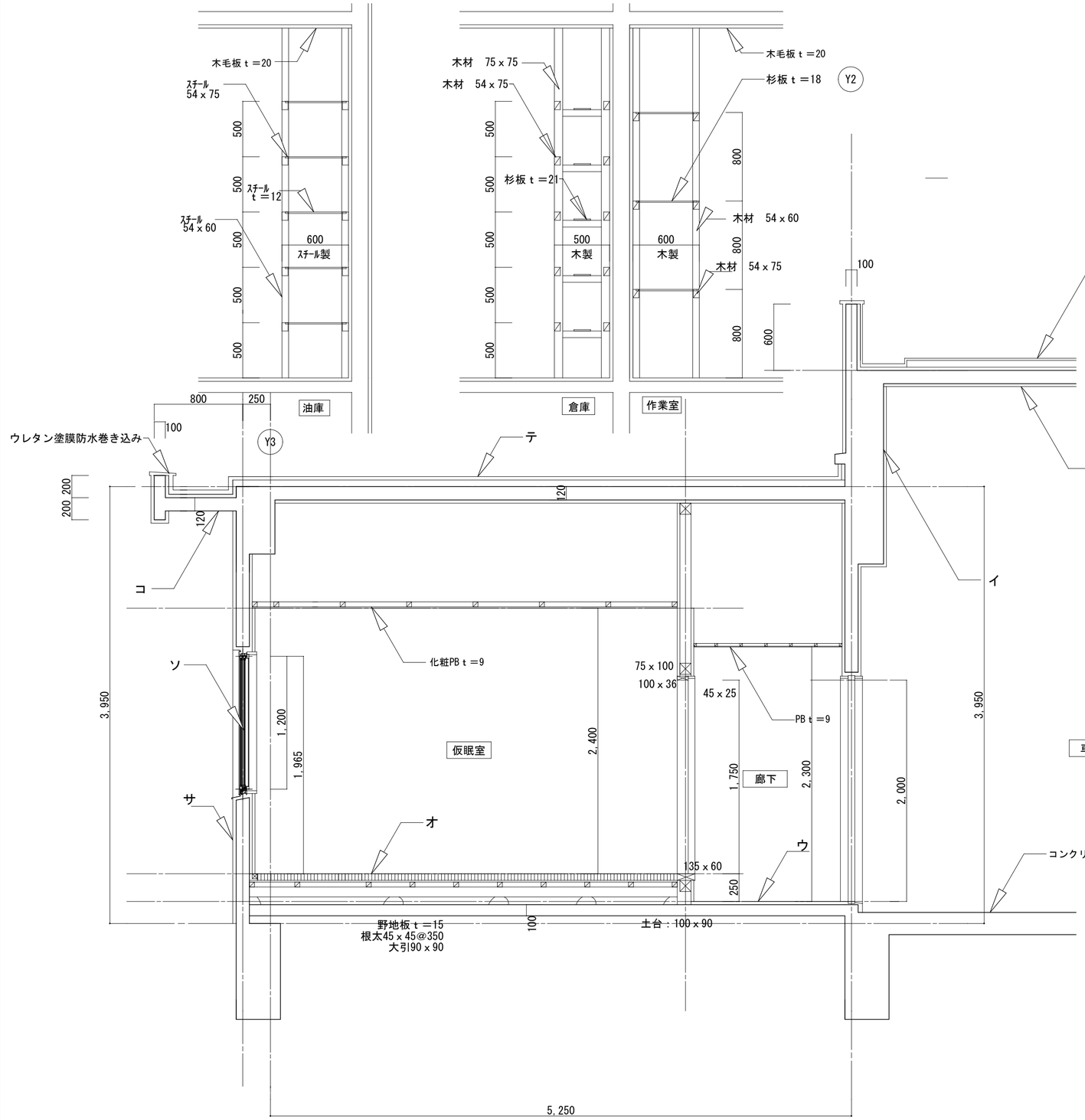
原図：A2

令和　　年　　月

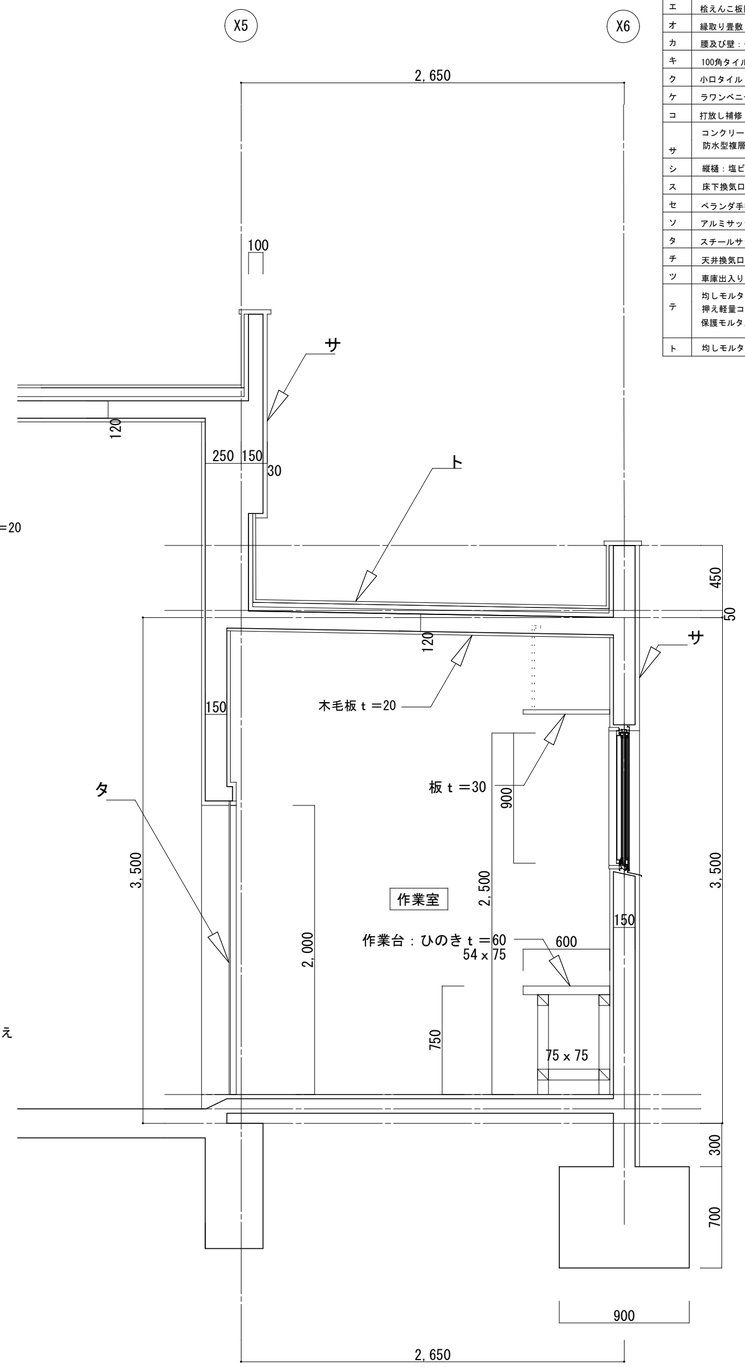
A-10

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



断面詳細図-A



断面詳細図-B

仕上げリスト

ア	磁器質タイル100角
イ	モルタル塗り
ウ	塩ビタイル(ア)
エ	桧えんこ板貼り
オ	縁取り畳敷
カ	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
キ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
ク	小口タイル
ケ	ラワンベニヤ t ＝4
コ	打放し補修　外装薄塗材
サ	コンクリート下地モルタル塗り刷毛引き（立ダボ目地切） 防水型複層塗材
シ	縦樋：塩ビ製（φ100）掴み金物@1000
ス	床下換気口：鋳鉄製（300 x 150）OP塗
セ	ベランダ手摺：既製（H=1100)OP塗
ソ	アルミサッシ
タ	スチールサッシ
チ	天井換気口：UM式（φ60）OP塗
ツ	車庫出入り口：電動重量シャッター（中間耐風方立　取外し式設置）
テ	均しモルタル t ＝20下地ARウレタンND工法防水層 押え軽量コンクリート（発泡） t ＝60打ち 保護モルタル t ＝30塗り　ウレタン塗膜防水
ト	均しモルタル t ＝20下地ARウレタンND工法防水層の上、塩ビシート防水

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

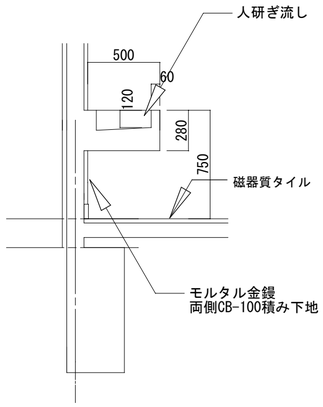
断面詳細図-3　1/50　　原図：A2

令和　　年　　月

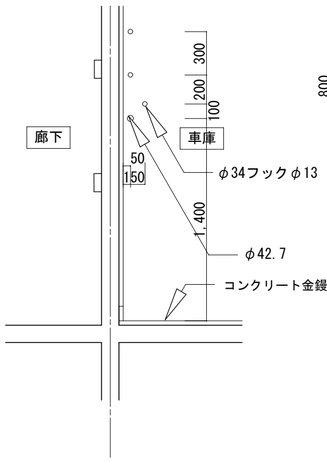
A-11

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

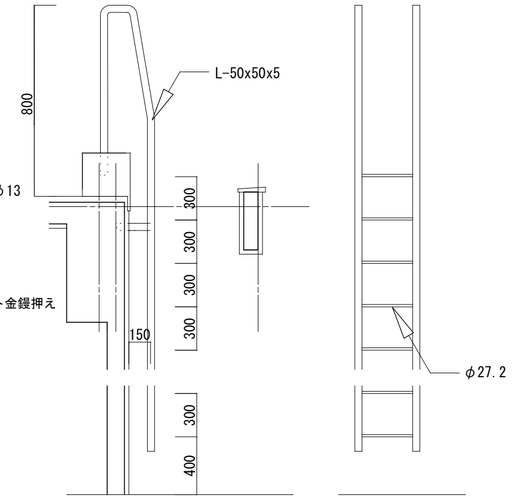
参考図



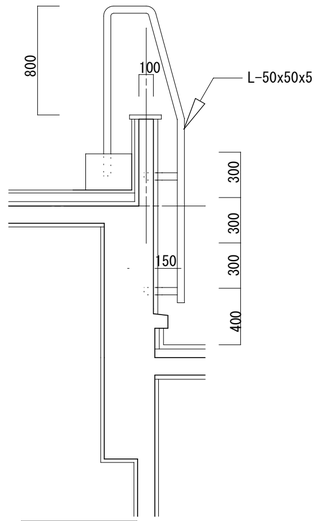
洗面流し詳細図



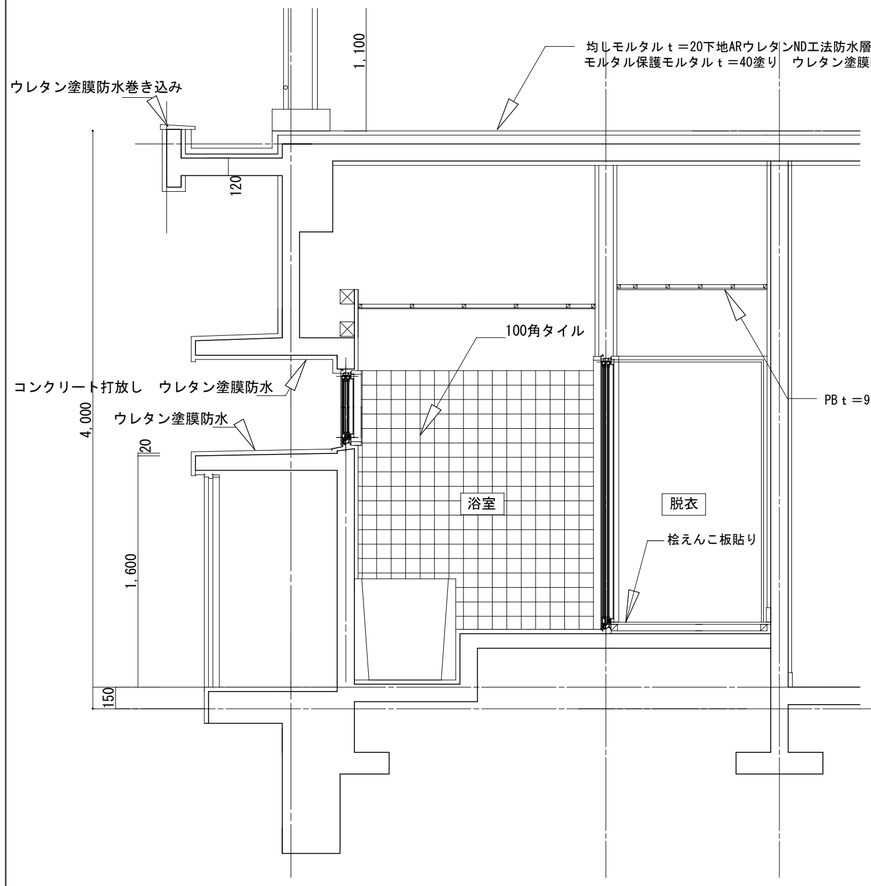
消防着・救急着掛詳細図

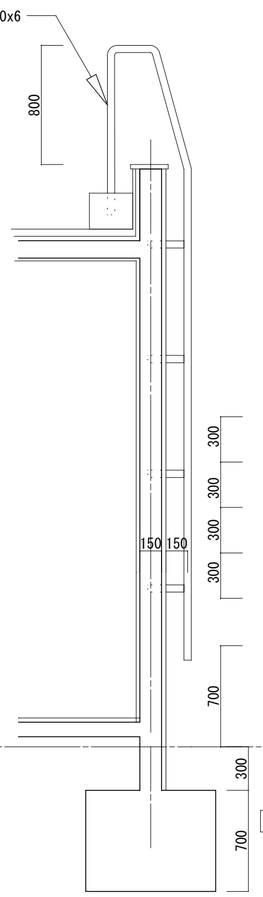


タラップ詳細A

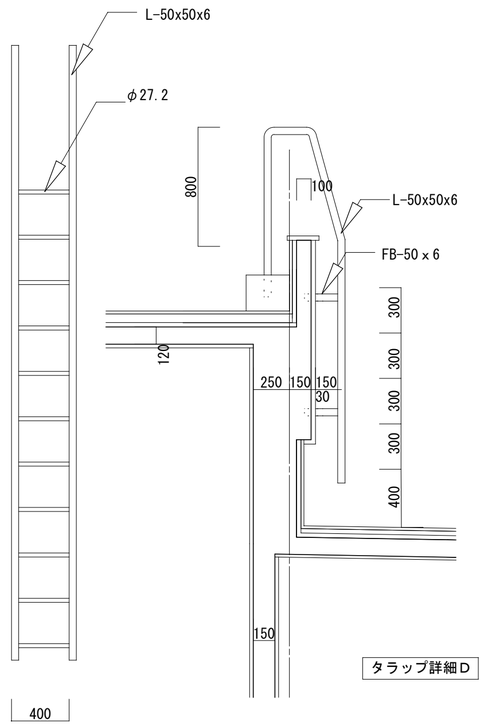


タラップ詳細B

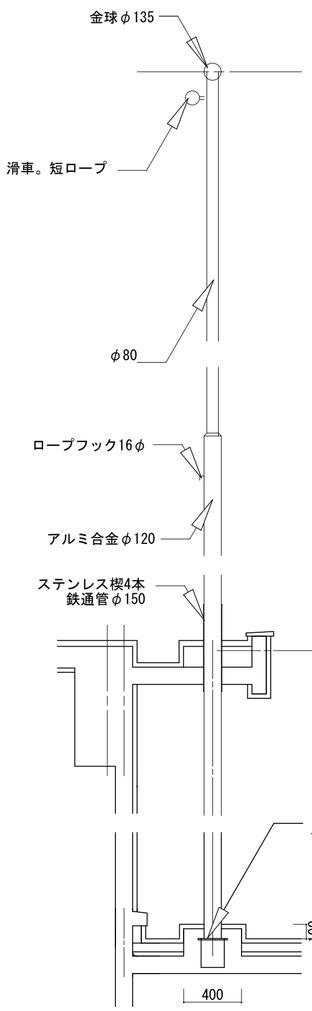




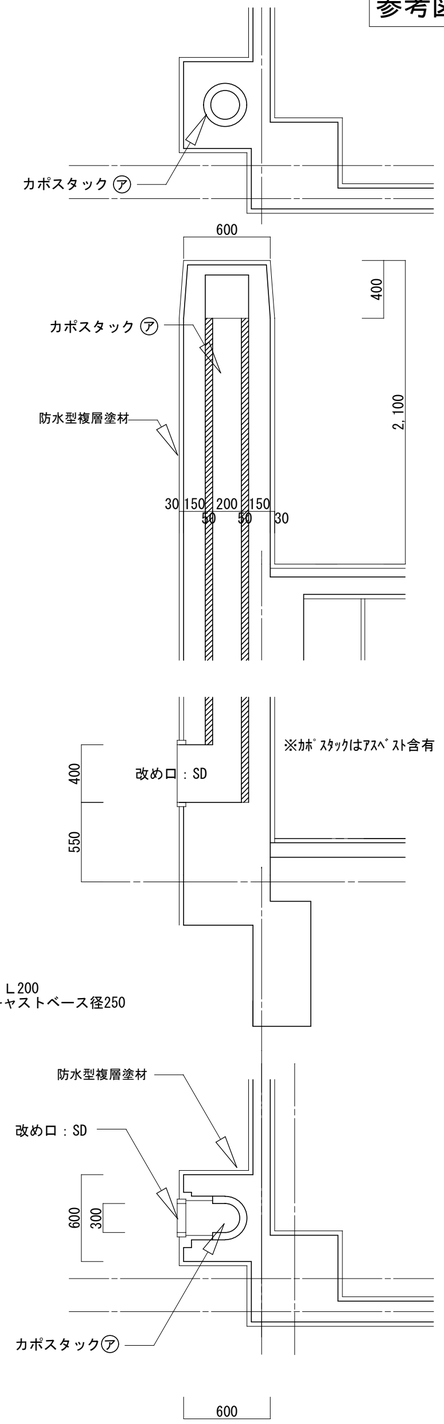
タラップ詳細C



タラップ詳細D



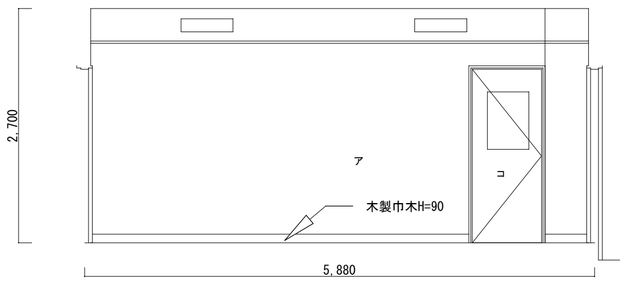
1階屋上
旗　棹



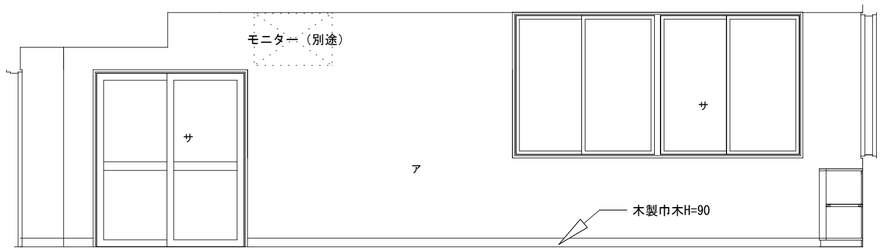
煙突詳細図

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月
		断面詳細図-4　1/50	A-12
		原図：A2	管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

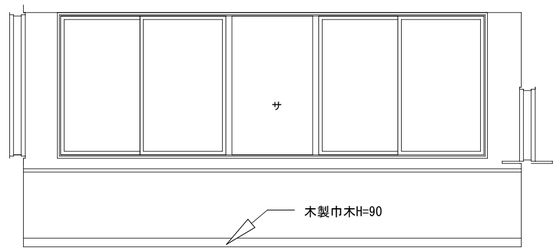
参考図



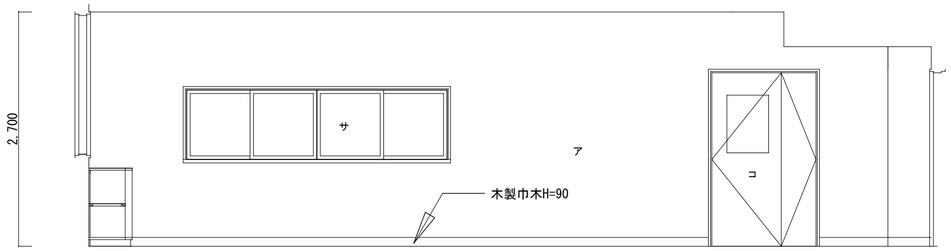
事務室 A



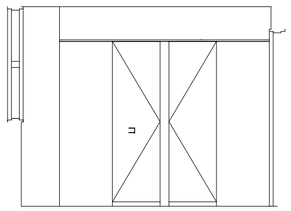
B



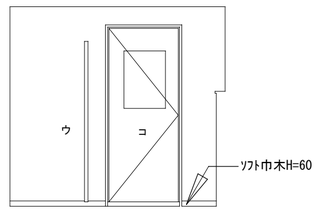
C



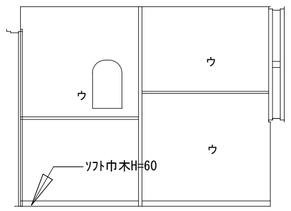
事務室 D



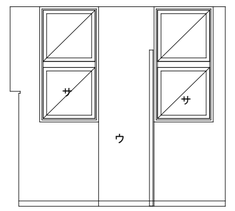
便所 A



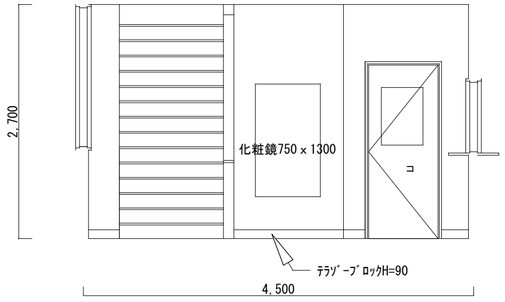
B



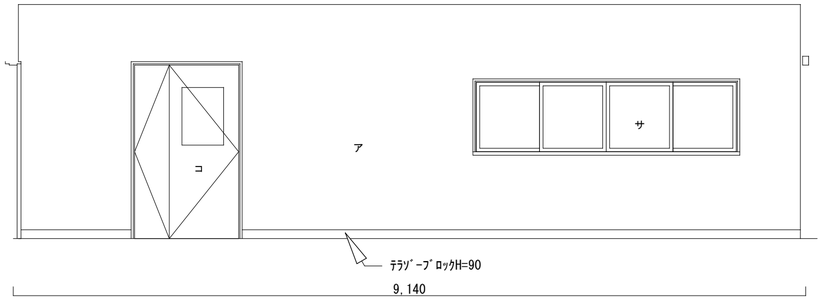
C



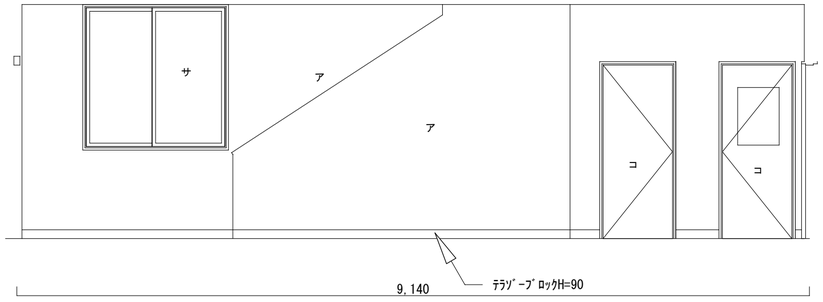
D



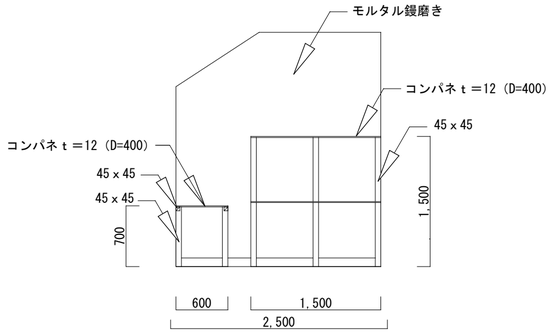
玄関ホール A



B



D



物置 D

仕上げリスト

ア	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
イ	腰及び壁：モルタル塗り
ウ	メラミン化粧合板
エ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
オ	モルタル下地ビニールクロス の上化粧ボードｔ＝6
カ	ラワンベニヤｔ＝4
キ	小口タイル
ク	ｽﾁｰﾙドア
ケ	電動重量シャッター
コ	木製ドア
サ	アルミサッシュ

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

展開図-1 1/50

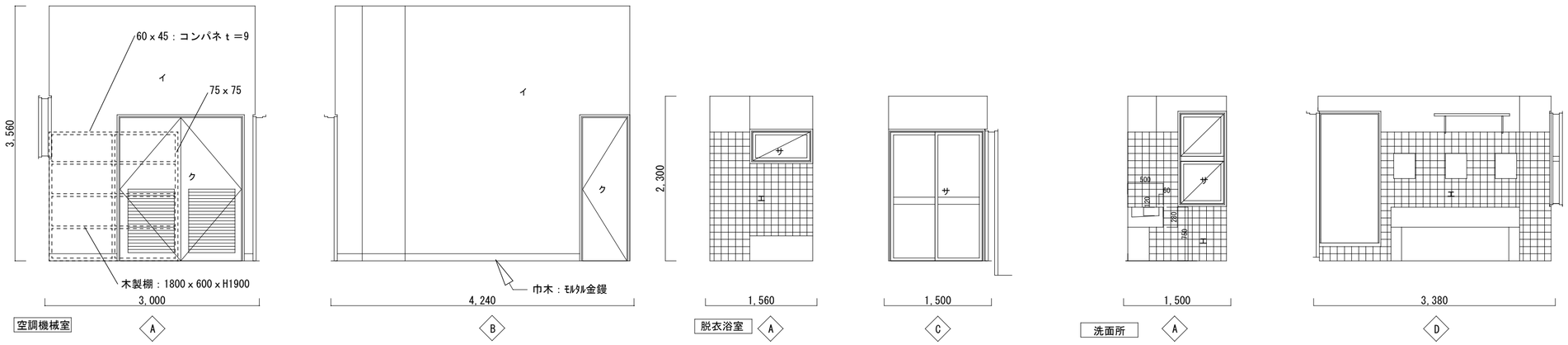
原図：A2

令和 年 月

A-13

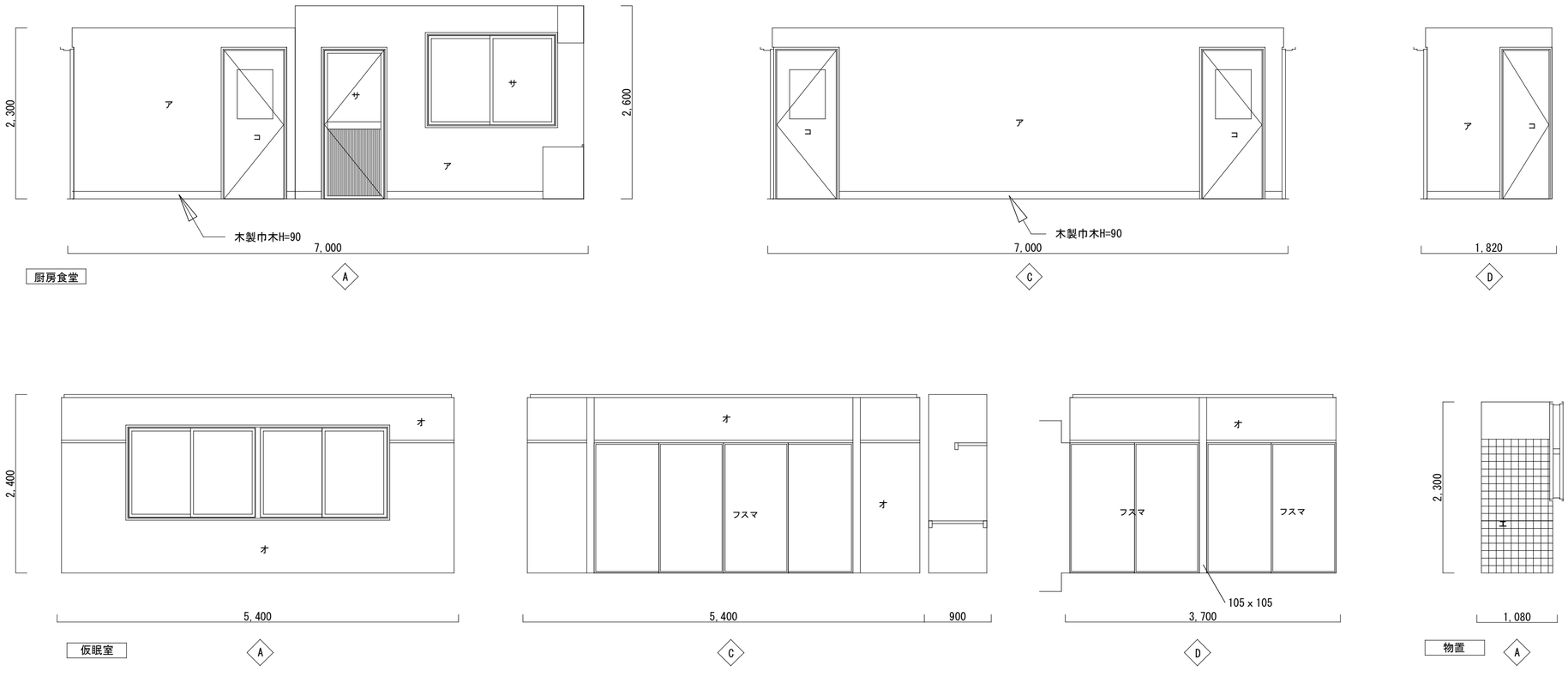
管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図



仕上げリスト

ア	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
イ	腰及び壁：モルタル塗り
ウ	メラミン化粧合板
エ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
オ	モルタル下地ビニールクロス の上化粧ボード t ＝6
カ	ラワンベニヤ t ＝4
キ	小口タイル
ク	ｽﾁｰﾙドア
ケ	電動重量シャッター
コ	木製ドア
サ	アルミサッシュ



NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

展開図-2 1/50

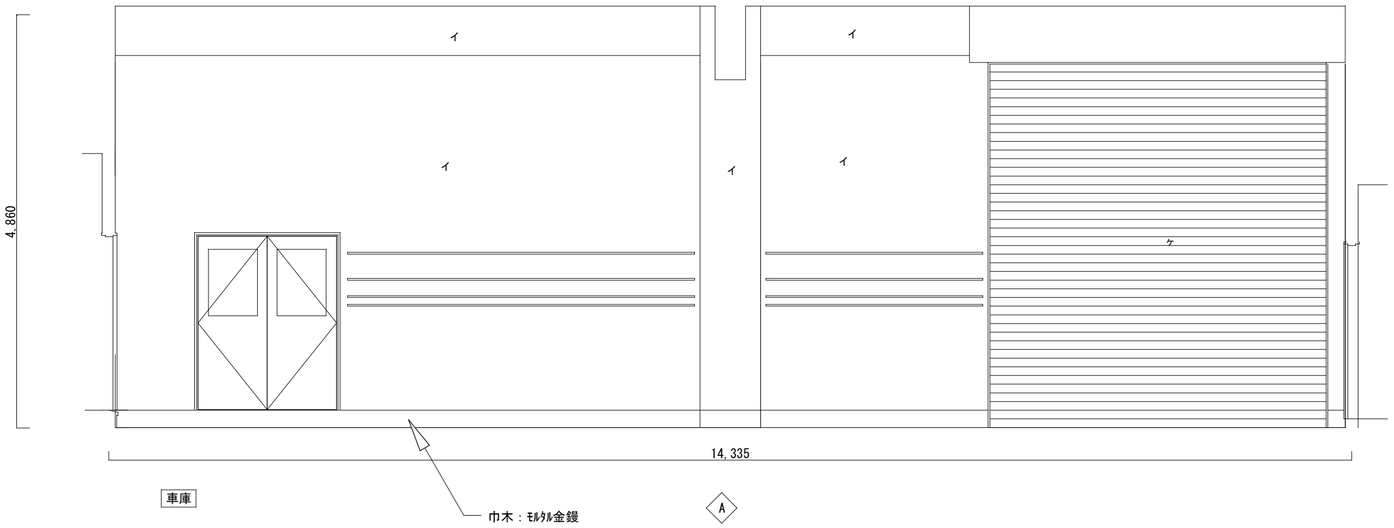
原図：A2

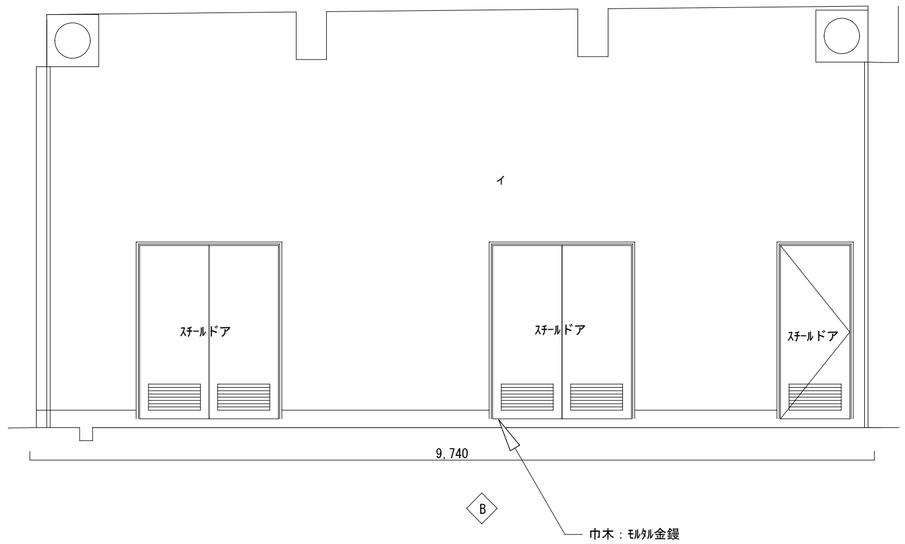
令和 年 月

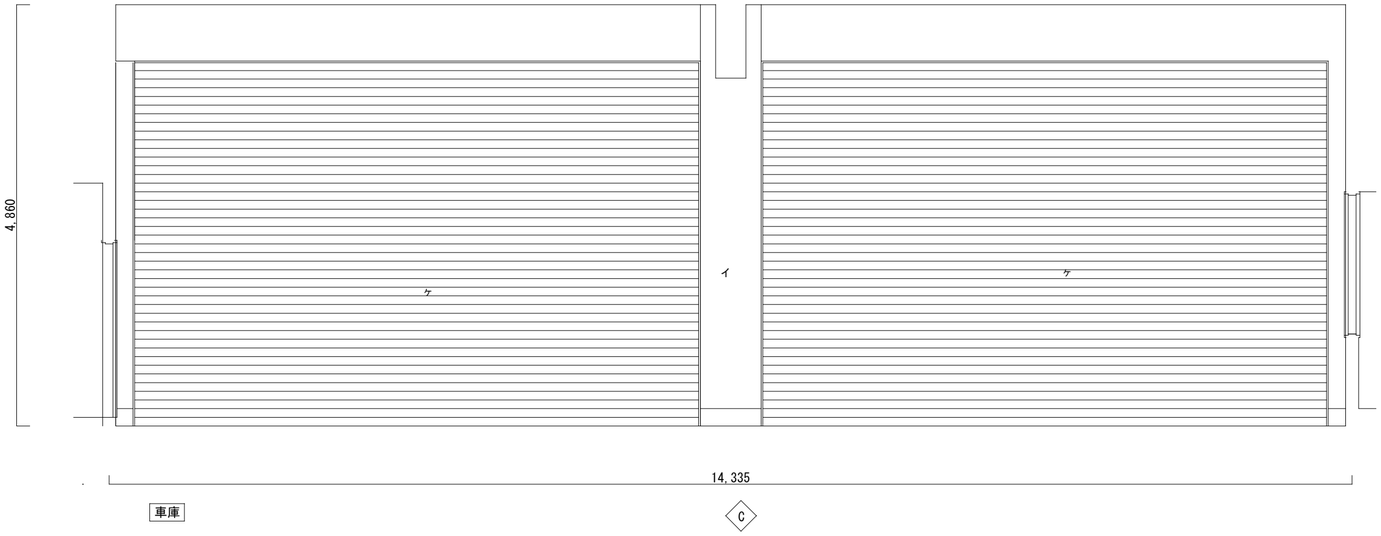
A-14

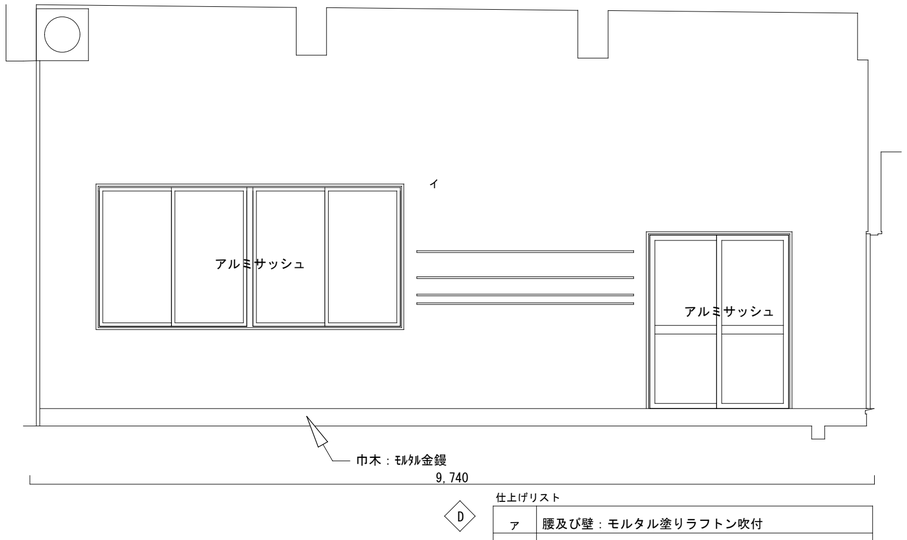
管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図









仕上げリスト

ア	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
イ	腰及び壁：モルタル塗り
ウ	メラミン化粧合板
エ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
オ	モルタル下地ビニールクロス の上化粧ボード t ＝6
カ	ラワンベニヤ t ＝4
キ	小口タイル
ク	ｽﾁｰﾙドア
ケ	電動重量シャッター
コ	木製ドア
サ	アルミサッシュ

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

展開図-3 1/50

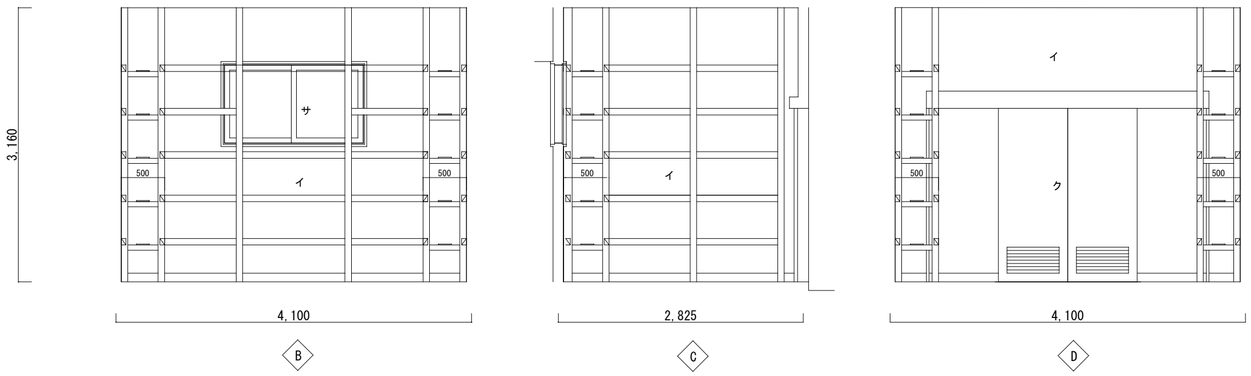
原図：A2

令和 年 月

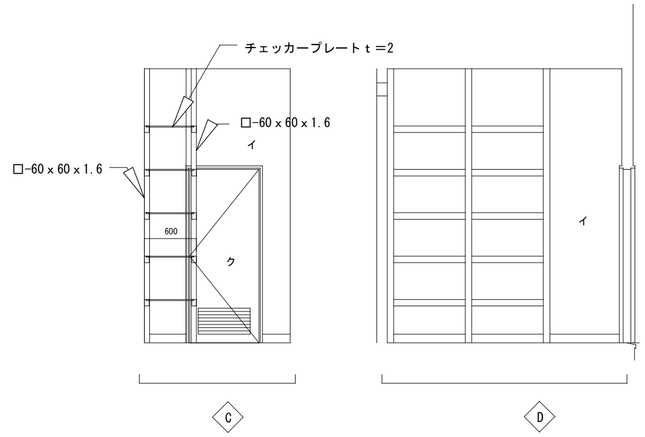
A-15

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

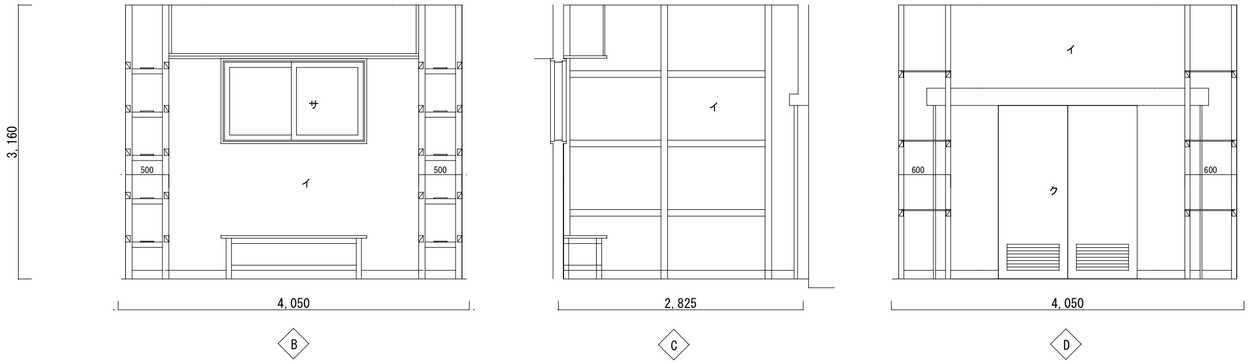
参考図



倉庫



油庫



作業室

仕上げリスト　　展開図

ア	腰及び壁：モルタル塗りラフトン吹付
イ	腰及び壁：モルタル塗り
ウ	メラミン化粧合板
エ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
オ	モルタル下地ビニールクロス の上化粧ボード t =6
カ	ラワンベニヤ t =4
キ	小口タイル
ク	ｽﾁｰﾙドア
ケ	電動重量シャッター
コ	木製ドア
サ	アルミサッシュ

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

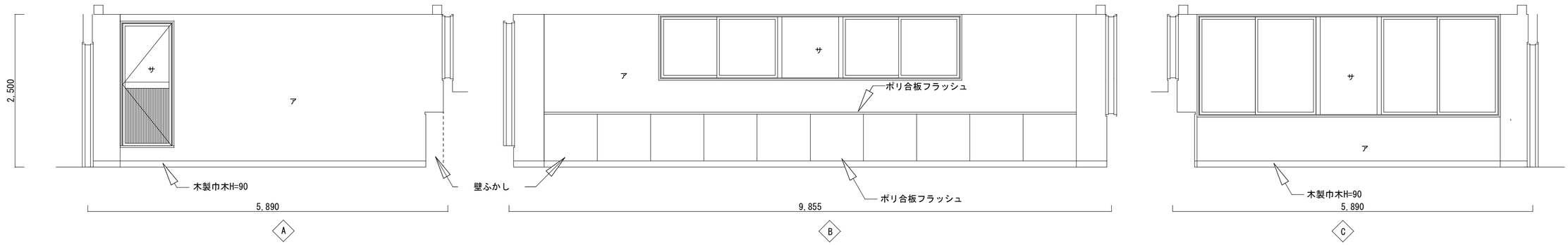
展開図-4　1/50　　原図：A2

令和　　年　　月

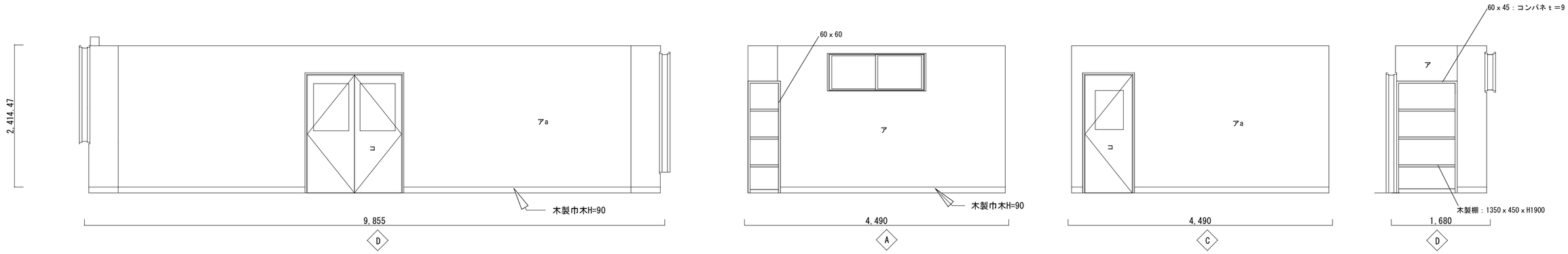
A-16

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

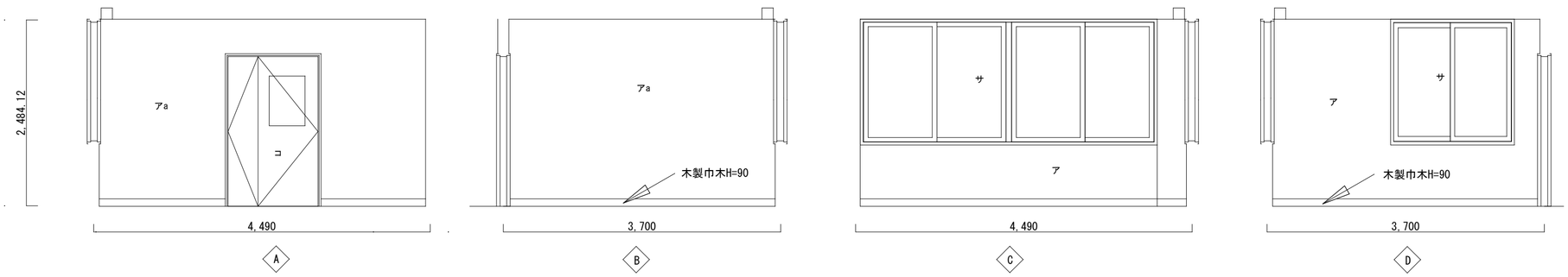


大会議室



大会議室

ロッカー室



署長室

仕上げリスト

ア,ア a	腰及び壁 : モルタル塗りラフトン吹付 ア a:t=6しなベニヤ張り下地
イ	腰及び壁 : モルタル塗り
ウ	メラミン化粧合板
エ	100角タイル（H=1800迄）モルタル塗り
オ	モルタル下地ビニールクロス の上化粧ボード t ＝6
カ	ラワンベニヤ t ＝4
キ	小口タイル
ク	ｽﾁｰﾙドア
ケ	電動重量シャッター
コ	木製ドア
サ	アルミサッシュ

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

展開図-5 1/50

原図 : A2

令和 年 月

A-17

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

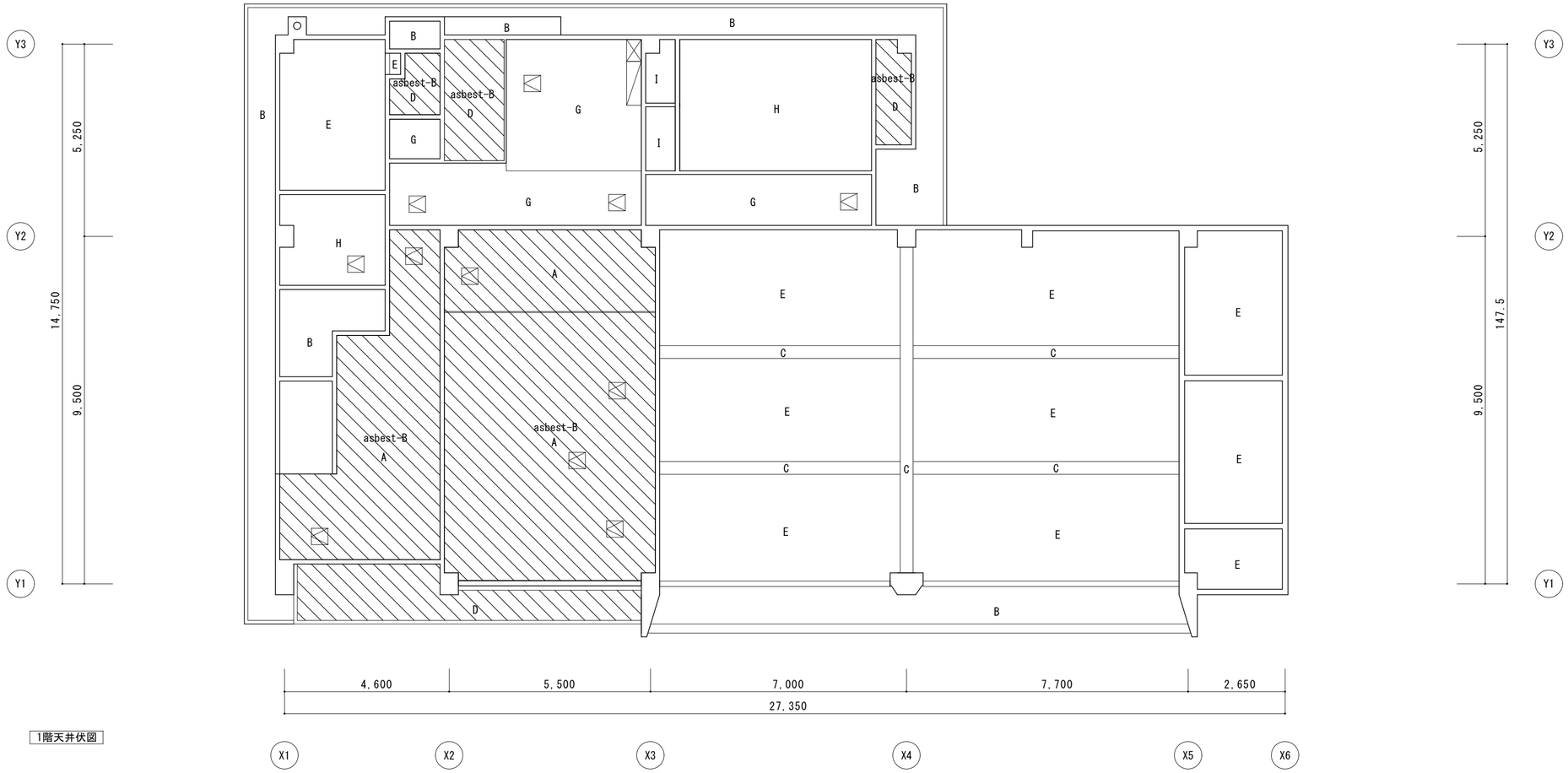
参考図

asbest-A ＝アスベスト含有材（ビニル床タイル）

asbest-B ＝アスベスト含有材（天井化粧石膏ボード、天井吸音石膏ボード、天井ケイカル板）

asbest-C ＝アスベスト含有材（煙突断熱材）

	仕上材	塗装
A	吸音テックス ㋐	
B	打放し補修　吹付タイル	
C	モルタル塗り金鏝	
D	アサノハイラックス t ＝6 ㋐ ラフトン吹付	
E	木毛板 t ＝20	
F	ジプトーン t ＝9 ㋐ ボーダー：しなベニヤ t ＝6	
G	PB t ＝9	AVP
H	化粧PB t ＝9	
I	ラワンベニヤ t ＝4	



1階天井伏図

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

1階天井伏図　1/100　　原図：A2

令和　　年　　月

A-18

管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

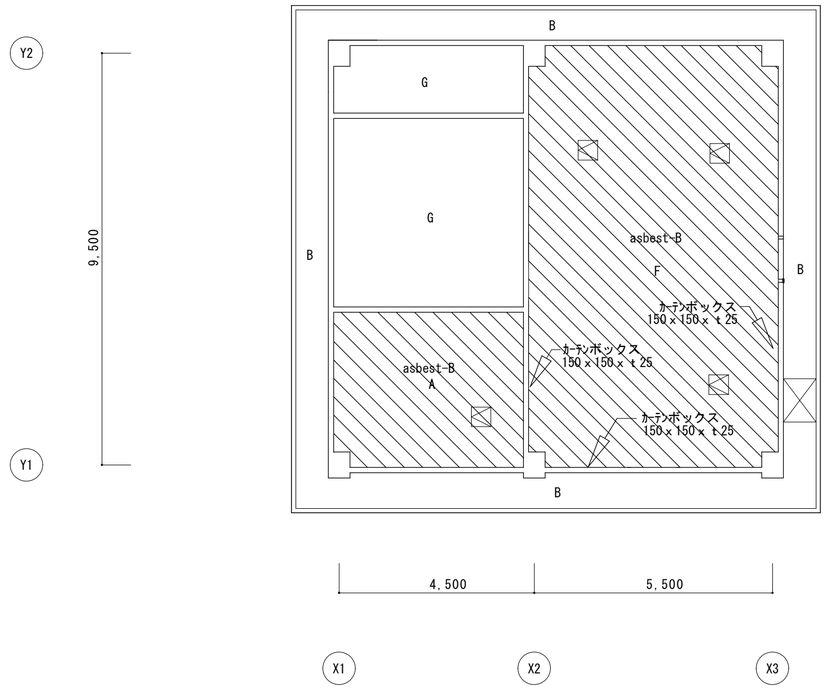
参考図

asbest-A ＝アスベスト含有材（ビニル床タイル）

asbest-B ＝アスベスト含有材（天井化粧石膏ボード、天井吸音石膏ボード、天井ケイカル板）

asbest-C ＝アスベスト含有材（煙突断熱材）

	仕上材	塗装
A	吸音テックス ㋐	
B	打放し補修　吹付タイル	
C	モルタル塗り金鏝	
D	アサノハイラックス t ＝6 ㋐ ラフトン吹付	
E	木毛板 t ＝20	
F	ジプトーン t ＝9 ㋐ ボーダー：しなベニヤ t ＝6	
G	PB t ＝9	AVP
H	化粧PB t ＝9	
I	ラワンベニヤ t ＝4	



NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

2階天井伏図　1/100

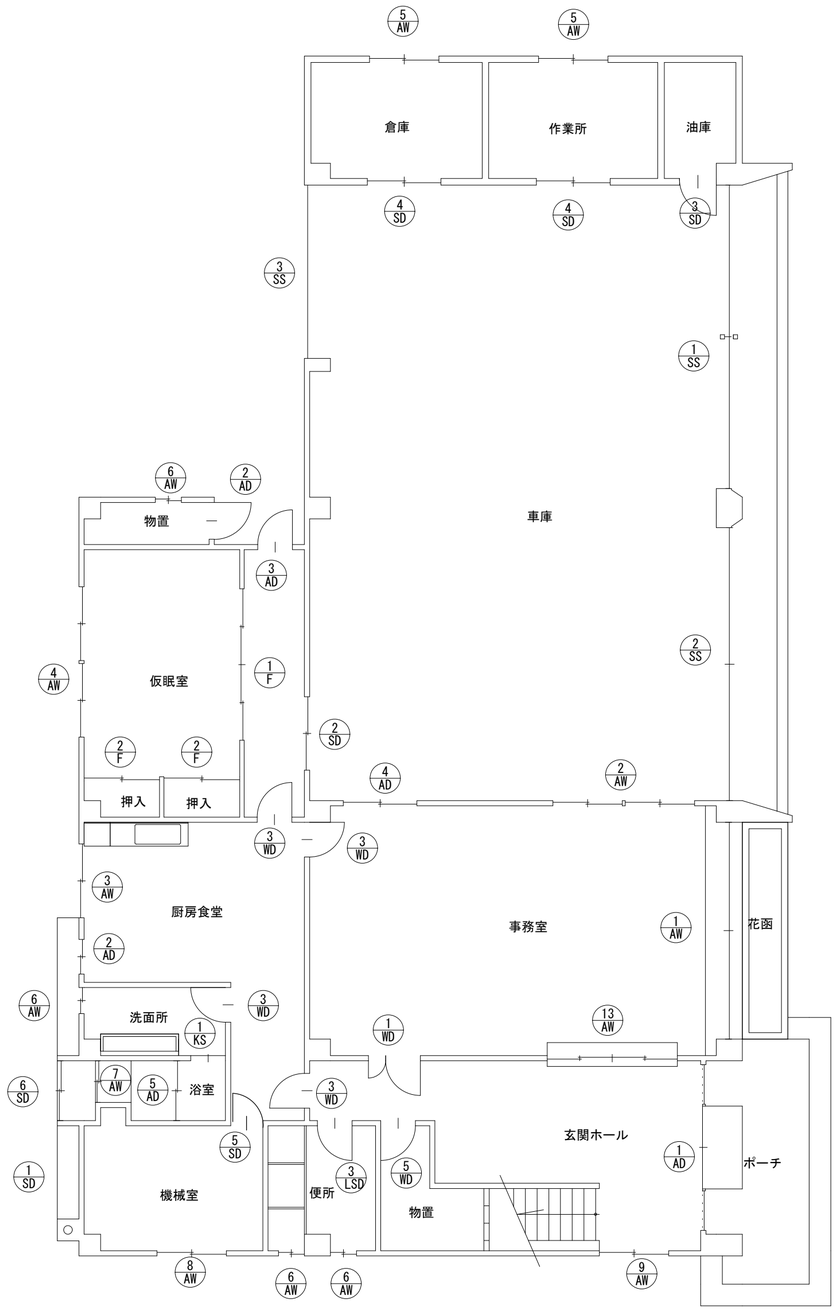
原図：A2

令和　　年　　月

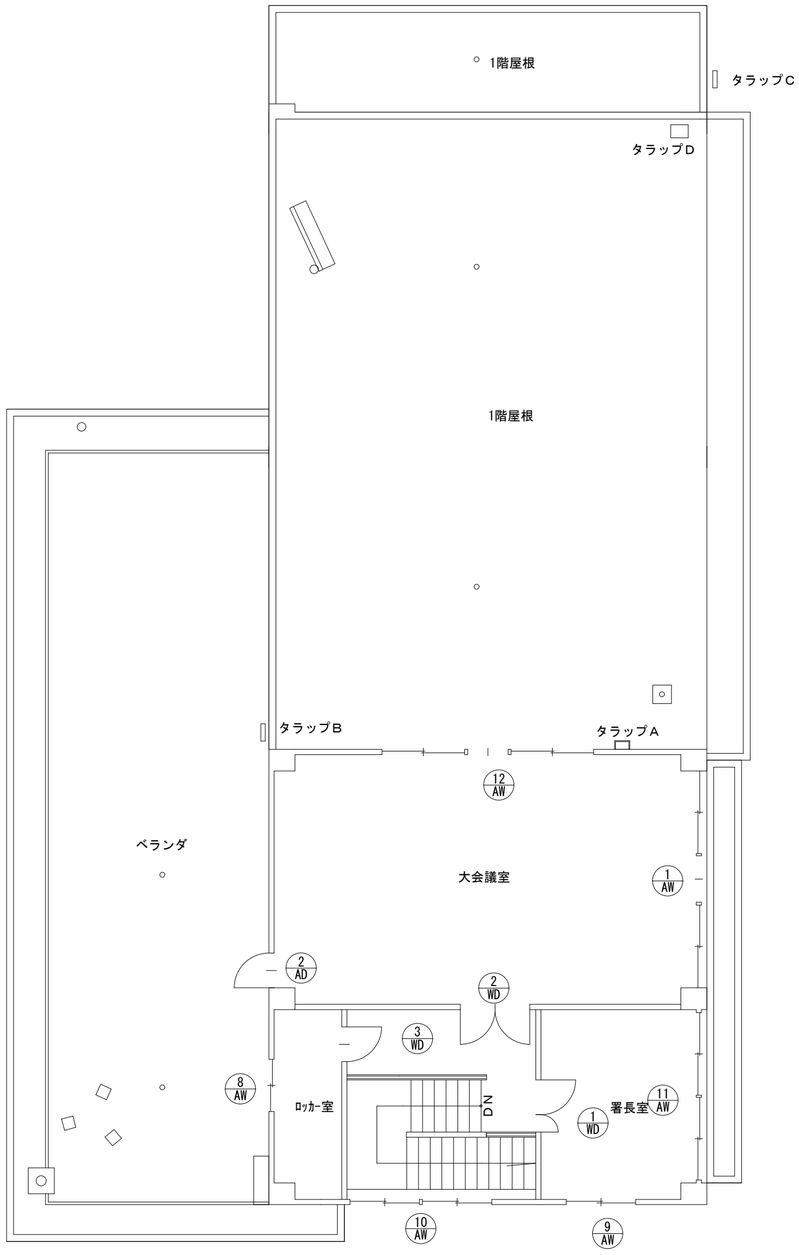
A-19

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡　忠明

参考図



1階



2階

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

建具指示図 1/100

原図：A2

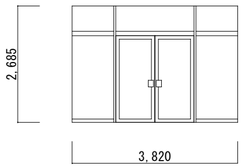
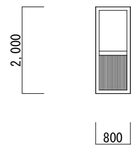
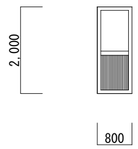
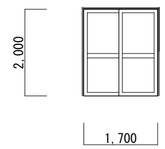
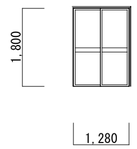
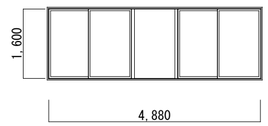
令和 年 月

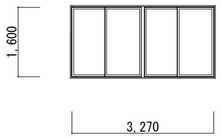
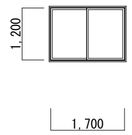
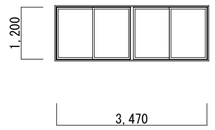
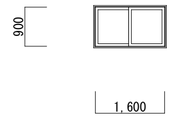
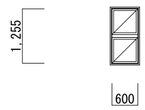
A-20

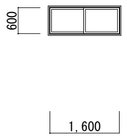
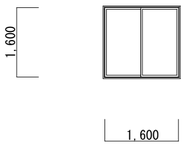
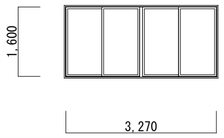
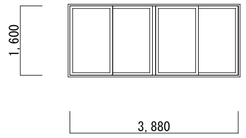
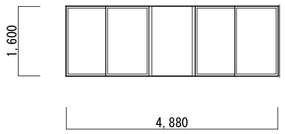
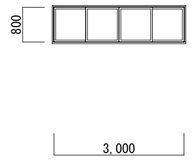
管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

建 具 表

室名・符号・箇所	1 AD 玄関ホール	1	2 AD 大会議室　物置 厨房食堂	3	3 AD 廊下	1	4 AD 事務室	1	5 AD 浴室	1	1 AW 事務室　大会議室	2
姿図												
形式	100　ランマ付両開きガラスドア		70　片開き腰パネルガラスドア		70　片開き腰パネルガラスドア		70　引き違いガラスドア		70　引き違いガラスドア		70　連窓引き違いガラス窓	
仕上	アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト	
シーリング												
備考	透明5ガラス		型4ガラス		型4ガラス		ﾊﾟﾗﾗｲﾝ6.8ガラス		型4ガラス		可動網戸 透明5ガラス	

室名・符号・箇所	2 AW 事務室	1	3 AW 食堂	1	4 AW 仮眠室	1	5 AW 倉庫　作業室	2	6 AW 便所　洗面所　物置	4	7 AW 浴室	1
姿図												
形式	70　連窓引き違いガラス窓		70　引き違いガラス窓		70　連窓引き違いガラス窓		70　引き違いガラス窓		70　2段すべり出しガラス窓		70　すべり出しガラス窓	
仕上	アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト	
シーリング												
備考	可動網戸 ﾊﾟﾗﾗｲﾝ6.8ガラス		可動網戸 透明3ガラス		可動網戸 透明3ガラス		透明3ガラス		型4ガラス		型4ガラス	

室名・符号・箇所	8 AW 空調機械室	2	9 AW 署長室　玄関ホール	2	10 AW 階段室	1	11 AW 署長室	1	12 AW 大会議室	1	13 AW 事務室	1
姿図												
形式	70　引き違いガラス窓		70　引き違いガラス窓		70　連窓引き違いガラス窓		70　連窓引き違いガラス窓		70　連窓引き違いガラス窓		70　連窓引き違いガラス窓	
仕上	アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト		アルミアルマイト	
シーリング												
備考	透明3ガラス		可動網戸（署長室のみ） 透明5ガラス		透明5ガラス		可動網戸 透明5ガラス		可動網戸 透明5ガラス		透明3ガラス	

＊）枠廻りシーリングは特記なき限り20mmとする

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

建具表-1　1/100　　原図：A2

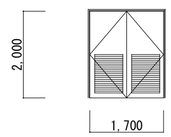
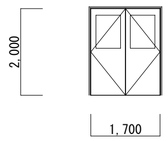
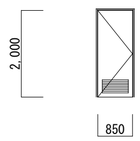
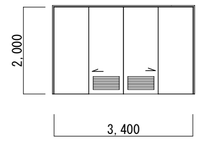
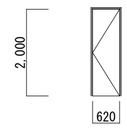
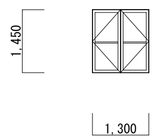
令和　　年　　月

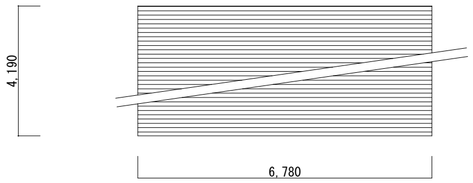
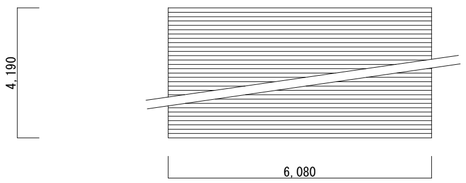
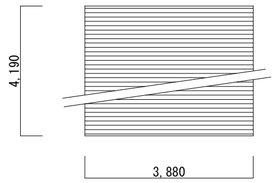
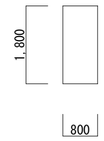
A-21

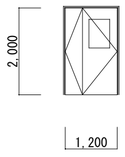
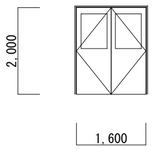
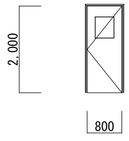
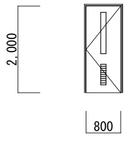
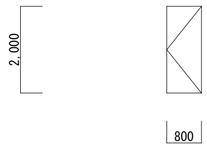
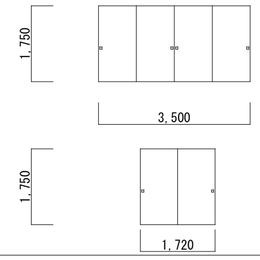
管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

建 具 表

室名・符号・箇所	1 SD 空調機械室	1	2 SD 車庫	1	3 SD 油庫	1	4 SD 倉庫　作業室	2	5 SD 空調機械室	1	6 SD プロパン庫	1
姿図												
形式	80　両開きドア		80　両開きドア		80　両開きドア		80　両引きドア		80　片開きドア		80　アングル両開きドア	
仕上	ｽﾁｰﾙ（枠共）		ｽﾁｰﾙ（枠共）		ｽﾁｰﾙ（枠共）		ｽﾁｰﾙ（枠共）		ｽﾁｰﾙ（枠共）		ｽﾁｰﾙ（L-40x40x3）	
シーリング												
備考	ガラリ650ｘ800		バラライン6.8ガラス		ガラリ650ｘ300		ガラリ650ｘ300					

室名・符号・箇所	1 SS 車庫	1	2 SS 車庫	1	3 SS 車庫	1	1 KS 脱衣室	1
姿図								
形式	ｽﾗｯﾄｔ＝1.6　高速電動シャッター		ｽﾗｯﾄｔ＝1.6　高速電動シャッター		ｽﾗｯﾄｔ＝1.6　高速電動シャッター		塩ビスラッター	
仕上	ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		塩化ビニル	
シーリング								
備考								

室名・符号・箇所	1 WD 署長室　事務室	2	2 WD 大会議室	1	3 WD	5	1 LSD 便所	1	5 WD 物置	1	1 F 2 F 仮眠室	1
姿図												
形式	36　親子両開きベニヤフラッシュドア		36　両開きベニヤフラッシュドア		36　両開きベニヤフラッシュドア		36　片開きフラッシュドア		36　片開きベニヤフラッシュドア		30　4本建てふすま　曳き違いふすま	
仕上	しなベニヤｔ＝3		しなベニヤｔ＝3				ｽﾁｰﾙ		しなベニヤｔ＝3		新鳥の子　しなベニヤｔ＝3	
シーリング											曳き手	
備考	型4ガラス		型4ガラス		型4ガラス		型4ガラス					

既設

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

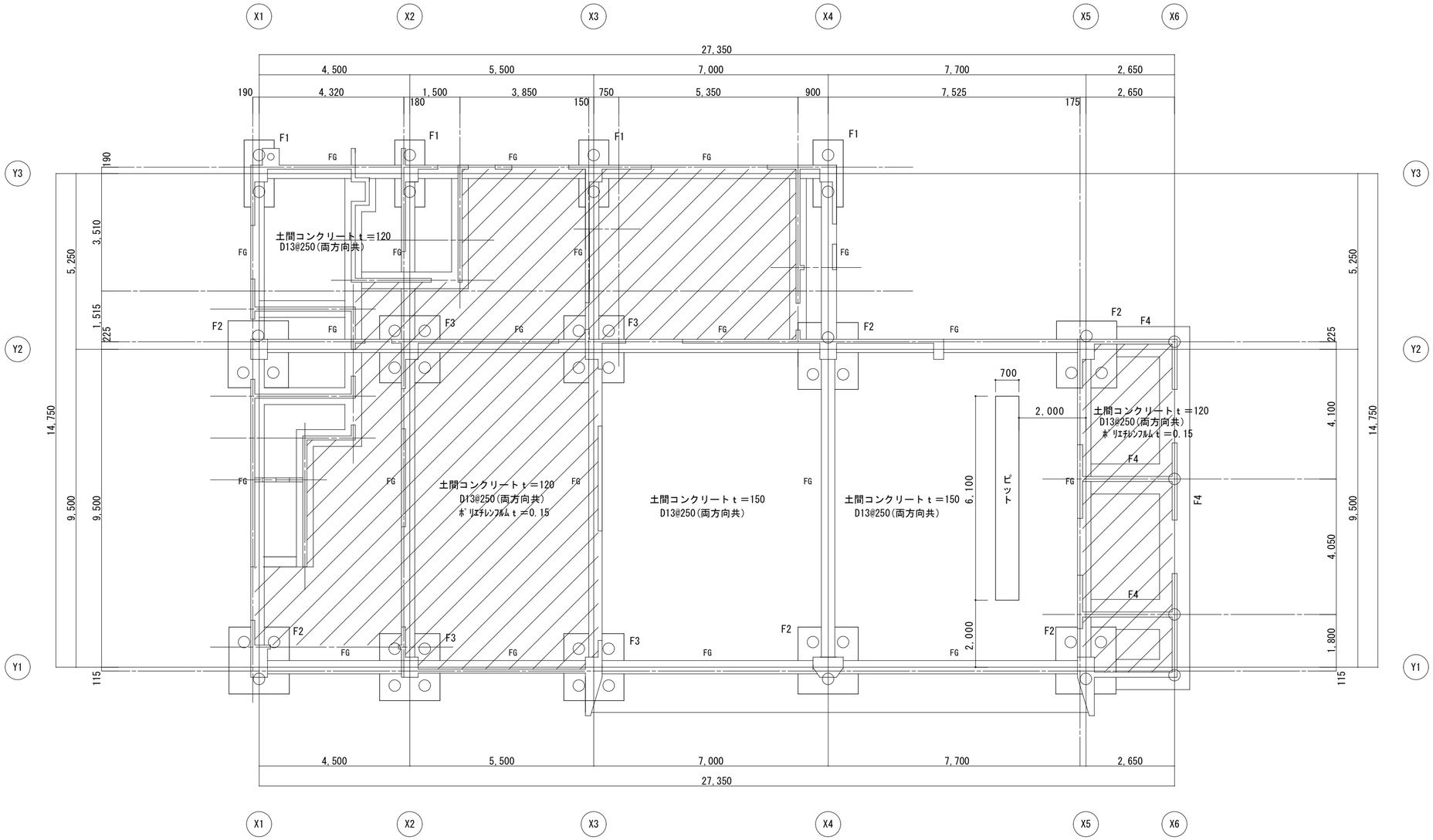
建具表-2　1/100　　原図：A2

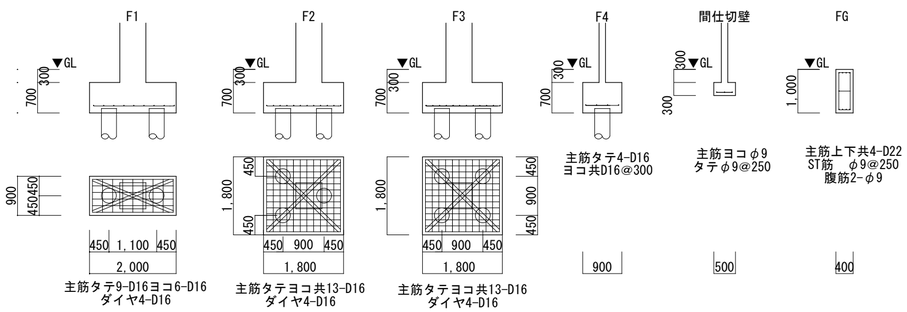
令和　　年　　月

A-22

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図





※　○印はRC杭　　φ350　L=20,000　46本

※　杭抜きはケーシング工法による。

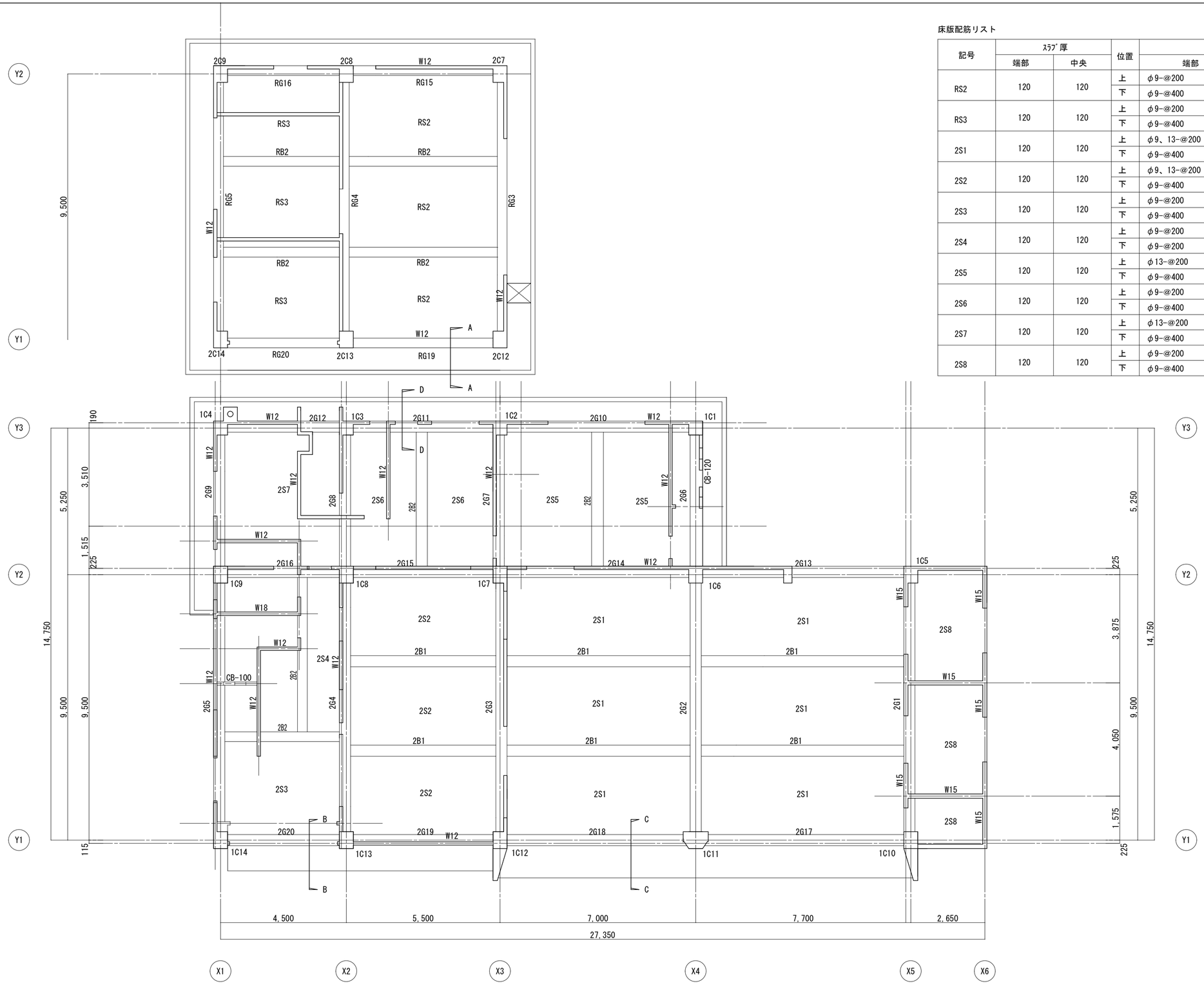
※　杭抜き後は川砂（A種）により埋め戻すこと。

※　土間配筋：φ9@300（両方向共）

※　斜線部分：ポリエチレンフィルムt＝0.15mm

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事		令和　年　月
	基礎伏図　基礎リスト　1/100	原図：A2	A-23
			管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



床版配筋リスト

記号	ｽﾗﾌﾞ厚		位置	短辺方向		長辺方向	
	端部	中央		端部	中央	端部	中央
RS2	120	120	上	φ9-@200		φ9-@250	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@500	φ9-@250
RS3	120	120	上	φ9-@200		φ9-@250	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@500	φ9-@250
2S1	120	120	上	φ9、13-@200		φ9-@200	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@400	φ9-@200
2S2	120	120	上	φ9、13-@200		φ9-@200	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@400	φ9-@200
2S3	120	120	上	φ9-@200		φ9.13-@250	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@500	φ9-@250
2S4	120	120	上	φ9-@200	φ9-@200	φ9-@250	φ9-@250
			下	φ9-@200	φ9-@200	φ9-@250	φ9-@250
2S5	120	120	上	φ13-@200		φ9.13-@250	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@500	φ9-@250
2S6	120	120	上	φ9-@200		φ9-@250	
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@500	φ9-@250
2S7	120	120	上	φ13-@200		φ13-@250	
			下	φ9-@400	φ9.13-@200	φ9-@500	φ9.13-@250
2S8	120	120	上	φ9-@200	φ9-@200	φ9-@200	φ9-@200
			下	φ9-@400	φ9-@200	φ9-@200	φ9-@200

※特記なき壁厚さ：120mm

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

梁伏図　スラブリスト　1/100

原図：A2

令和　年　月

A-24

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡　忠明

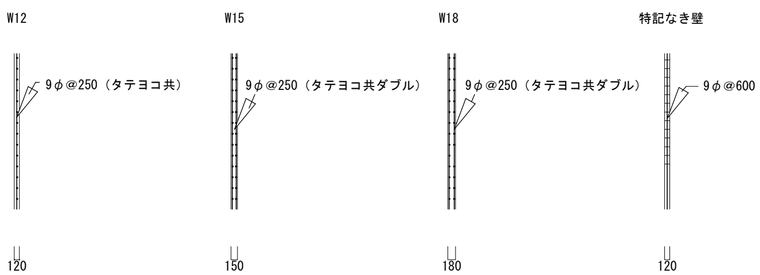
参考図

	RG3～5			RG15.16.19.20				2G1		2G2			2G3			2G4.5			2G6			2G7		
	外端	中央	内端	外端	中央	内端		端部	中央	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端
断面	800 / 400			600 / 350				1,000 / 400		1,000 / 400			1,000 / 400			900 / 400			700 / 350			700 / 350		
上	4-D22	3-D22	4-D22	3-D19	2-D19	3-D19		4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	5-D25	4-D25	6-D25	5-D25	4-D25	2-D25	4-D25	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	2-D25	5-D25
下	2-D22	5-D22	2-D22	2-D19	3-D19	2-D19		2-D25	6-D25	2-D25	6-D25	5-D25	2-D25	6-D25	3-D25	2-D25	4-D25	2-D25	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	2-D25	3-D25
STP	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250		13φ@120	9φ@250	13φ@120	9φ@250	13φ@120	13φ@120	9φ@250	13φ@120	13φ@150	9φ@250	13φ@150	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250

	2G8.9			2G10.11			2G12			2G13.17			2G14.18			2G15.19			2G16.20					
	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端
断面	700 / 350			700 / 350			700 / 350			700 / 350			700 / 350			700 / 350			700 / 350					
上	2-D25	2-D25	4-D25	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	2-D22	4-D22	4-D22	2-D22	5-D22	4-D22	2-D22	5-D22	4-D22	2-D22	4-D22			
下	2-D25	2-D25	2-D25	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	2-D22			
STP	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250			

	RB2		2B1		2B2	
	端部	中央	端部	中央	端部	中央
断面	500 / 300		650 / 300		600 / 300	
上	3-D19	2-D19	4-D22	2-D22	3-D19	2-D19
下	2-D19	3-D19	2-D22	4-D22	2-D19	3-D19
STP	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250

	2C7.8.9.12.13.14		1C1	1C2～4	1C5.6.8.9.10.11.13.14	1C7.12	
断面	500 / 600 (Y, X)		500 / 500 (Y, X)	500 / 500 (Y, X)	600 / 500 (Y, X)	600 / 500 (Y, X)	
主筋	10-D22		8-D25	10-D25	12-D25	16-D25	
FP	9φ@100		9φ@100	9φ@100	9φ@100	9φ@100	
rib	9φ@600		9φ@600	9φ@600	9φ@600	9φ@600	



壁配筋図

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

柱 梁リスト 1/100

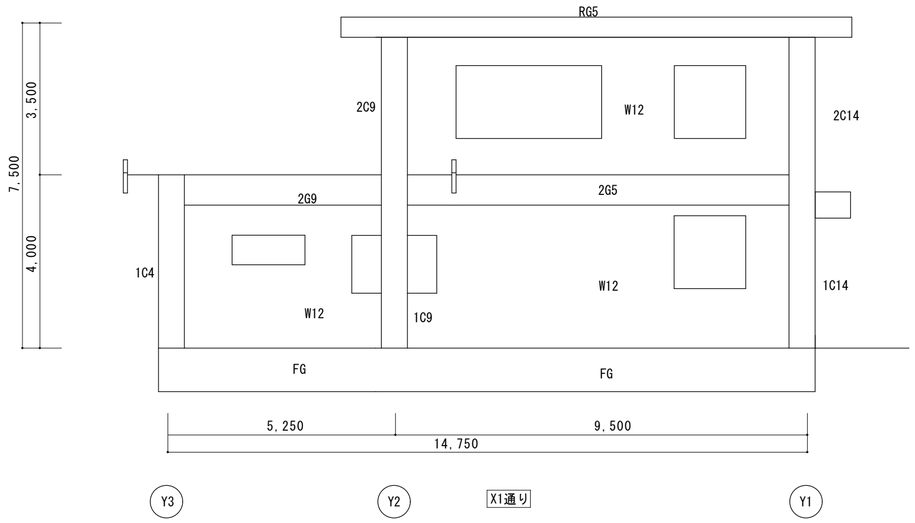
原図：A2

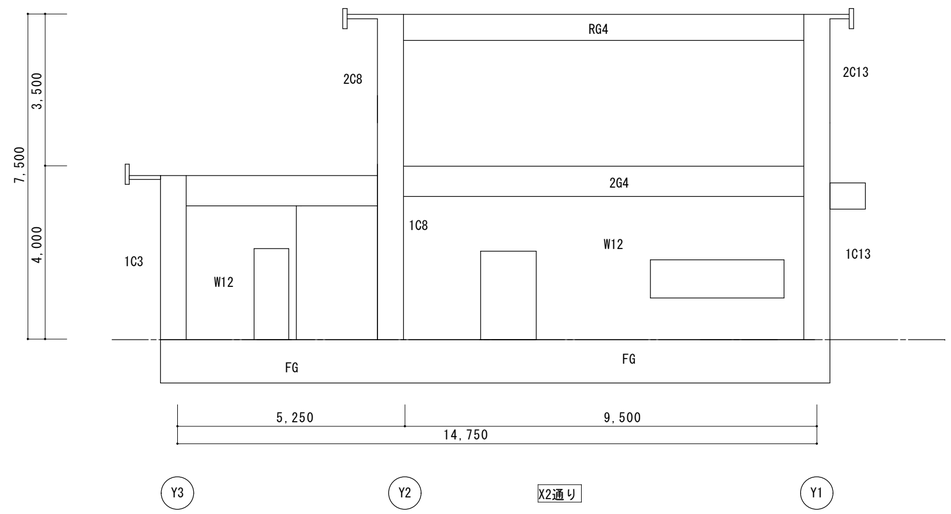
令和 年 月

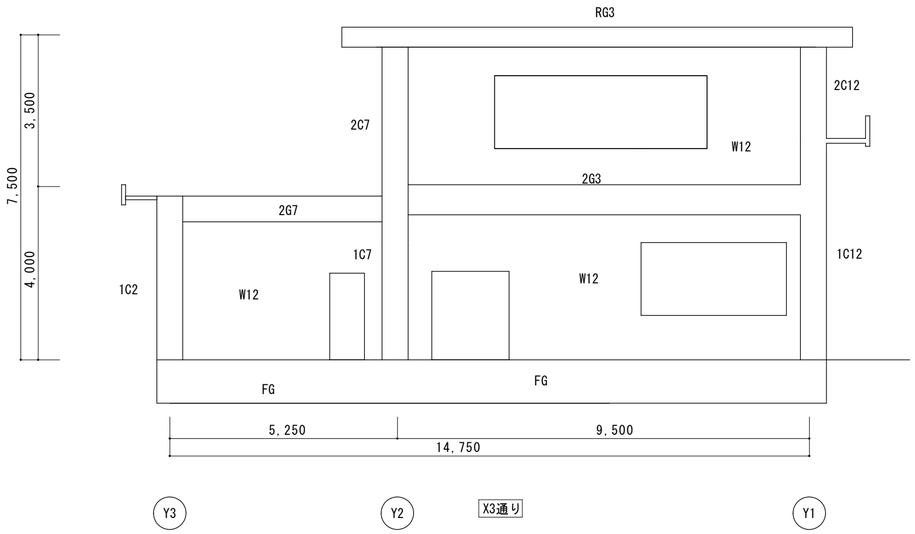
A-25

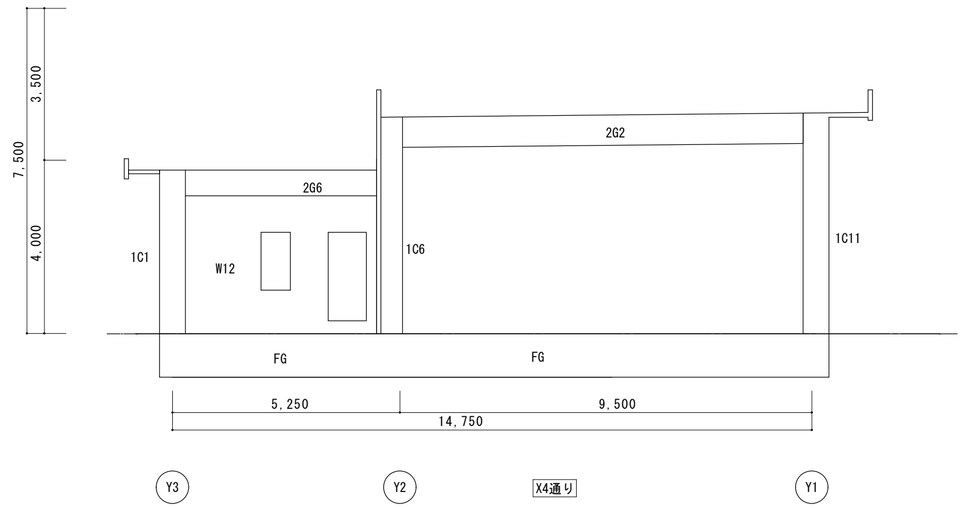
管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

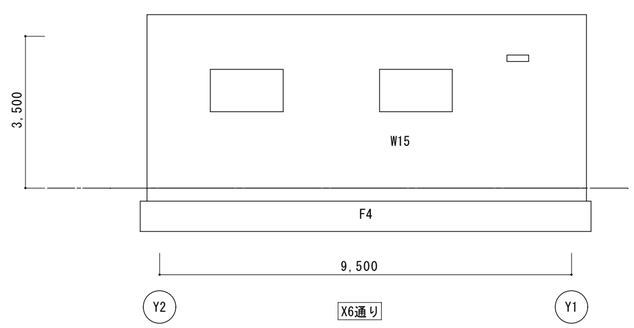
参考図

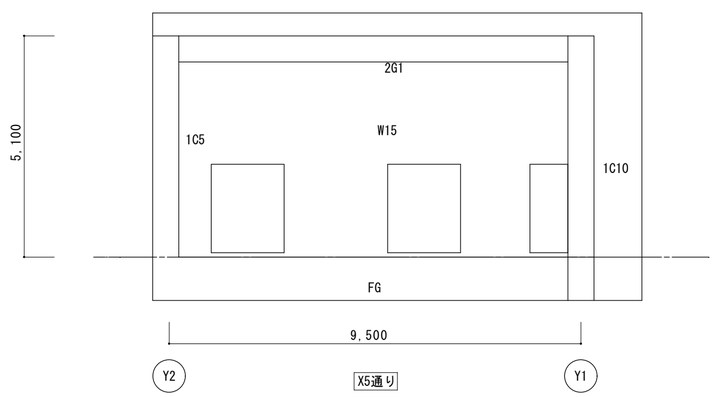












NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

軸組図-1 1/100

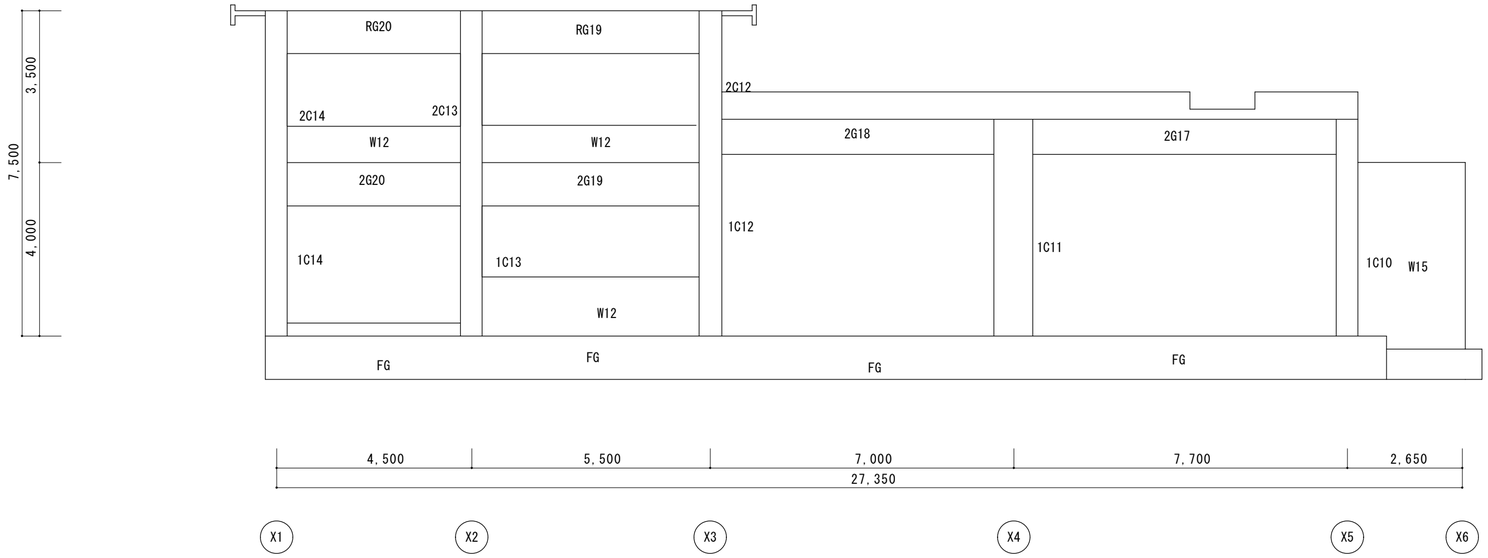
原図：A2

令和 年 月

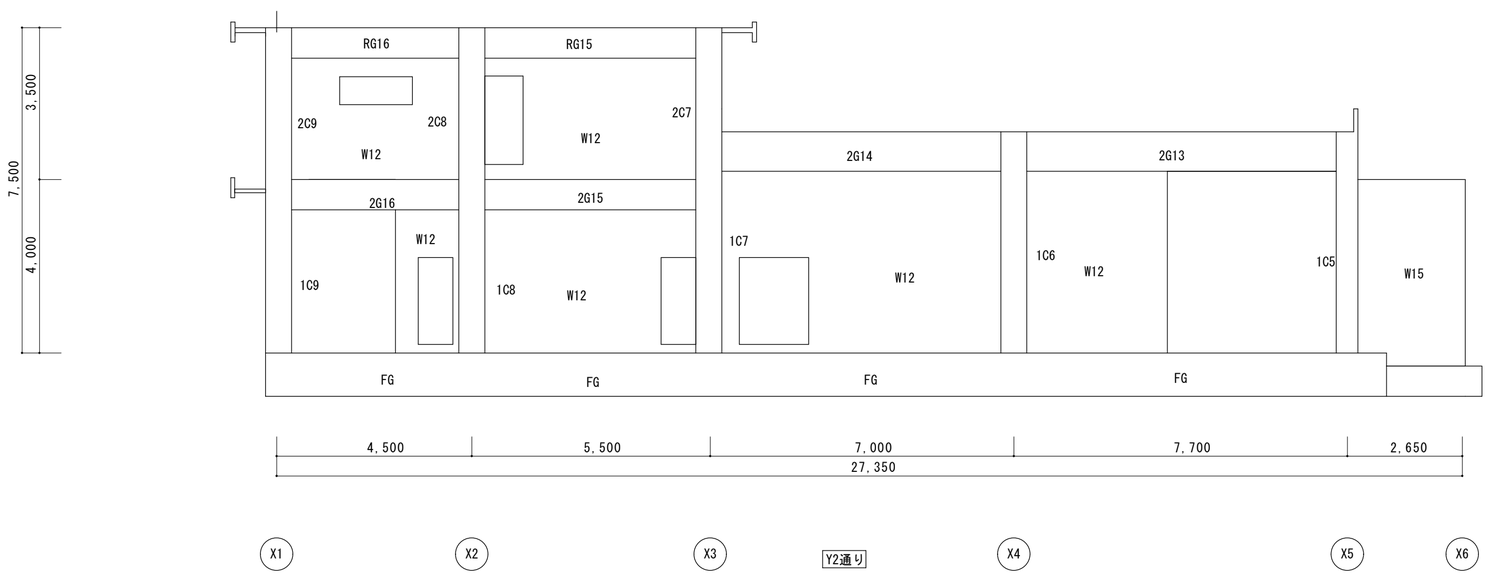
A-26

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

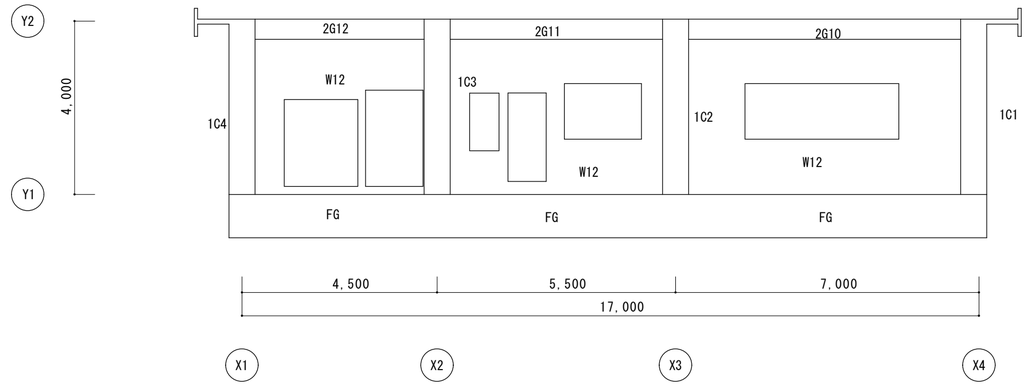
参考図



Y1通り



Y2通り



Y3通り

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

軸組図-2 1/100

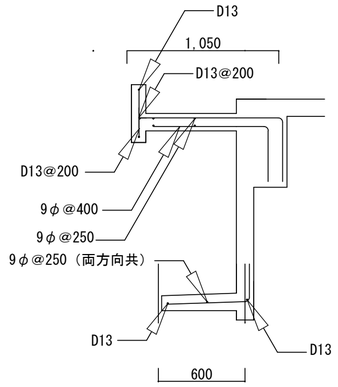
原図：A2

令和 年 月

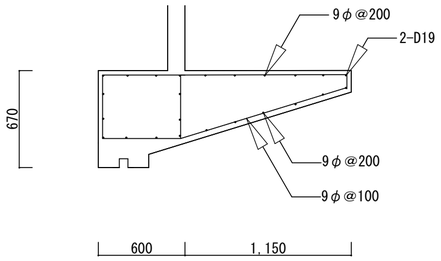
A-27

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

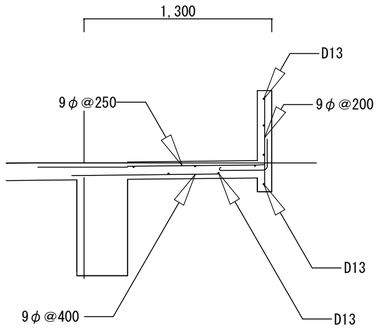
参考図



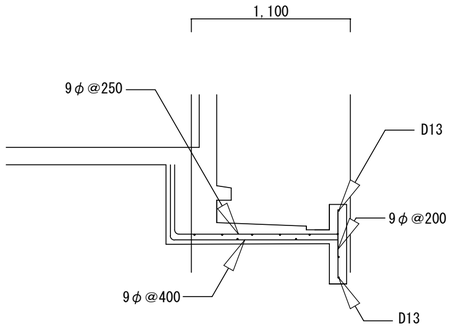
D-D



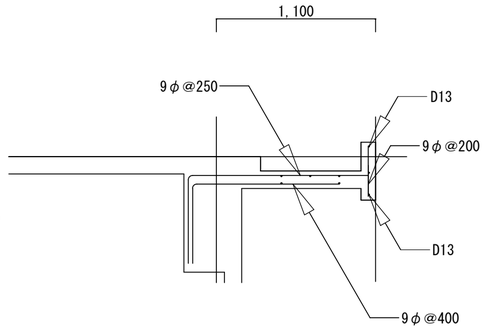
1C12柱部



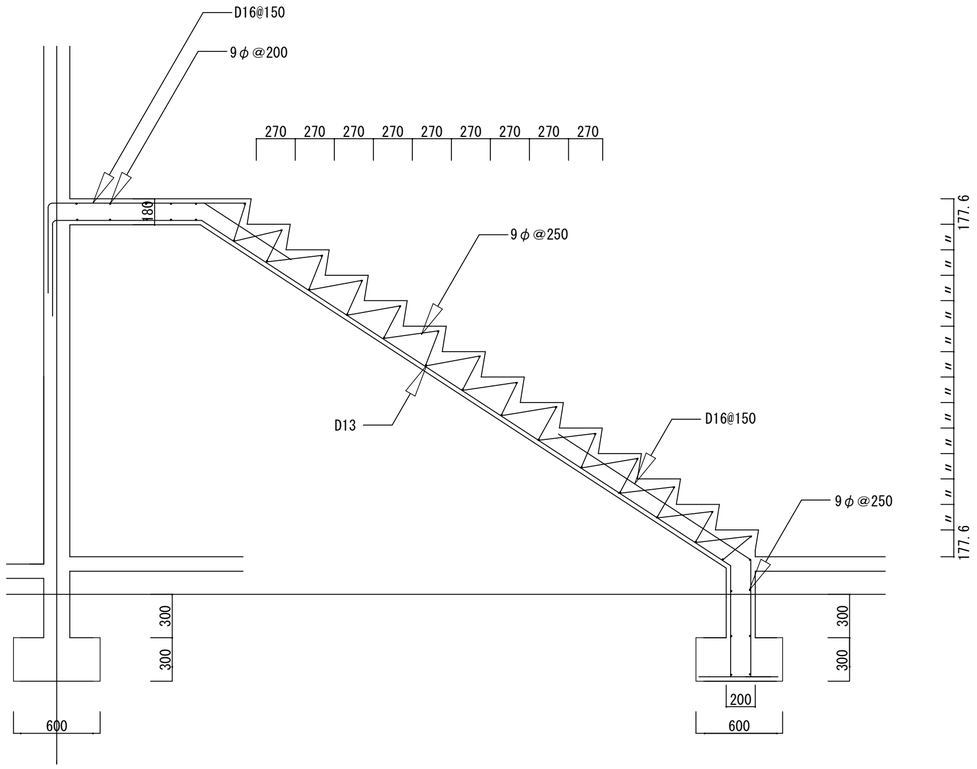
C-C

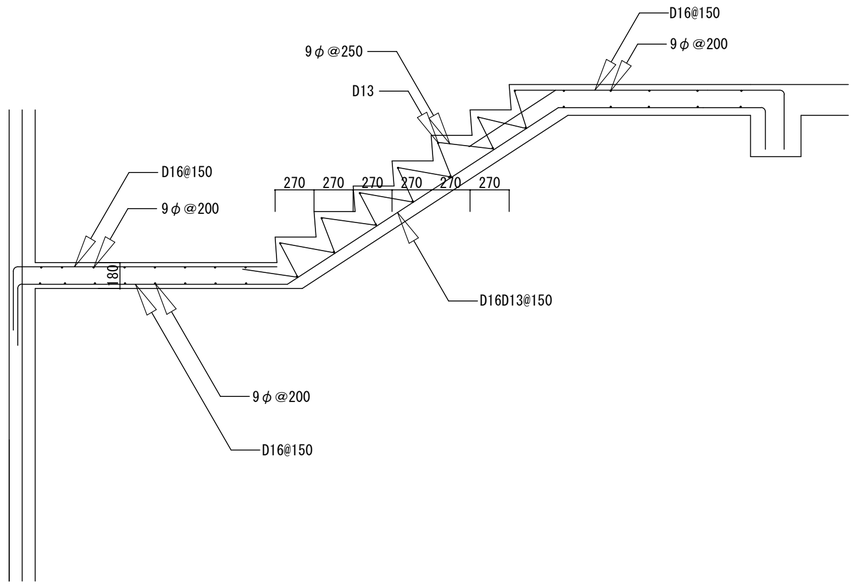


B-B



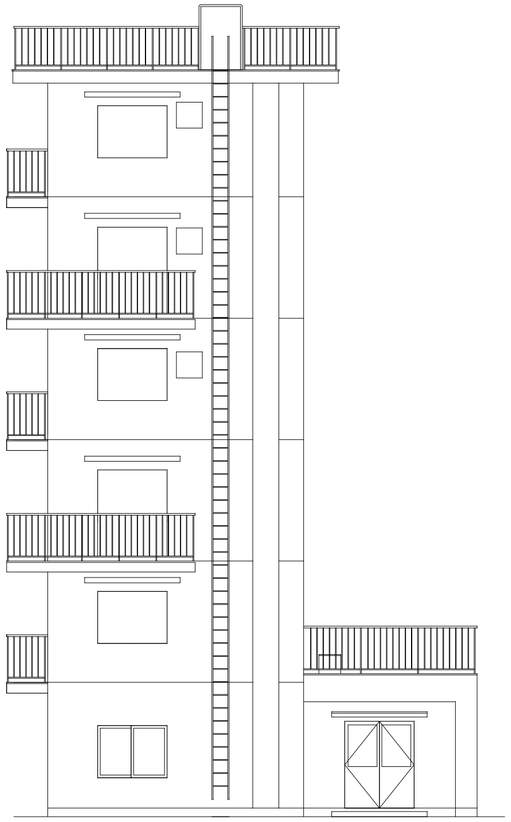
A-A



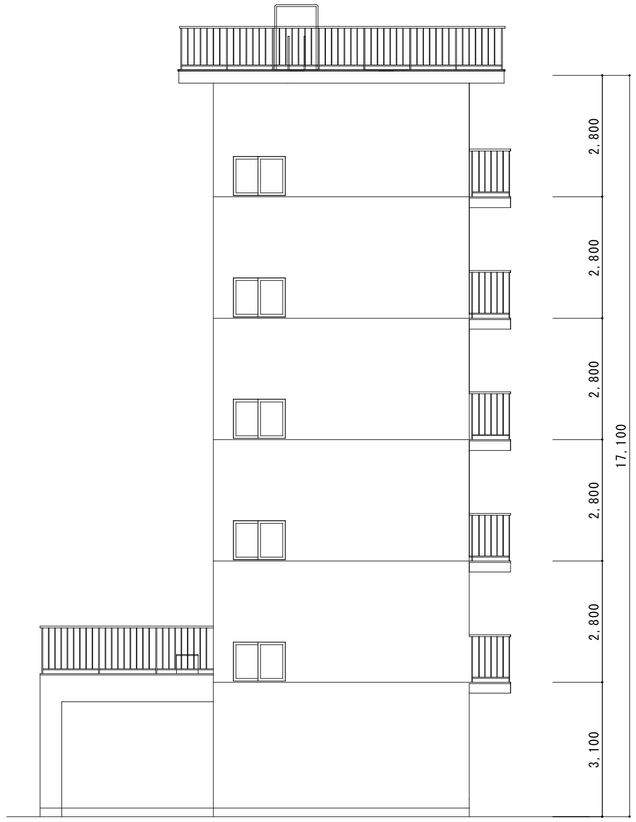


NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事		令和 年 月
			A-28
	階段その他配筋図 1/30	原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

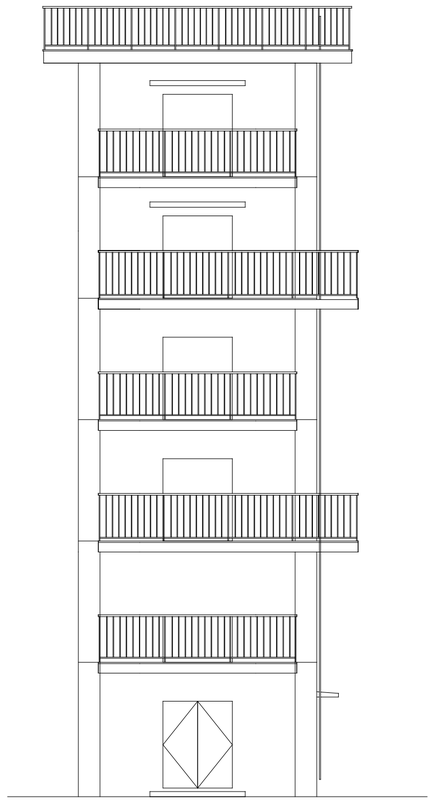
参考図



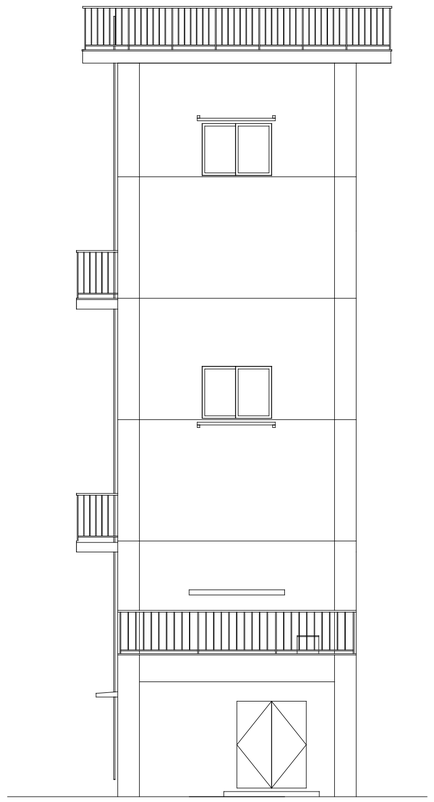
西立面図



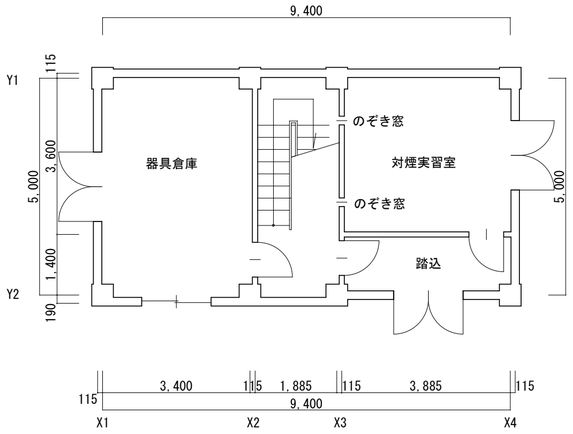
東立面図



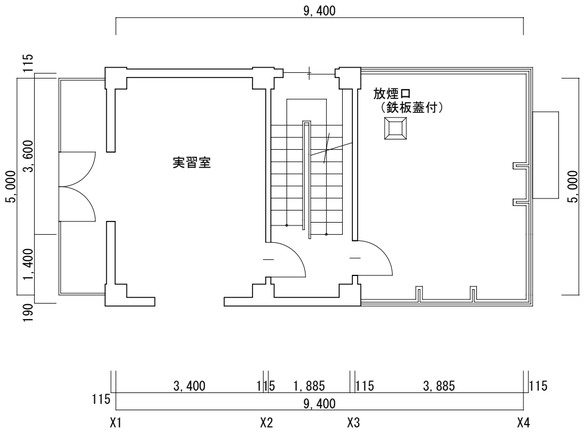
北立面図



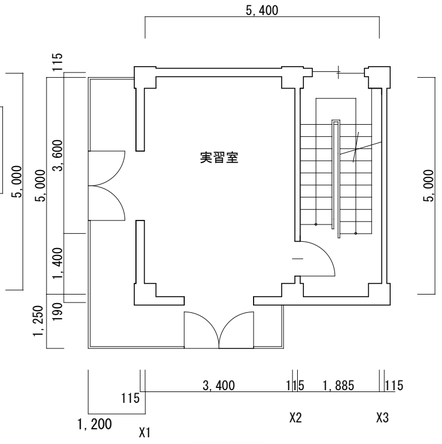
南立面図



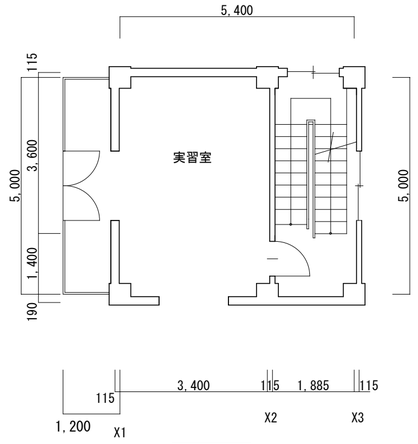
1階平面図



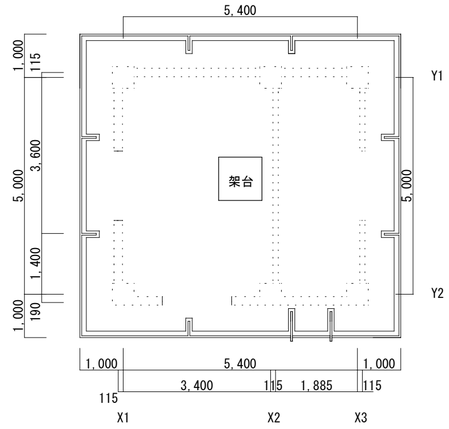
2階平面図



3.5階平面図



4.6階平面図



屋階平面図

NAGAOKA
一級建築士事務所
長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

訓練搭　平面図　立面図-1　1/100

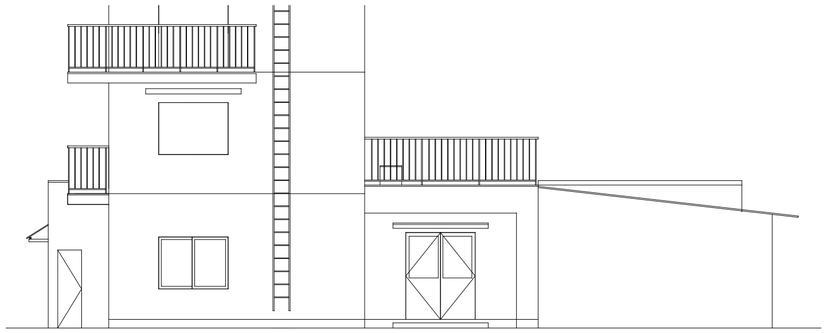
原図：A2

令和　年　月

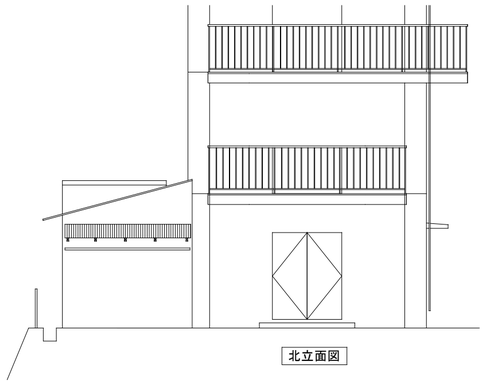
A-29

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

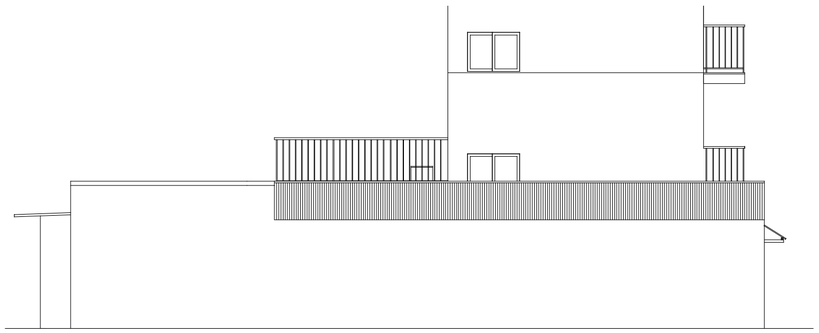
参考図



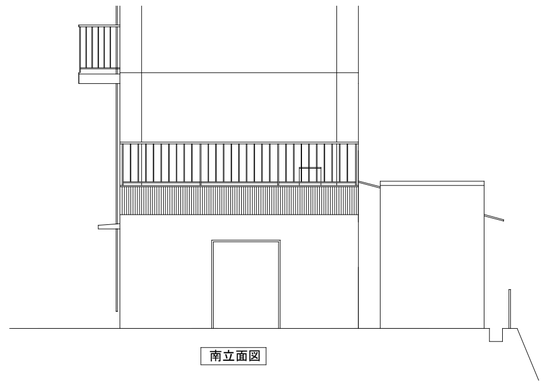
西立面図



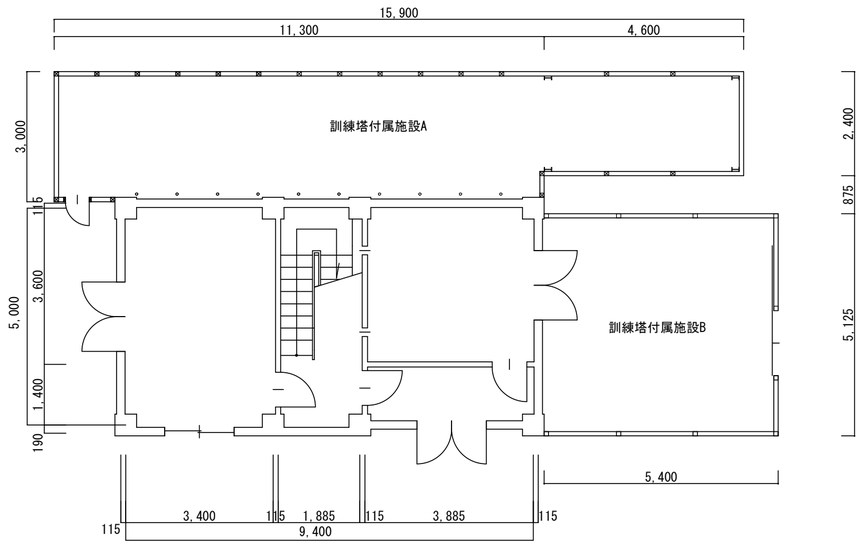
北立面図



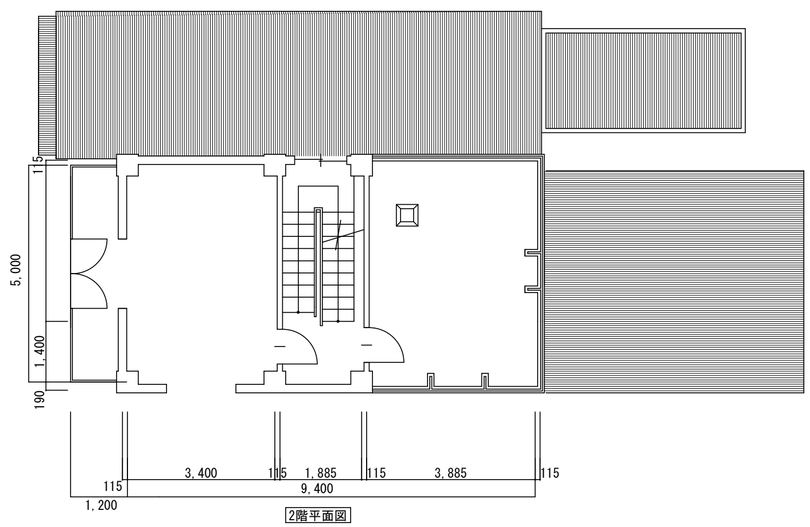
東立面図



南立面図



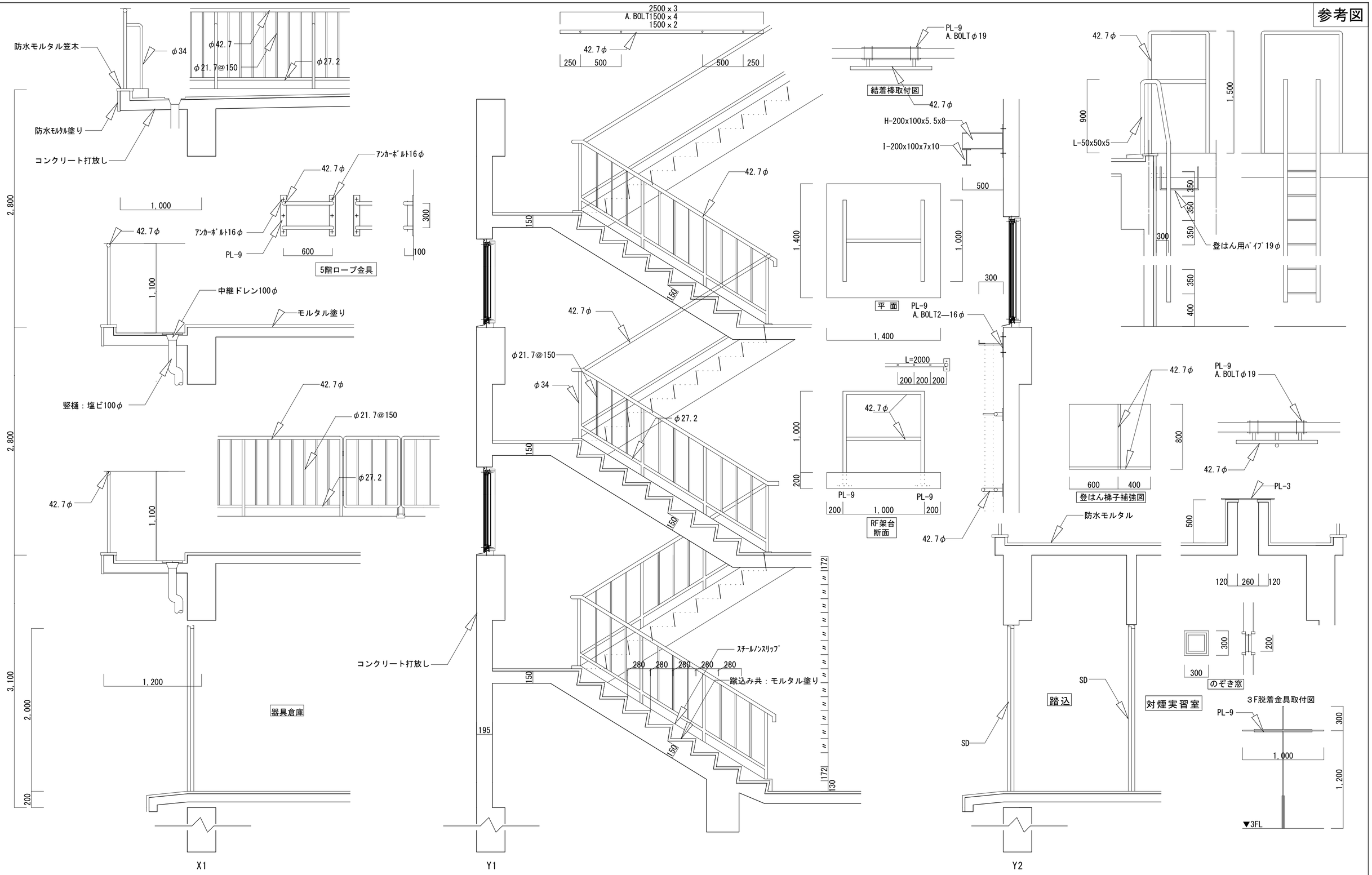
1階平面図



2階平面図

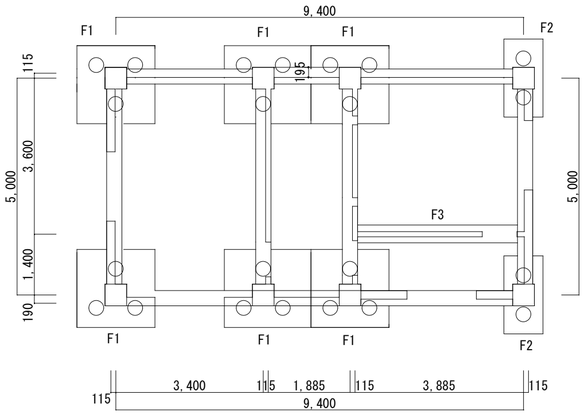
NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事		令和 年 月
			A-30
	訓練塔 平面図 立面図-2 1/100	原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図



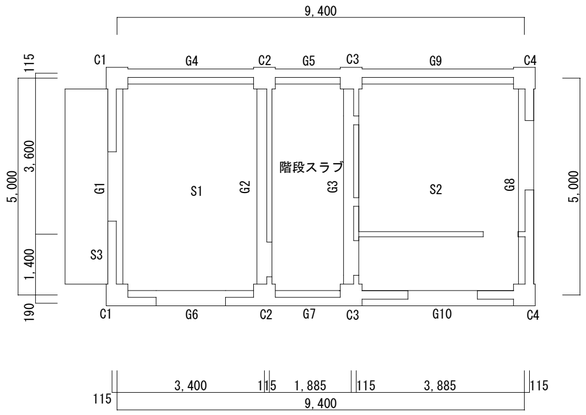
NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事	令和 年 月	
	訓練搭 断面詳細図 1/50	A-31	原図：A2
		管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明	

参考図

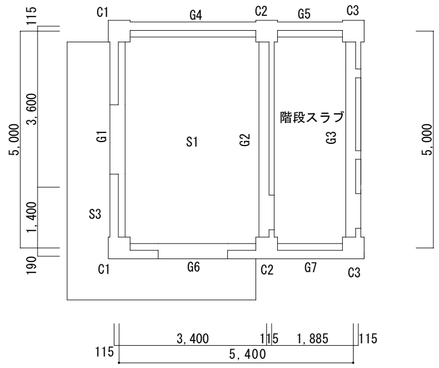


※特記なき壁厚は120とする。
※土間コンクリート t =120(13φ@250両方向共)

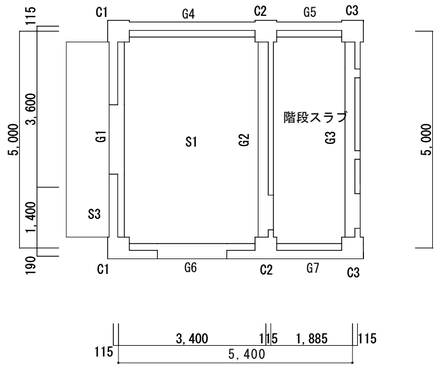
基礎伏図



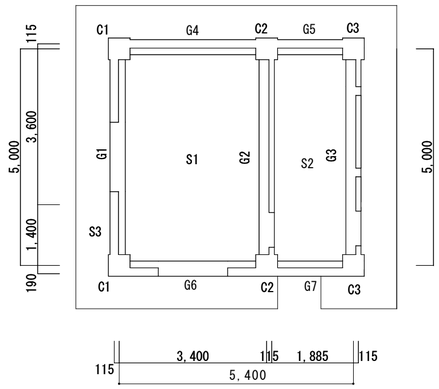
2階



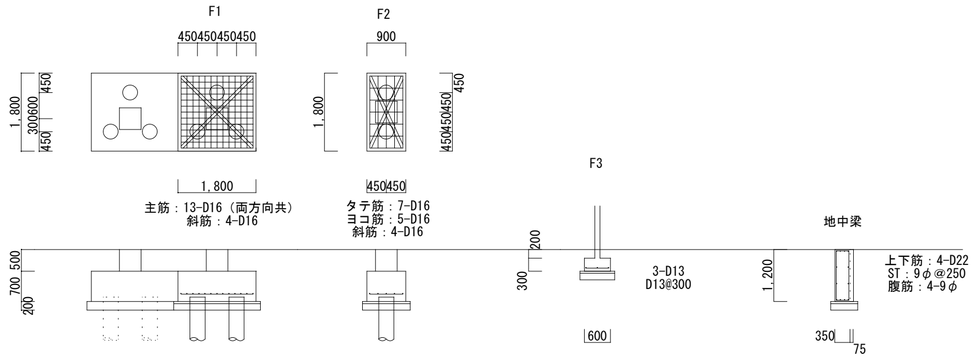
3、5階



4,6階



R階



※　○印はRC杭　　φ350　L=20,000　22本

※　杭抜きはケーシング工法による。

※　杭抜き後は川砂（A種）により埋め戻すこと。

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月
		訓練搭　基礎伏図　基礎リスト　1/100　原図：A2	A-32
			管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

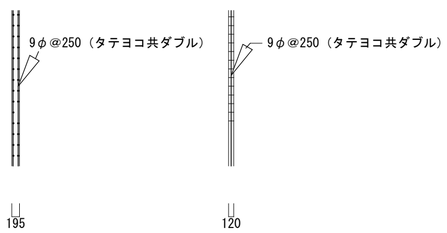
	RG1～3		RG4～7			6G1～3		6G4～7			5G1～3		5G4～7		
	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端
断面	500 350		500 350			600 350		600 350			600 350		600 350		
上	3-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19
下	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
STP	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250

	4G1～3		4G4～7			3G1～3		3G4～7			2G1～3.8		2G4～7.9.10		
	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端
断面	700 350		700 350			700 350		700 350			800 350		800 350		
上	5-D19	2-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D22	2-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
STP	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250 13φ@150	9φ@250	9φ@250 13φ@150	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250	9φ@250

	3～6C	2C	1C		
断面	500 500 Y X	500 500 Y X	500 500 Y X	Y X	Y X
主筋	8-D19	8-D22	12-D22		
FP	9φ@100	9φ@100	9φ@100		
piq	9φ@600	9φ@600	9φ@600		

	スラブ厚			短辺方向		長辺方向	
				端部	中央	端部	中央
RS1	120	120	上	9.13φ@200	—	9φ@250	—
			下	9φ@400	9φ@200	9φ@500	9φ@250
RS2	120	120	上	9φ@200	9φ@200	9φ@250	9φ@250
			下	9φ@200	9φ@200	9φ@250	9φ@250
2～6S1	120	120	上	9.13φ@200	—	9φ@200	—
			下	9φ@400	9φ@200	9φ@400	9φ@200
2S2	120	120	上	9.13φ@200	—	9φ@200	—
			下	9φ@400	9φ@200	9φ@400	9φ@200
RS3	120	—	上	9.13φ@200	—	9φ@400	—
			下	9φ@400	—	9φ@400	—
2～6S3	150	—	上	9.13φ@200	—	9φ@400	—
			下	9φ@400	—	9φ@400	—

周辺部は9φ@250



壁配筋図

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

訓練搭 柱 梁 リスト 1/100

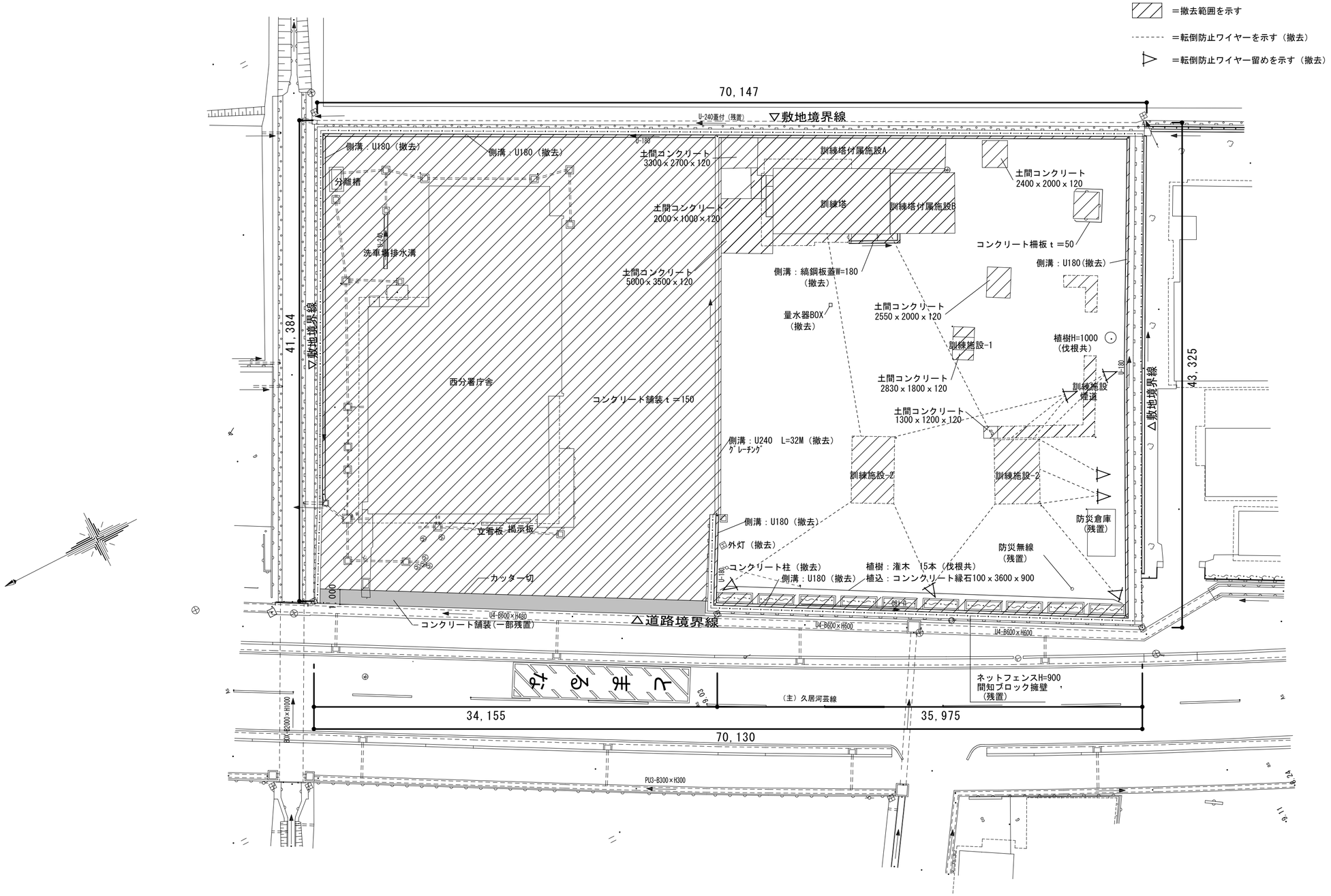
原図：A2

令和 年 月

A-33

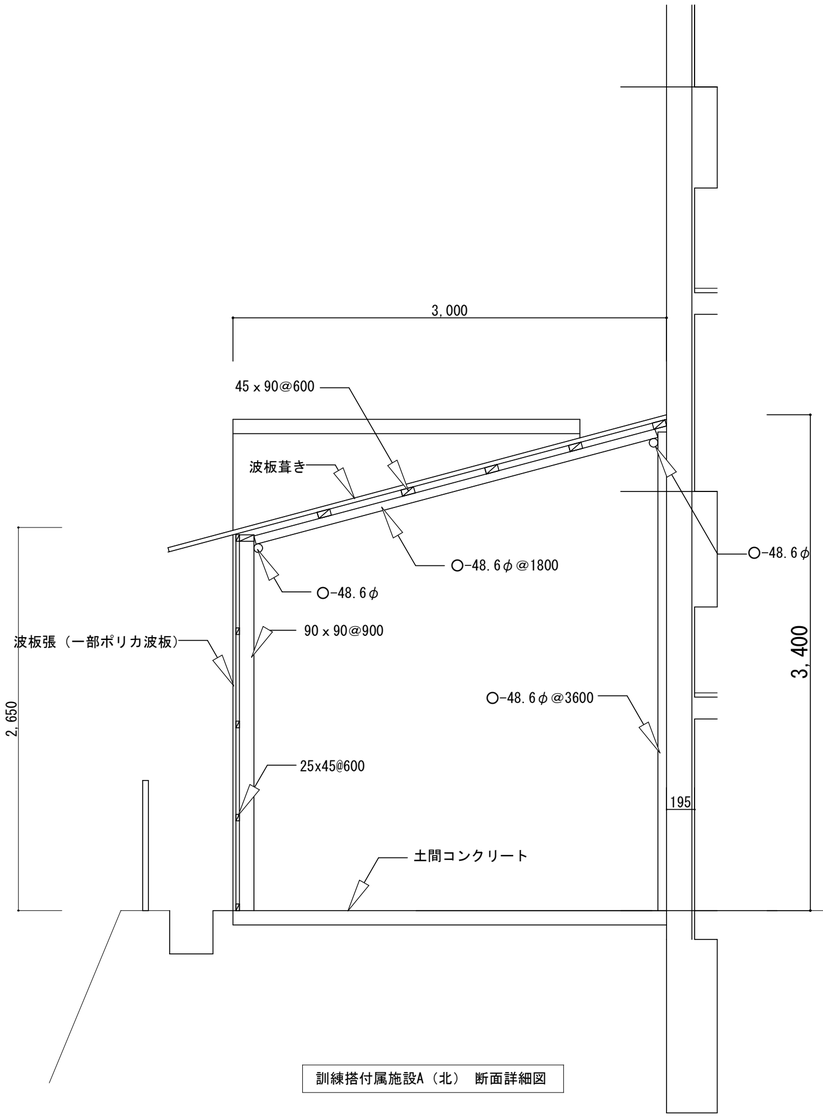
管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

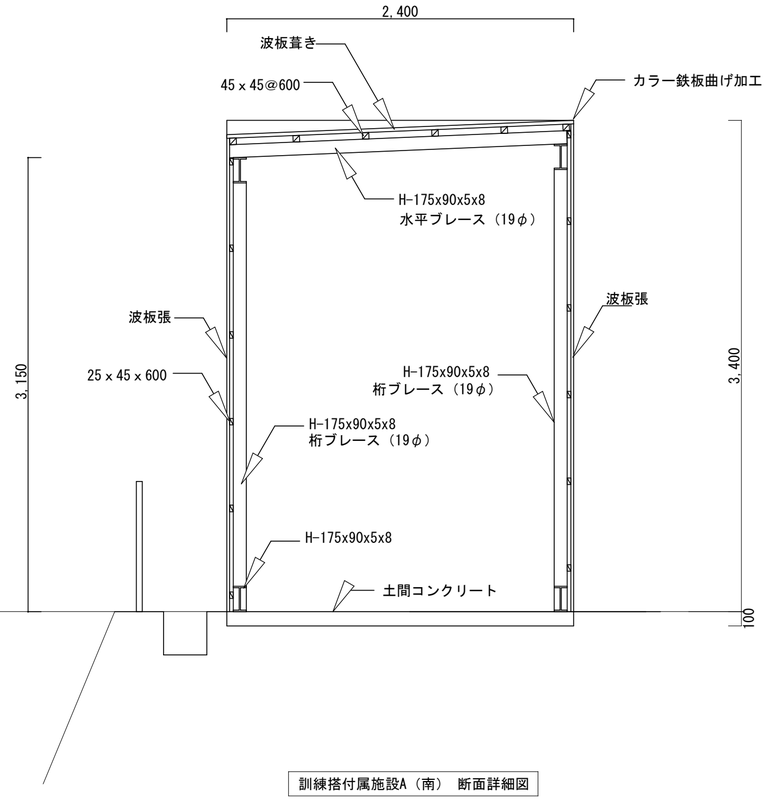


NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月	
	屋外付帯工事　配置図　1/200	A-34	原図：A2
		管理建築士 一級建築士第236153号	長岡　忠明

参考図



訓練搭付属施設A（北） 断面詳細図



訓練搭付属施設A（南） 断面詳細図

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

訓練搭付属施設A 断面詳細図 1/30

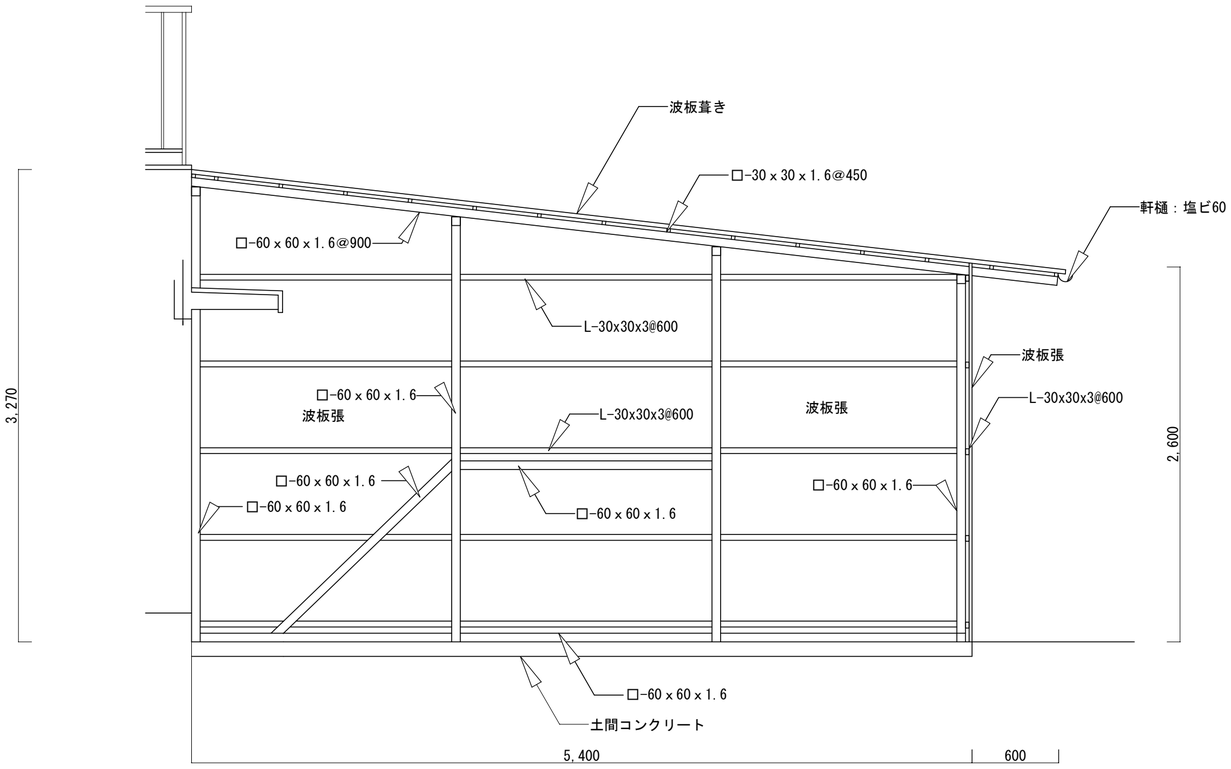
原図：A2

令和 年 月

A-35

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図



訓練搭付属施設B 断面詳細図

NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計

津市中消防署西分署解体工事

訓練搭付属施設B　断面詳細図　1/30

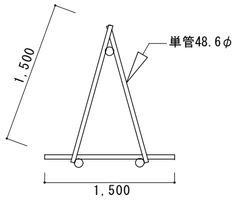
原図：A2

令和　年　月

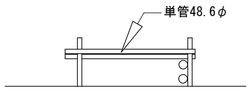
A-36

管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

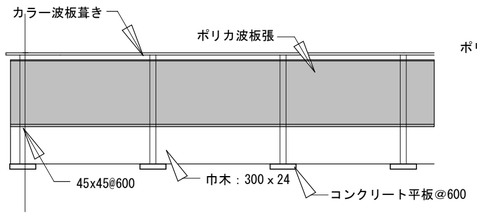
参考図



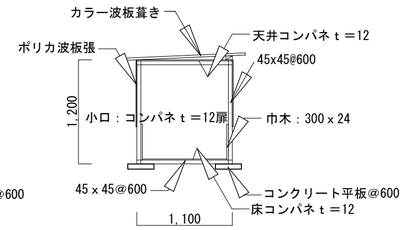
ワイヤー留め　平面図



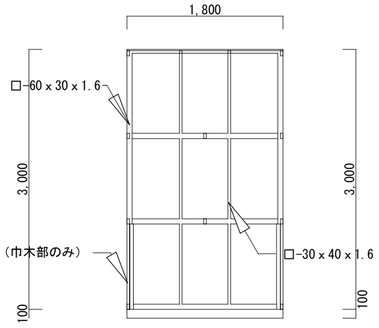
ワイヤー留め　立面図



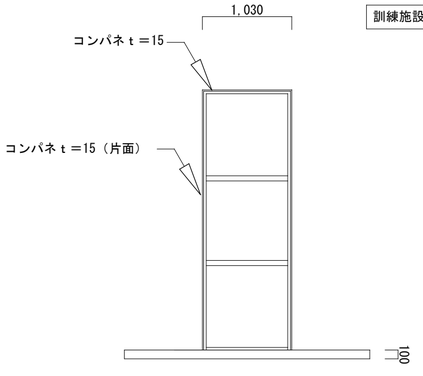
煙道　立面図



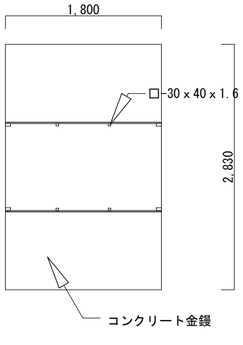
煙道　詳細図



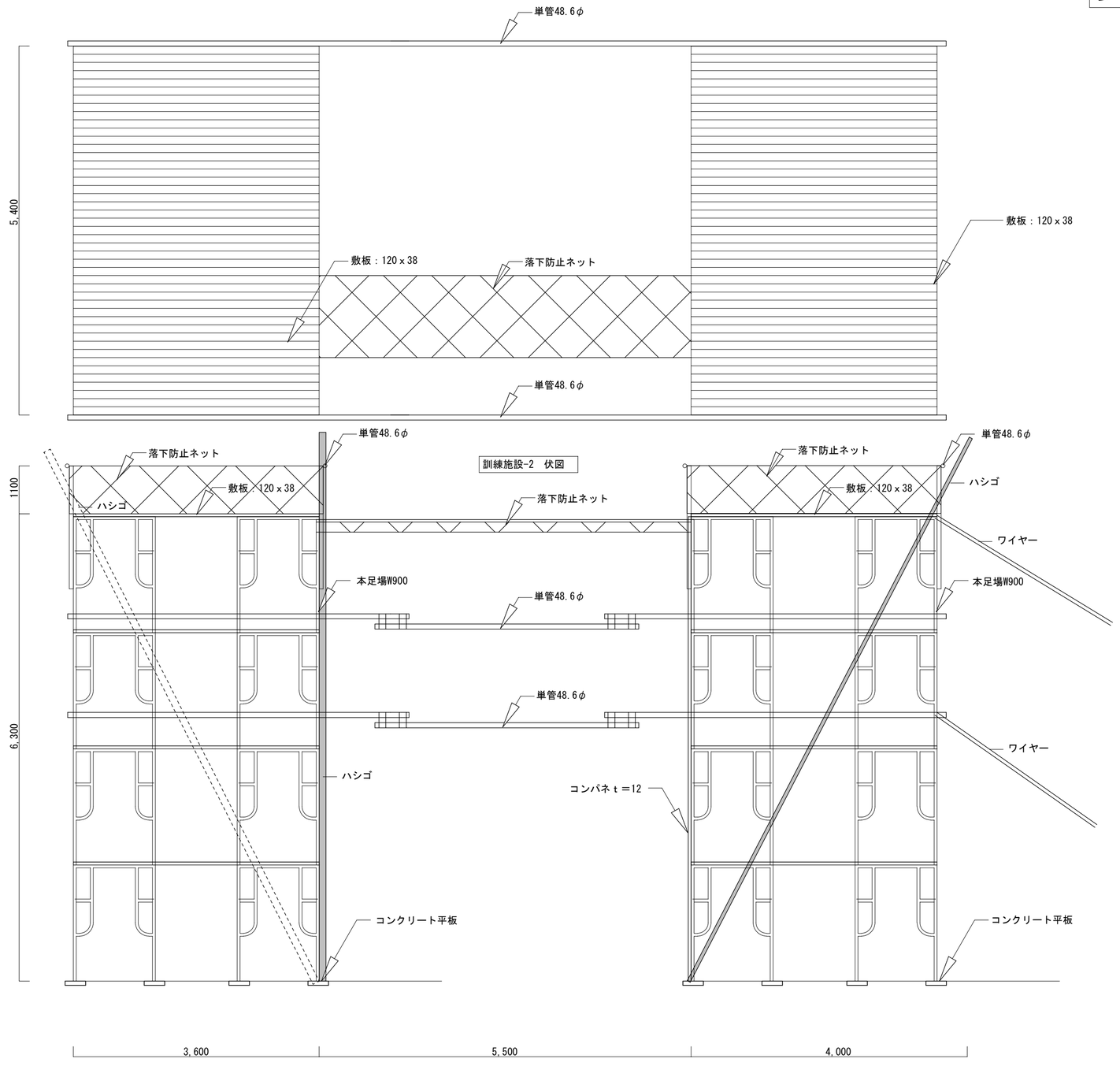
訓練施設-1　詳細図



訓練施設-1　立面図



訓練施設-1　平面図

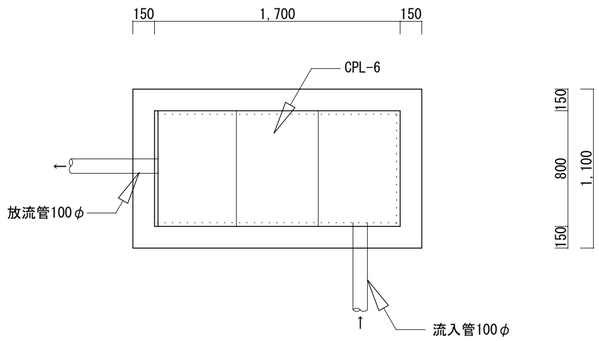


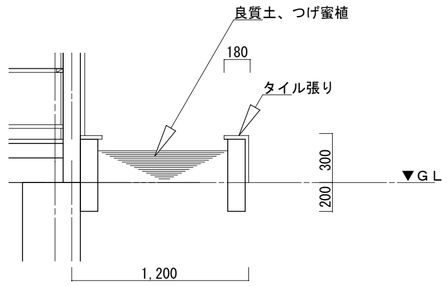
訓練施設-2　伏図

訓練施設-2　立面図

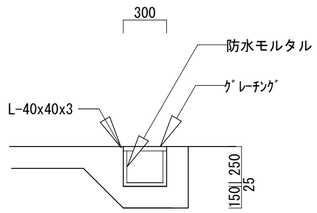
NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事		令和　年　月
	屋外付帯工事　詳細図-1　1/50	原図：A2	A-37
			管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

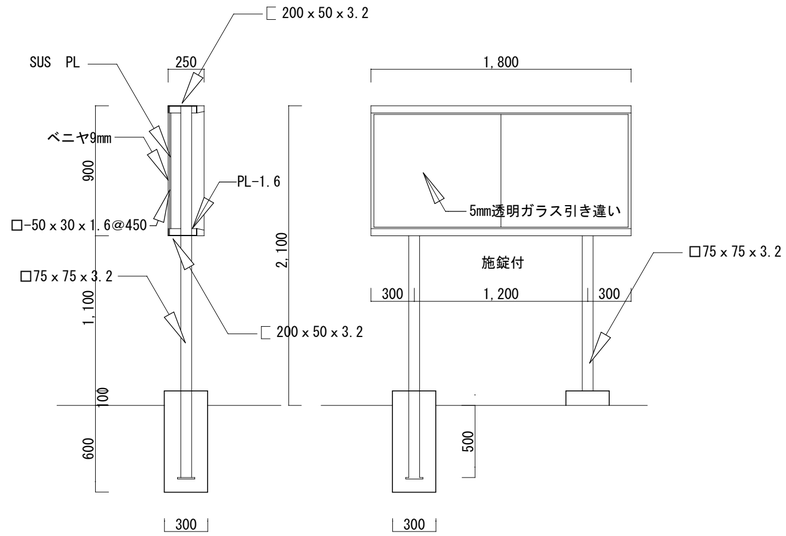




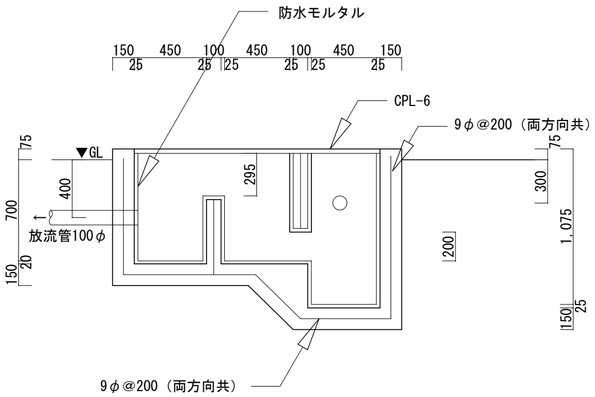
花　壇



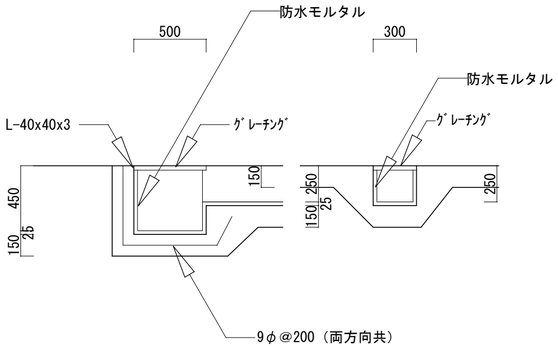
雨排水溝(U240)



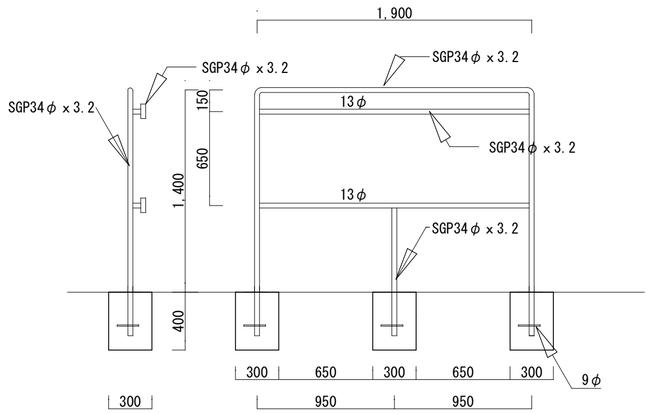
掲示板



油水分離槽



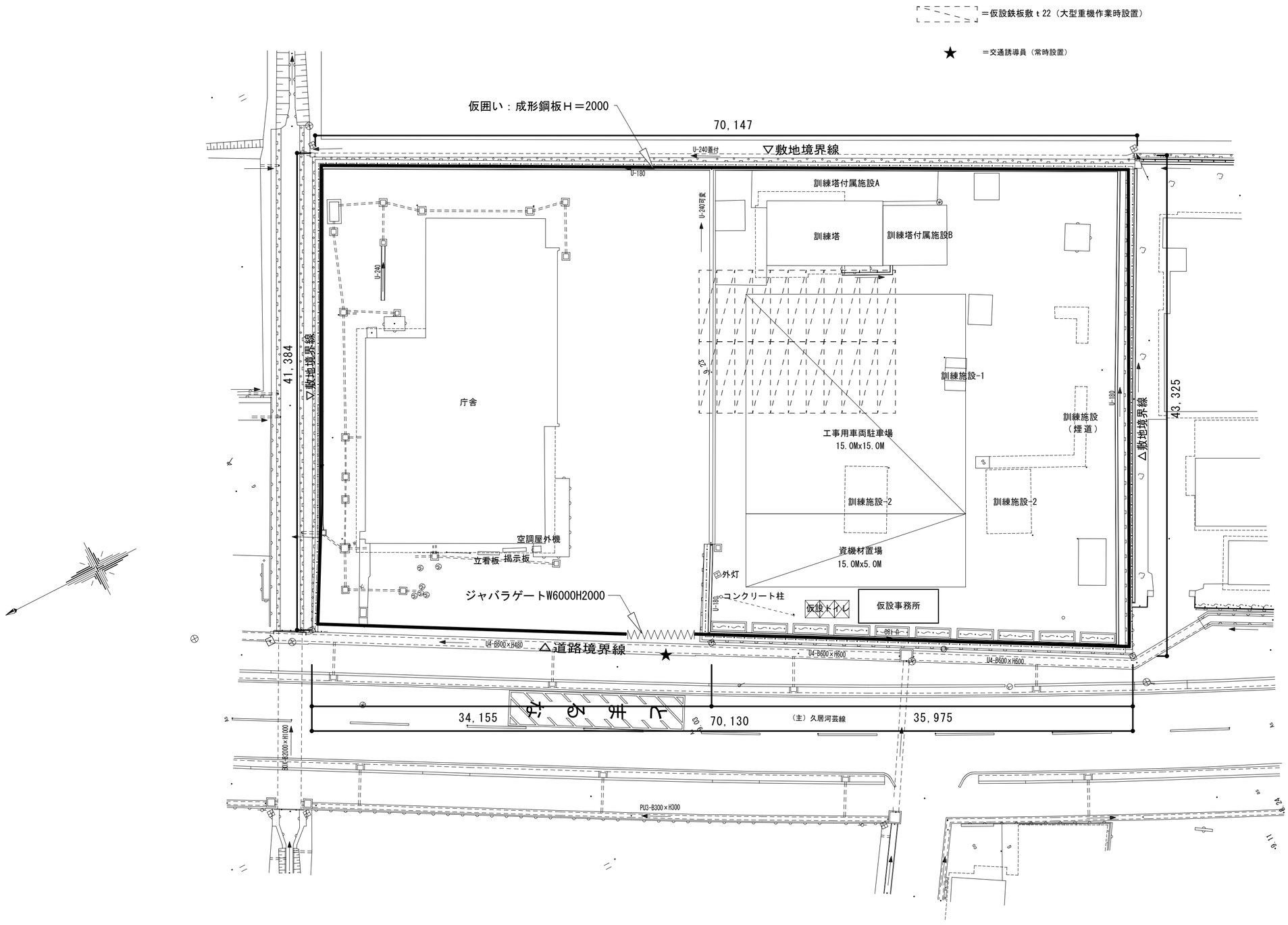
洗車場排水溝



立看板

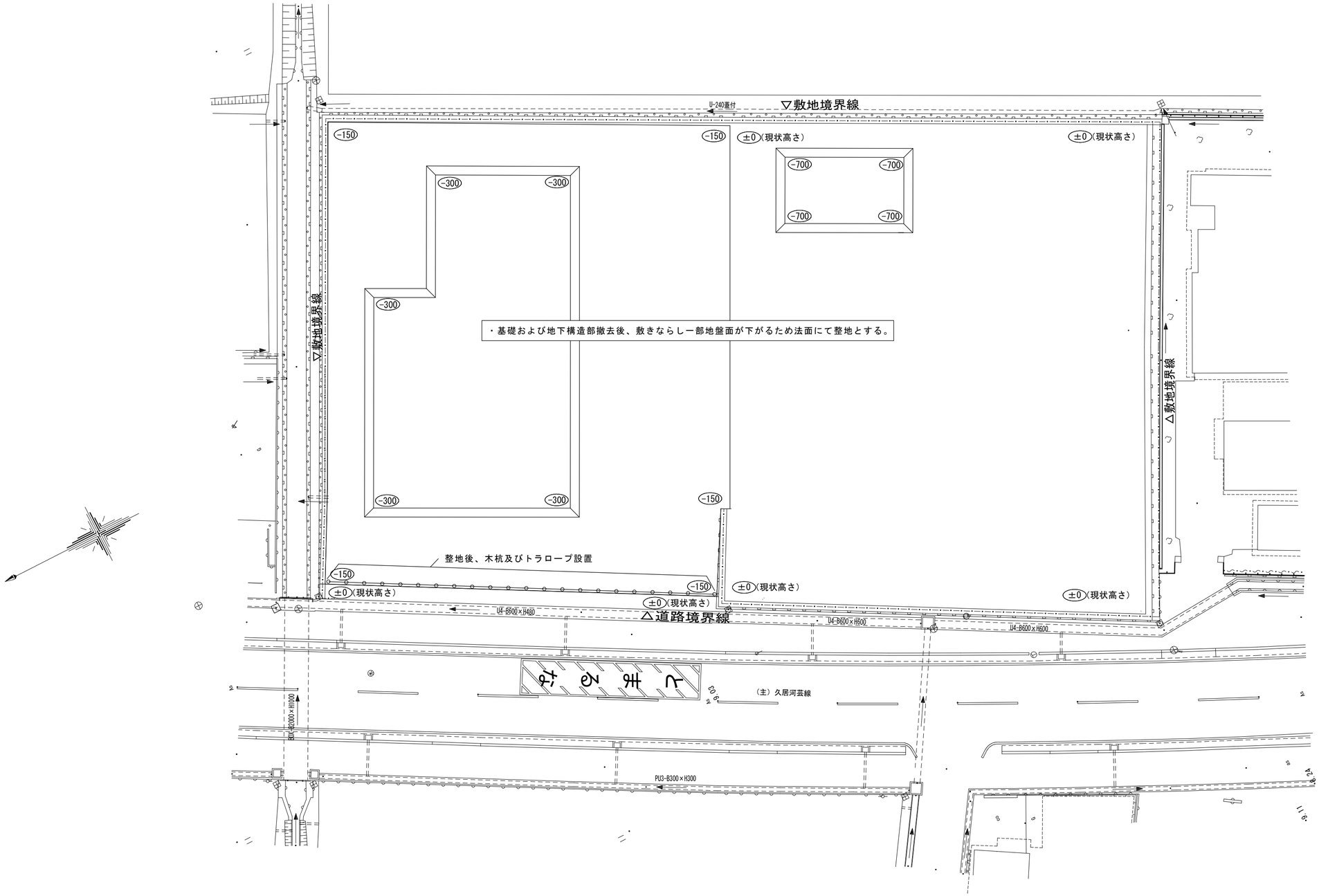
NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事		令和　年　月
			A-38
	屋外付帯工事　詳細図-2　1/30	原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事		令和　年　月
	総合仮設計画　配置図　1/200	原図：A2	A-39
			管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

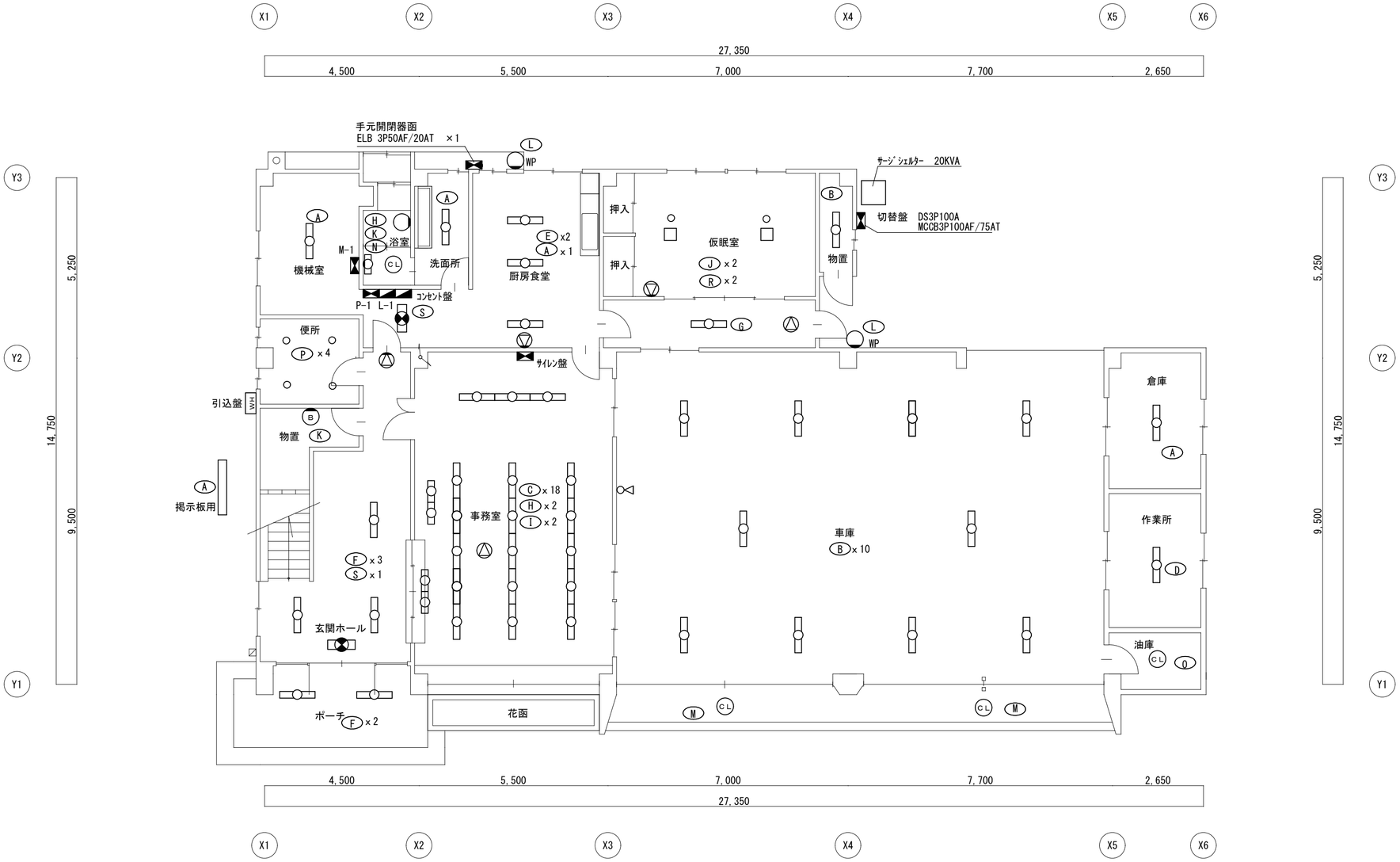


NAGAOKA 一級建築士事務所 長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事		令和 年 月
	造成計画図 1/200	原図：A2	A-40
			管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月
			E-1
		電気設備　配置図　1/200　原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



注記
※　図中の設備は既設を示し、撤去処分とする。
※　水銀使用製品は産業廃棄物として関係法令により適切に処理すること。
※　配管配線は可能な限り分別して撤去とする。

引込盤撤去リスト

電灯用ﾒｰﾀｰ　×1
動力用ﾒｰﾀｰ　×1

電灯分電盤(L-1) 撤去リスト

ELB 3P100AF/75AT　×1
MCCB 3P100AF/75AT　×1
MCCB 2P20AF/20AT　×1
MCCB 1P20AF/20AT　×23
MCCB 1P30AF/30AT　×1

ｺﾝｾﾝﾄ盤撤去リスト

MCCB 2P20AF/20AT　×3

動力分電盤(P-1) 撤去リスト

ELB 3P225AF/150AT　×1
MCCB 3P100AF/100AT　×1
MCCB 3P100AF/30AT　×1
MCCB 3P50AF/20AT　×2

動力分電盤(M-1) 撤去リスト

ELB 3P100AF/100AT　×1
MCCB 3P100AF/100AT　×1
MCCB 3P100AF/60AT　×1
MCCB 3P50AF/20AT　×1

ｻｲﾚﾝ盤撤去リスト

MCCB 3P50AF/30AT　×1

屋上アンテナ撤去リスト

UHF-22素子
VHF-12素子

放送設備撤去リスト

記号	適用・仕様	個数
△	埋込ｽﾋﾟｰｶ	4
▽	壁掛ｽﾋﾟｰｶ	3
○◁	ﾎｰﾝｽﾋﾟｰｶ	2

照明器具撤去リスト

記号	適用・仕様	備考	個数
A	FL-40W×1	露出　直管	6
B	FL-40W×1	露出　防水　直管	11
C	FL-40W×1	埋込　直管	19
D	FL-40W×2	露出 直管	1
E	FL-40W×2	埋込　直管	14
F	FL-40W×2	ｼｰﾘﾝｸﾞ 埋込 直管	7
G	FL-20W×1	埋込　直管	1
H	FL-20W×1	ﾌﾞﾗｹｯﾄ 露出 直管	3
I	FL-20W×1	ｼｰﾘﾝｸﾞ 露出 直管	2
J	FL-20W×4	ｼｰﾘﾝｸﾞ　直管	2
K	IL-60W	ﾌﾞﾗｹｯﾄ	2
L	IL-60W	ﾌﾞﾗｹｯﾄ　防水	3
M	IL-60W	ﾌﾞﾗｹｯﾄ　赤色	2
N	IL-60W	ｼｰﾘﾝｸﾞ	1
O	IL-60W	防爆	1
P	LEDﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	4
Q	MH250W	投光器	2
R	LED非常照明	埋込	2
S	FL20W×1	誘導灯	3

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

電気設備　1階平面図　1/100

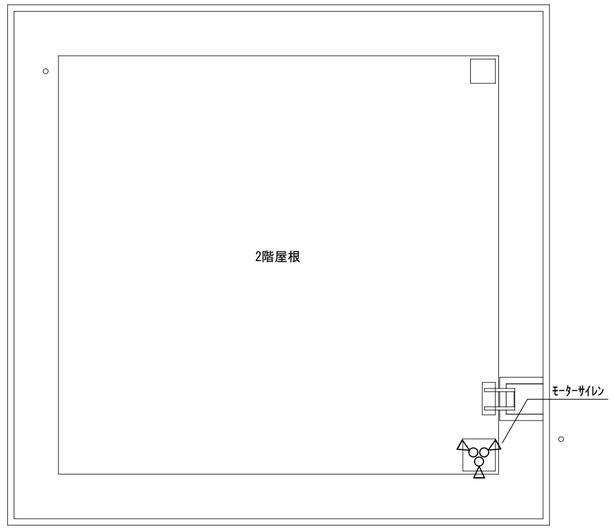
原図：A2

令和　年　月

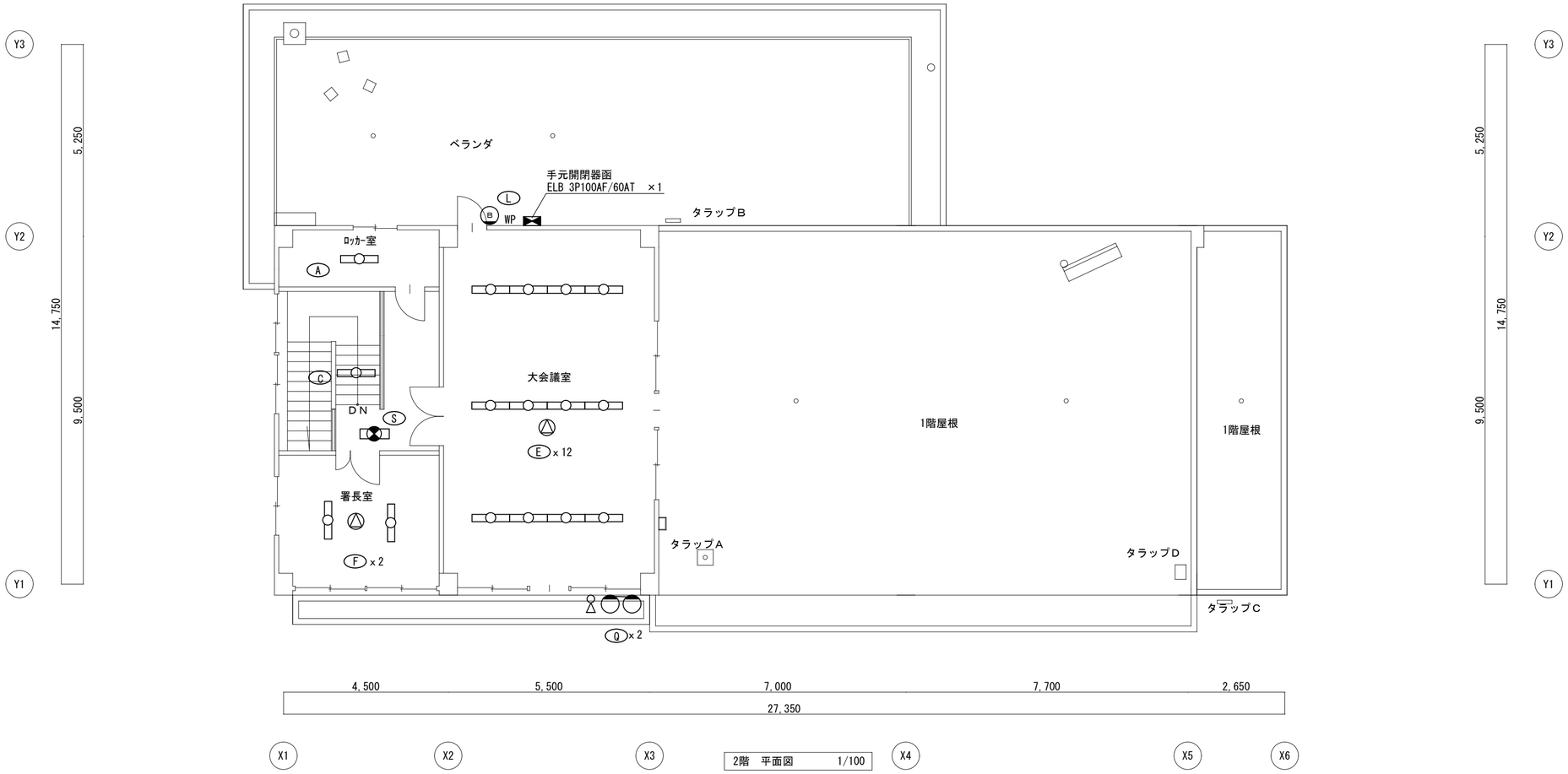
E-2

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



屋根伏図　1/100



2階　平面図　1/100

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

電気設備　2階平面図　屋根伏図　1/100

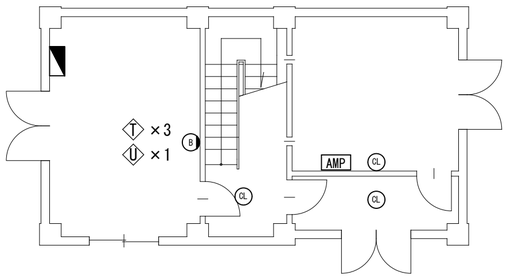
原図：A2

令和　年　月

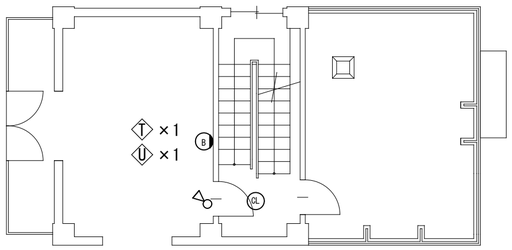
E-3

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

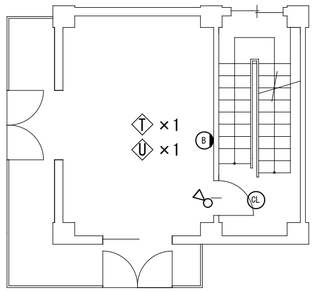
参考図



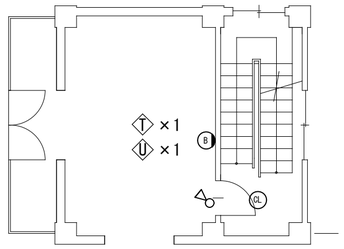
1階平面図



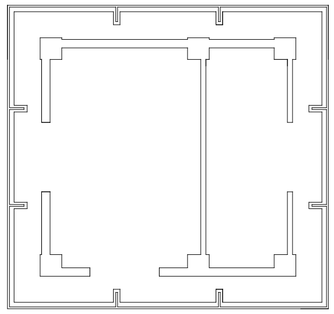
2階平面図



3階、5階平面図



4階、6階平面図



屋階平面図

撤去器具リスト

記号	適用・仕様	備考	個数
T	IL-60W	ｼｰﾘﾝｸﾞ　露出	8
U	IL-60W	ﾌﾞﾗｹｯﾄ　露出	6
▷○	ﾎｰﾝｽﾋﾟｰｶ	WT-108A	5
◢	MCB収納函	MCB2P2E20A	1
AMP	増幅器10W	WA-112	1

注記
※　図中の設備は既設を示し、撤去処分とする。
※　水銀使用製品は産業廃棄物として関係法令により適切に処理すること。
※　配管配線は可能な限り分別して撤去とする。

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

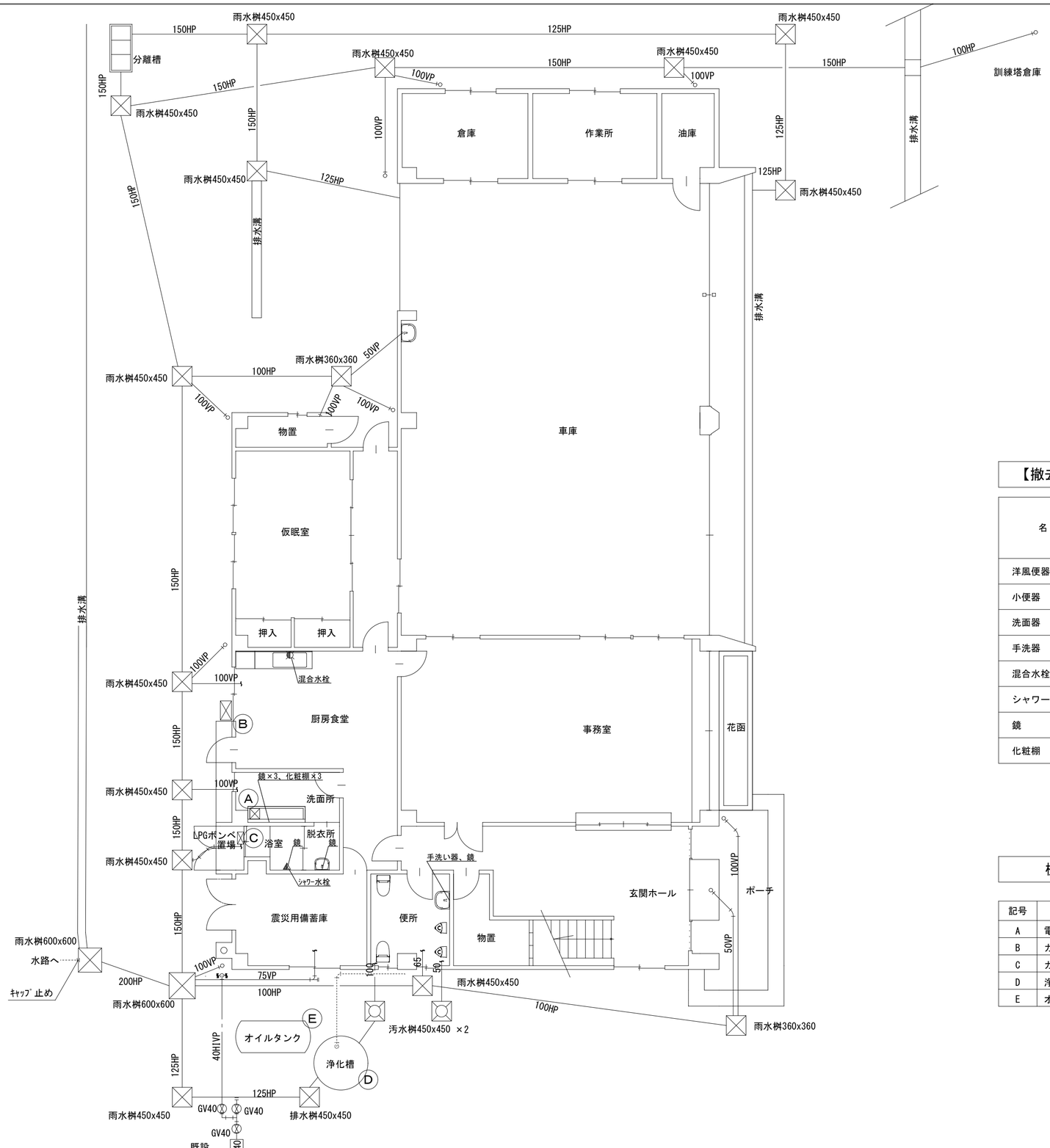
電気設備　訓練搭平面図　1/100　原図：A2

令和　年　月

E-4

管理建築士　一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図



【撤去】衛生器具表

名　　称	便所	事務室	厨房・食堂	洗面所	脱衣所	浴室	車庫	屋外	合計
洋風便器（タンク式）	2								2
小便器	2								2
洗面器					1				1
手洗器	1						1		2
混合水栓			1						1
シャワー水栓						1			1
鏡	1			3	1	1			6
化粧棚				3					3

凡　例

——— · ———	【撤去】給水管
———————	【撤去】排水管
---------- · ----------	【既設】給水管
----------	【既設】排水管
WM40	【撤去】量水器
⊗	【撤去】仕切弁
⊗	【既設】仕切弁
⊡	【撤去】汚水桝
⊠	【撤去】雨水枡

機器リスト

記号	機 器 名	仕　様	数
A	電気温水器	12 L　形名:EHPN-CA12S4 (LIXIL)	1
B	ガス給湯器	壁掛け　24 号　形名:FH-E247AWL (パロマ)	1
C	ガス集合装置	50 kg　2本立て	1
D	浄化槽	20人槽	1
E	オイルタンク	1,800 L　※砂充填・埋め立て済	1

撤去工事区分
※既設給水管は既設ﾒｰﾀｰﾎﾞｯｸｽ内にてｷｬｯﾌﾟ止めを行うこと。
※既設雨水配管は最終桝まで撤去を行い、ｷｬｯﾌﾟ止めを行うこと。

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

給排水衛生設備　平面図　1/100

原図：A2

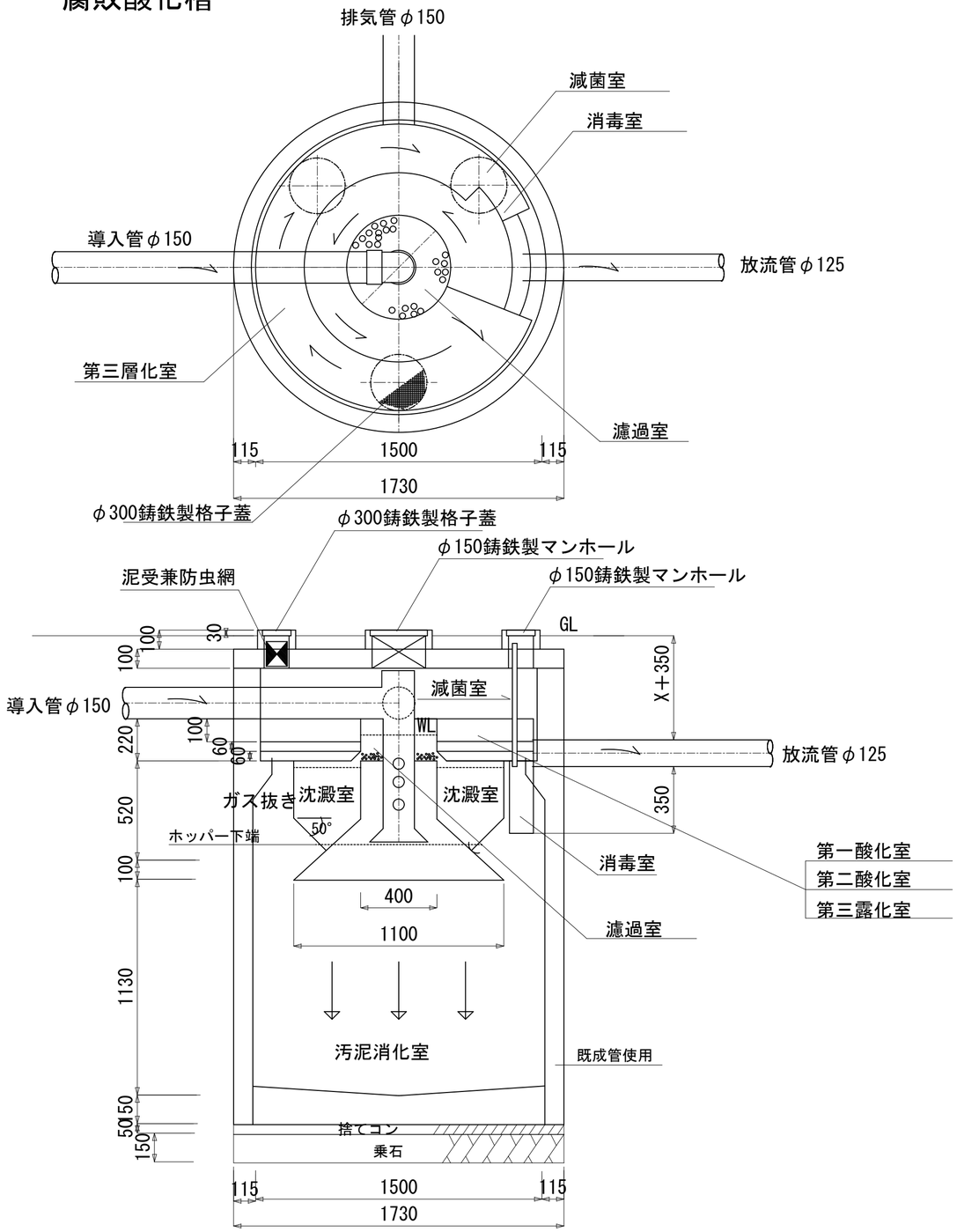
令和　年　月

M-1

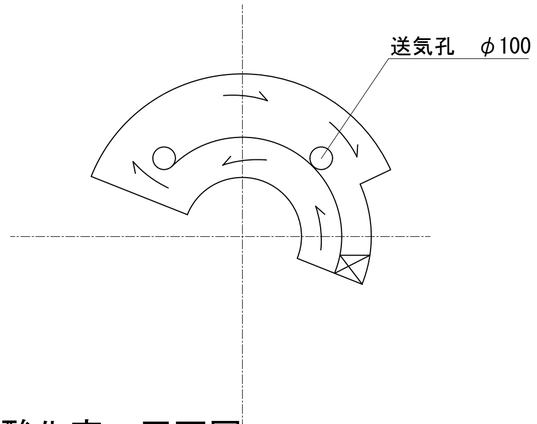
管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図

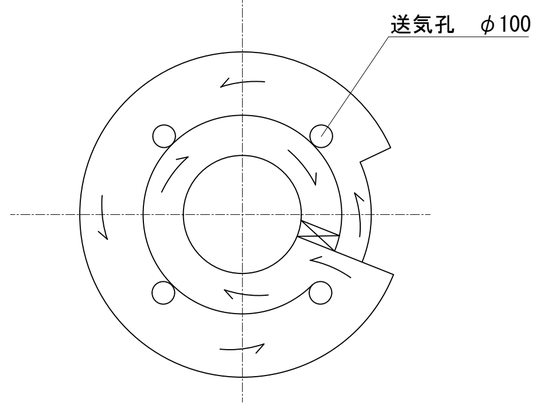
腐敗酸化槽



第一酸化室　平面図



第二酸化室　平面図



容量表

名称	径	面積	深さ	容積
汚泥消化室	1,500		1,130	1,996
沈澱室	1,100		0,520	0.337
排気室	1,500		0,620	0.729
腐敗室(合計)	1,500		1,750	3.062
第一酸化室	1,500			0.712
第二酸化室	1,500			1.475
第三露化室	1,500			1.431
酸化室(合計)				3.618
濾過室	0.400		0.150	0.018
消毒室		0.085	0.350	0.029

20人槽(参考図)

NAGAOKA 一級建築士事務所　長岡　設計

津市中消防署西分署解体工事

給排水衛生設備　浄化槽詳細図　1/20

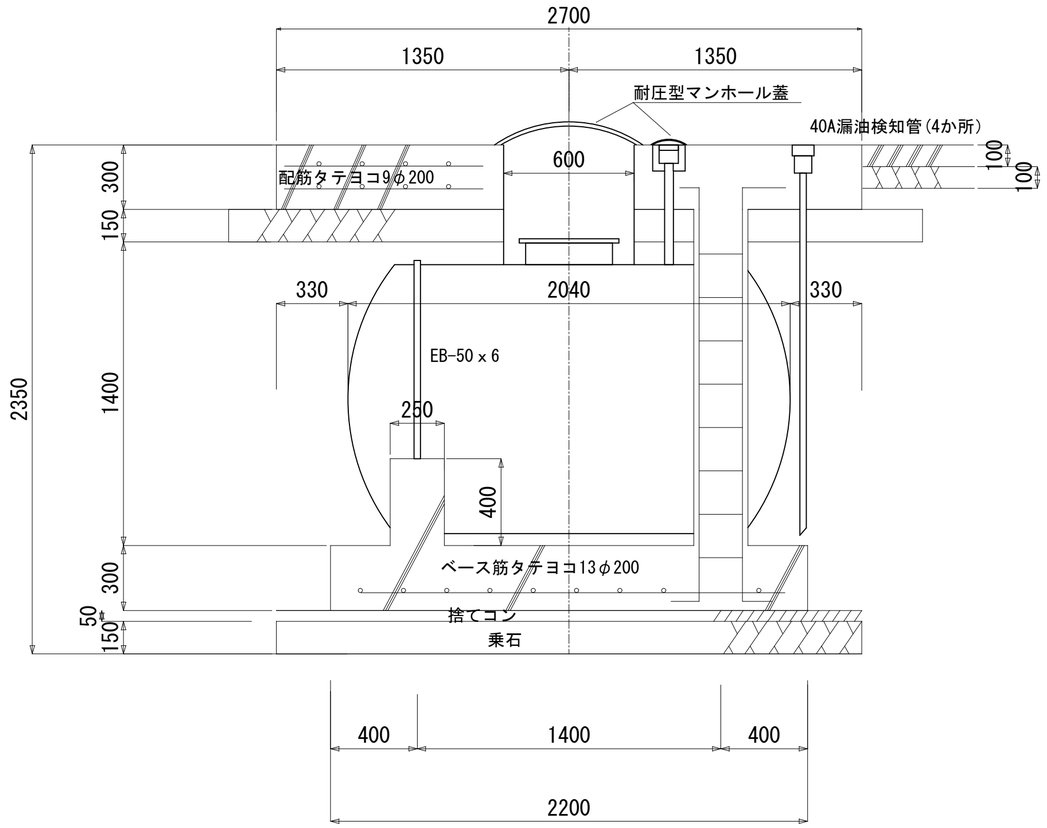
原図：A2

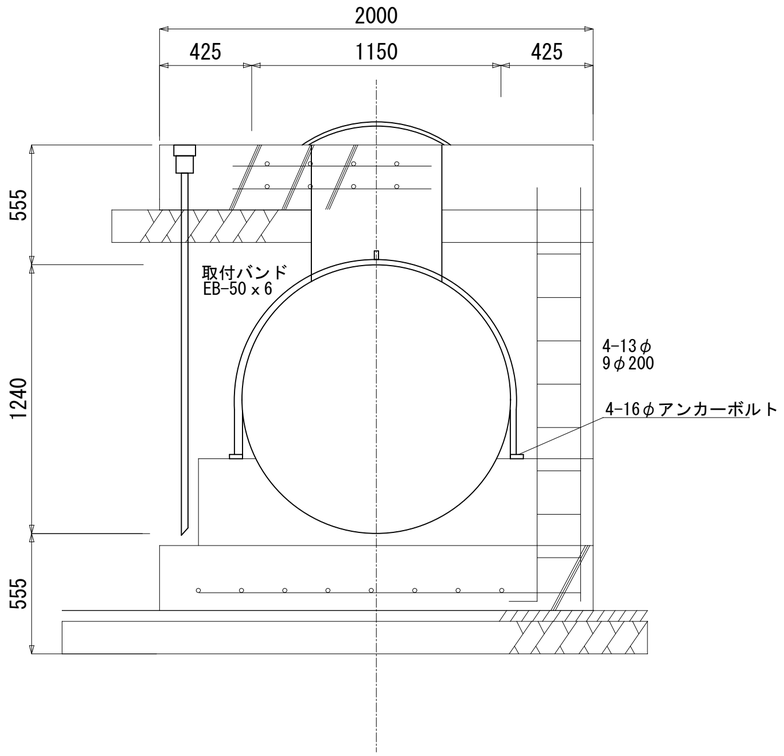
令和　年　月

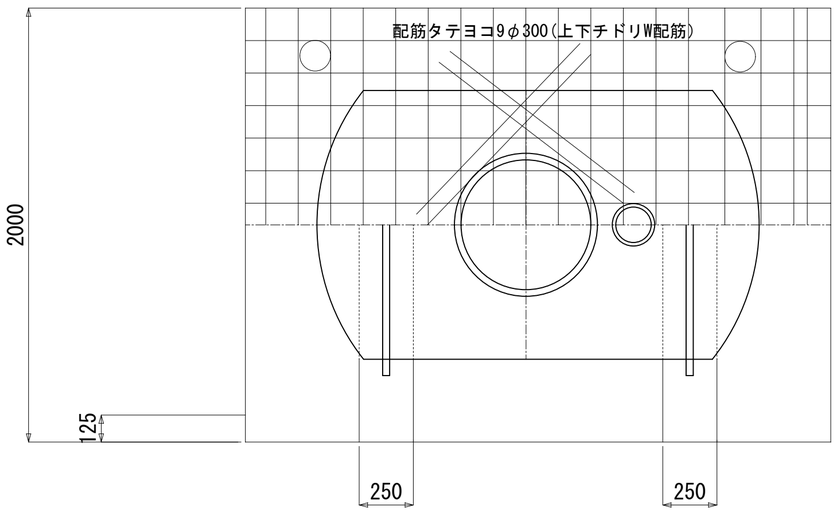
M-2

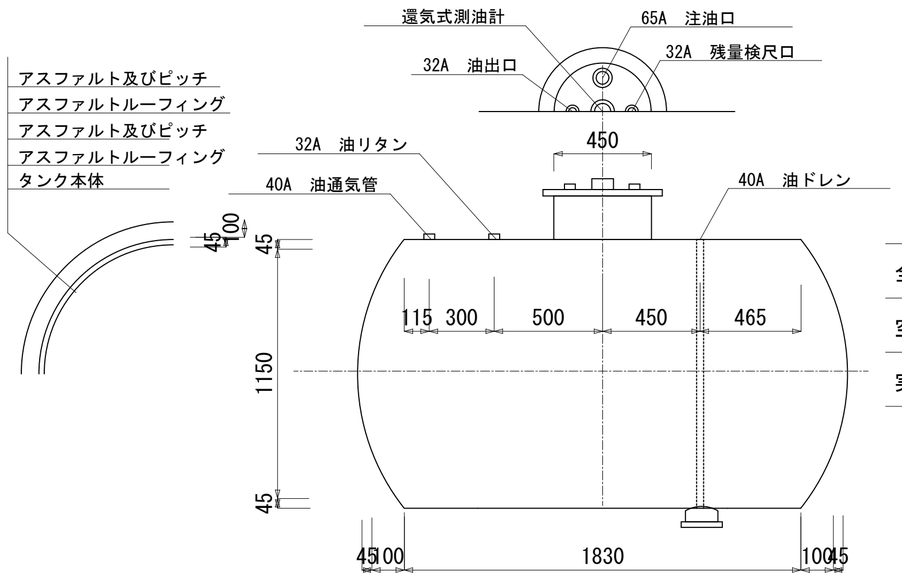
管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明

参考図









容量計算

全容量	$115^2 \times \pi/4(1.83+0.1+0.1/3)$ ＝1.969kl
空間容量	1969kl x8.58%=0.169kl
実容量	1969kl -0.169kl=1.800kl

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡 設計	津市中消防署西分署解体工事	令和 年 月
		空調設備 オイル主タンク詳細図 1/20	M-3
		原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号 長岡 忠明

参考図

機器リスト

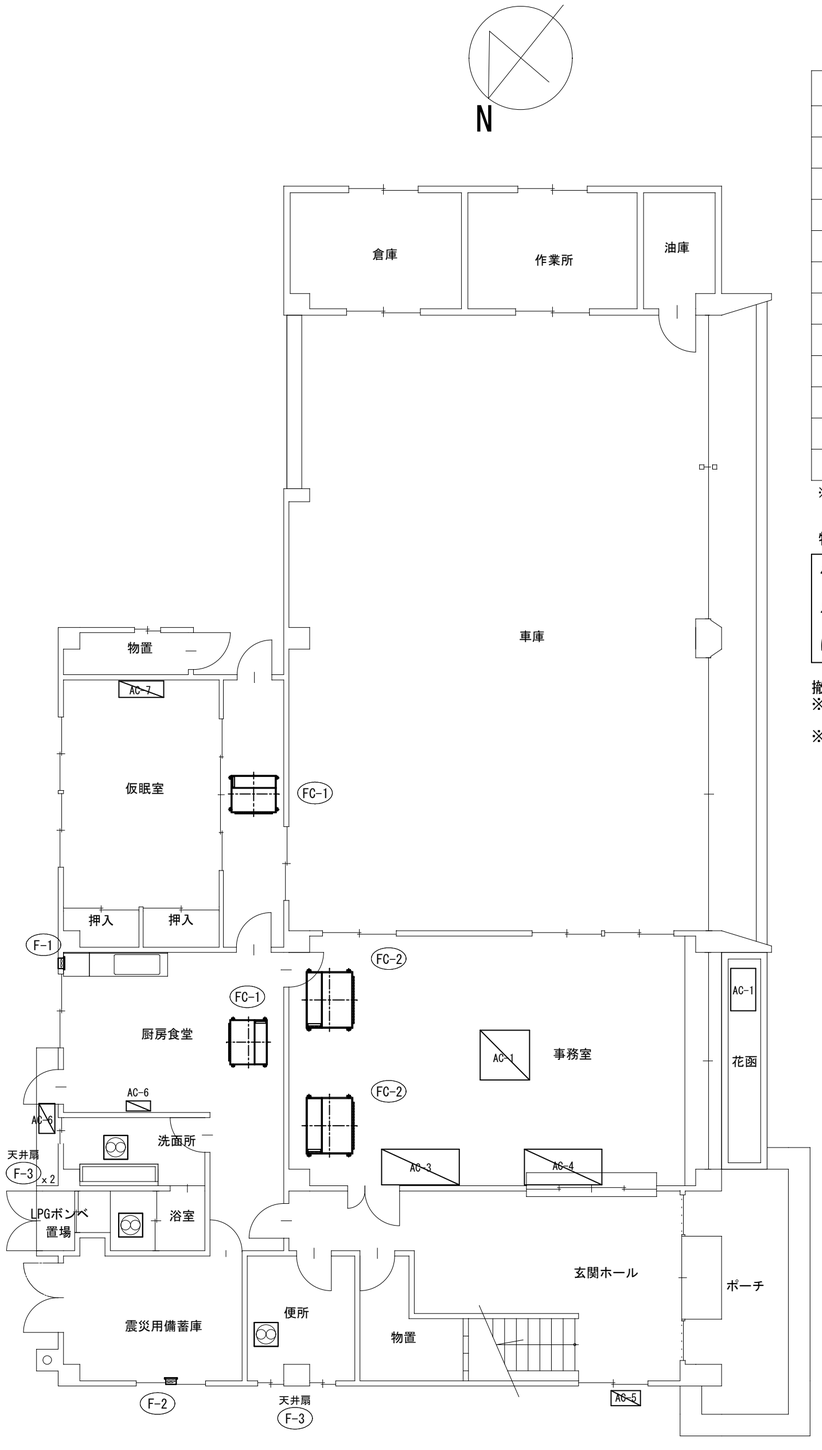
記号	機 器 名	仕 様	台数
FC-1	ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ	天井埋込形　風量:1,120 m3/h	2
FC-2	ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ	天井埋込形　風量:1,120 m3/h	2
AC-1	ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	天ｶｾ4方向　冷房能力:11.2 kW　形名:RZYP112M、FHYCP112M（ﾀﾞｲｷﾝ）	1
AC-2	ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	天ｶｾ4方向　冷房能力:11.2 kW　形名:RYJ112L、FHYCJ112L（ﾀﾞｲｷﾝ）	1
AC-3	ﾋﾞﾙ用ﾏﾙﾁｴｱｺﾝ	天吊形　冷房能力: 7.1 kW　形名:PCHY-63K（三菱電機）　※室内機のみ	1
AC-4	ﾋﾞﾙ用ﾏﾙﾁｴｱｺﾝ	天吊形　冷房能力: 7.1 kW　形名:PCHY-63K（三菱電機）　※室内機のみ	1
AC-5	ﾙｰﾑｴｱｺﾝ	壁掛け形　冷房能力: 3.4 kW　形名:MUCZ-G2819、MSZ-GV2819（三菱電気）	1
AC-6	ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	壁掛け形　冷房能力: 5.6 kW　形名:RAS-AP63HVM3、RPK-AP63K1（日立）	1
AC-7	ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	壁掛け形　冷房能力: 3.6 kW　形名:RAS-AP40SHJ2、RPK-AP40K2（日立）	1
F-1	換気扇	250φ　フード付	1
F-2	換気扇	200φ　給排気フード付	1
F-3	換気扇	100φ　ベンドキャップ付	3

※AC-3、AC-4の室外機は撤去済み

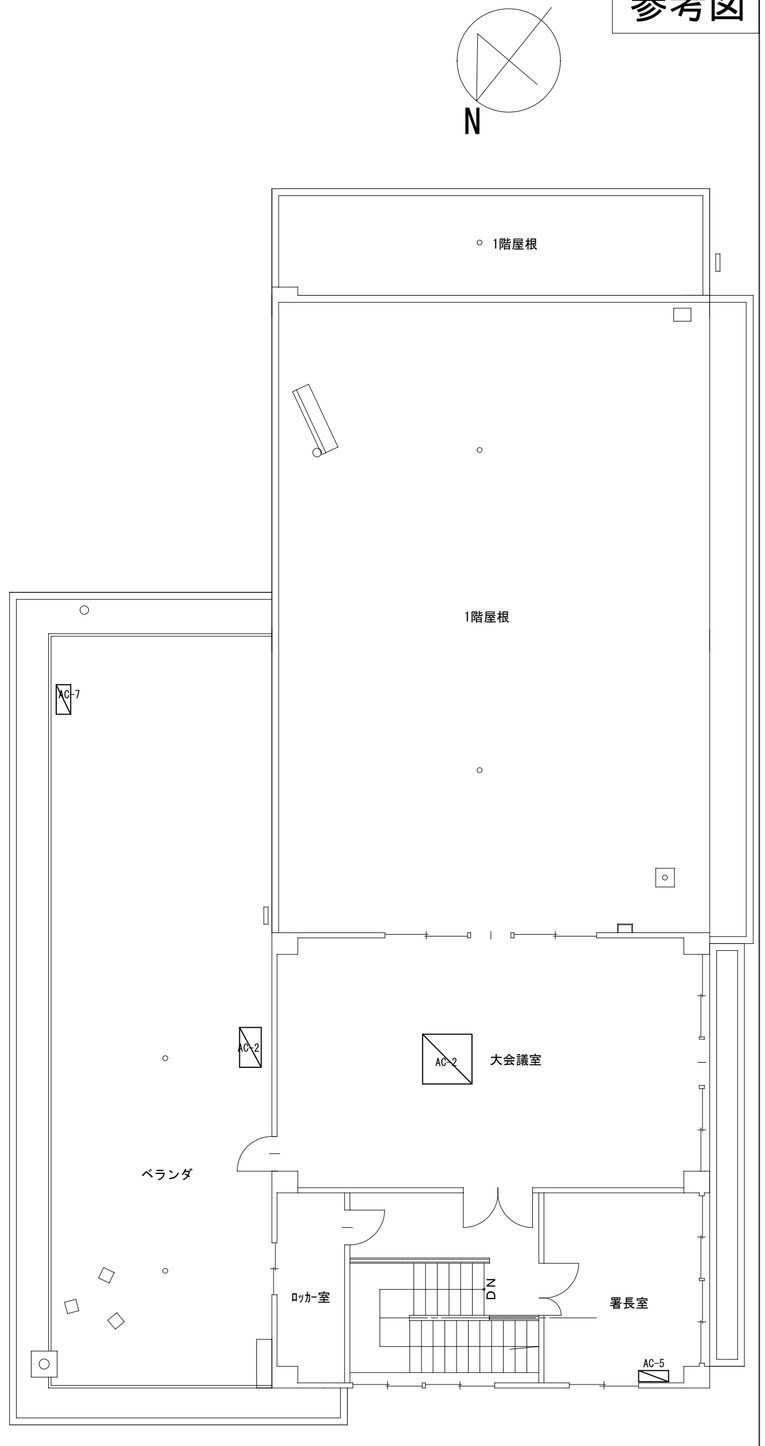
特記事項

パッケージエアコンの撤去処分については、
「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律」
ルームエアコンの撤去処分については、
「特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）」
に基づき適正に処理すること。

撤去工事区分
※実線の機器及び桝、配管の撤去は機械設備工事とし、建物に付随する
　配管撤去は建築解体工事とする。
※図面の記載なき機器、露出配管の撤去も機械設備工事として処理のこと。



1階平面図



2階平面図

NAGAOKA 一級建築士事務所	長岡　設計	津市中消防署西分署解体工事	令和　年　月
		空調換気設備　平面図　1/100	M-4
		原図：A2	管理建築士 一級建築士第236153号　長岡　忠明